C-Class

Coupé

取扱説明書

表記と記載内容について

マーク	内容
*	オプションや仕様により異なる装備には * マークが付いています。
⚠	**警告** 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
(環境マーク)	**環境** 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。
!	**注意** けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
i	**知識** 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
▶	操作手順などを示しています。
(▷ ページ)	関連する内容が他のページにもあることを示しています。

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様には設定されない装備の記述が含まれている場合があります。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/h を超えたときの車両機能や状態などについての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

メルセデス・ベンツ日本㈱ 公式サイト
http://www.mercedes-benz.co.jp/

メルセデス・ベンツ日本株式会社

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

N

P

S

数字

環境保護について

Daimler AG では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- 短距離短時間の走行を控えることで、燃料の余分な消費を抑えられます。
- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を車に載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。
- エンジン始動時は、アクセルペダルを踏み込まないでください。
- 慎重に運転をし、前車との車間距離を適切に保ってください。

環 境

Daimler AG は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

安全のために

警告ラベル

車両には警告ラベルが貼付されています。警告ラベルには危険な状況を回避するための情報や、車を安全に使用するための情報などが記されています。警告ラベルは絶対にはがさないでください。

診断ソケット

⚠ 警 告

診断ソケットに機器を接続すると、車両システムの作動に影響を及ぼすおそれがあります。これにより、車両安全性が損なわれます。事故の危険性があります。

診断ソケットには、いかなる機器も接続しないでください。

⚠ **警告**

診断機器や機器のケーブルを診断ソケットに接続すると、ペダル操作の障害になります。突然のブレーキ操作やアクセル操作の際に機器やケーブルがペダルの間に挟まることがあります。その結果、ペダルの動きが妨げられ、事故を起こすおそれがあります。

運転席の足元にはいかなる機器やケーブルも接続しないでください。

! エンジンが停止している状態で診断ソケットに機器を接続すると、バッテリーを消耗します。

診断ソケットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場での診断機器の接続のために装備されています。

診断ソケットに機器を接続すると、排出ガスのモニター情報がリセットされるおそれがあります。これにより、次回の車両検査時に排出ガス基準に適合しなくなることがあります。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場には、車両に適切な作業を行なうために必要な専門知識と専用工具、ならびに設備が備わっています。上記の内容は、特に安全に関わる作業について重要です。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

- 安全に関わる作業
- 点検および整備
- 修理作業
- 装備などの変更や装着、加工作業
- 電気装備に関わる作業

点検整備は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

保証の適用

車両の操作を行なうときや車両に損傷が発生したときは、必ず本書に記載されている指示に従ってください。指示に従わないで発生した車両の損傷については、保証の対象外になります。

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけトランクに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
- 後席ヘッドレストの後方のスペースに荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストよりも、高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、ひざの上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6 歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷43 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置に触れるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席の左右いずれかに装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。

ドアウインドウやパノラミックスライディンググルーフ * の開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやパノラミックスライディンググルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「走行と停車」もあわせてお読みください（▷123 ページ）。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーが P、N 以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

セレクターレバーが P に入っていることを確認して、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- セレクターレバーを D、R に入れるときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

走行中

- 走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。また、安全装備が作動しなくなるおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが走行位置に入ると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂などでは、アクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 完全に停車する前に、セレクターレバーを P に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずセレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにセレクターレバーを P か N に戻すように心がけてください。R に入っていることを忘れてアクセルペダルを踏み込み、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れするおそれがあります。

ライターに関する注意事項

- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

  荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災が発生するおそれがあります。

給油に関する注意事項

給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- エンジンオイルには添加剤を入れないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。
- 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の対象外になります。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

車両に保存されるデータ

故障データ

車両には、故障時や異常時のデータを保存する機能があります。

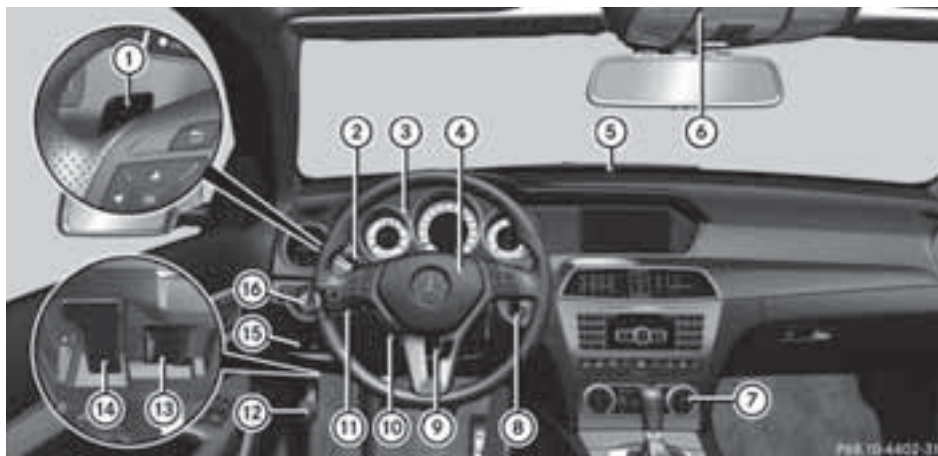
保存されたデータは、安全装備などが作動するとき、または故障や異常の原因の特定、車両開発などに使用されます。データを使用して、車両の過去の移動経路を調べることはできません。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、故障診断機によって読み取られたデータは、使用後に消去されます。

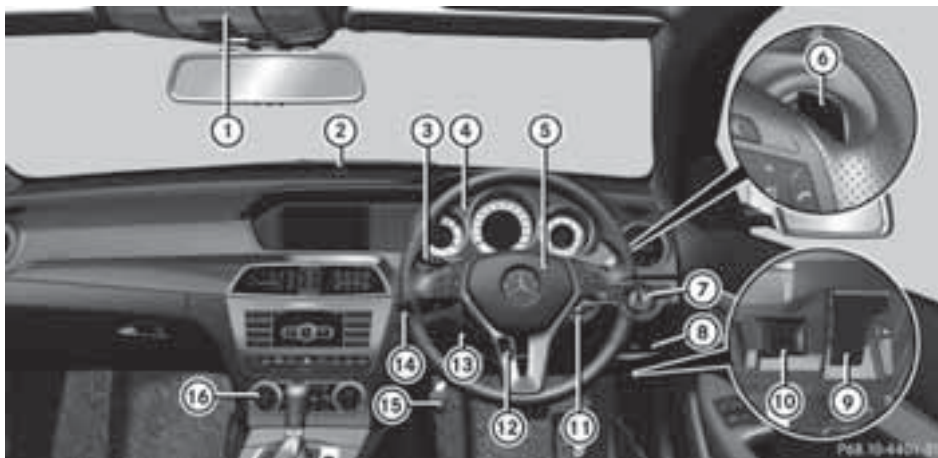
データが保存されるその他の装備

COMAND システムでは、ナビゲーションや電話などでデータを保存したり、編集することができます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

インストルメントパネル

左ハンドル車

	名称	ページ
①	パドル *	139
②	クルーズコントロールレバー / 可変スピードリミッターレバー	177 180
③	メーターパネル	145
④	ホーン 運転席エアバッグ	 38
⑤	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯 *	190
⑥	前席上方の操作部	29
⑦	エアコンディショナーコントロールパネル	210
⑧	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ *	79 80
⑨	ステアリング調整ロック解除ハンドル *	89
⑩	ステアリング調整レバー *	90
⑪	コンビネーションスイッチ ヘッドライト 方向指示 ワイパー	 106 105 114
⑫	パーキングブレーキペダル	131
⑬	診断ソケット	13
⑭	ボンネットロック解除レバー	248
⑮	パーキングブレーキ解除ハンドル	131
⑯	ライトスイッチ	101

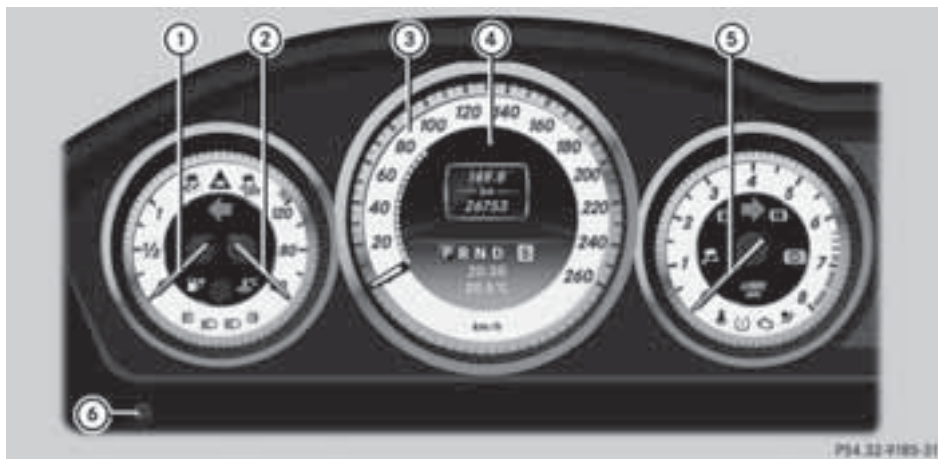
* オプションや仕様により、異なる装備です。

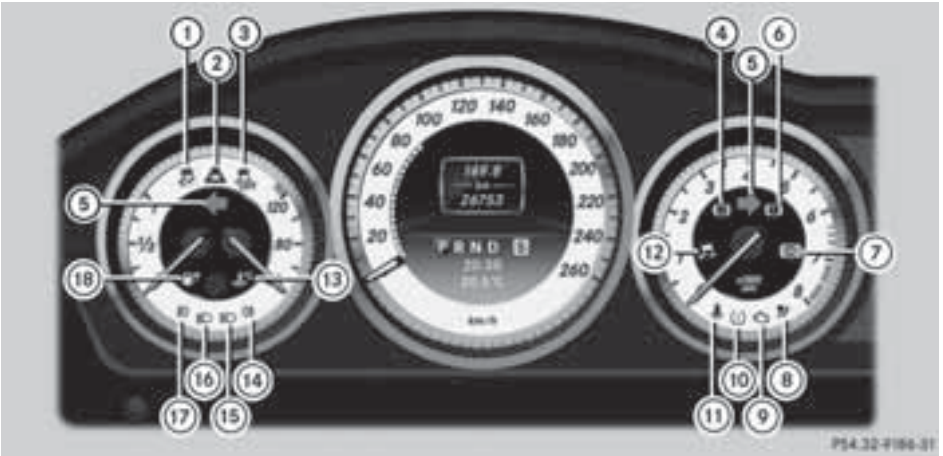
右ハンドル車

	名称	ページ
①	前席上方の操作部	29
②	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯 *	190
③	クルーズコントロールレバー / 可変スピードリミッターレバー	177 180
④	メーターパネル	145
⑤	ホーン 運転席エアバッグ	 38
⑥	パドル *	139
⑦	ライトスイッチ	101
⑧	パーキングブレーキ解除ハンドル	131
⑨	ボンネットロック解除レバー	248

	名称	ページ
⑩	診断ソケット	13
⑪	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ *	79 80
⑫	ステアリング調整ロック解除ハンドル *	89
⑬	ステアリング調整レバー *	90
⑭	コンビネーションスイッチ ヘッドライト 方向指示 ワイパー	 106 105 114
⑮	パーキングブレーキペダル	131
⑯	エアコンディショナーコントロールパネル	210

* オプションや仕様により、異なる装備です。

メーターパネル

メーターパネル

	名称	ページ
①	燃料計	145
②	エンジン冷却水温度計	145
③	スピードメーター	146
④	マルチファンクションディスプレイ	147
⑤	タコメーター	146
⑥	メーターパネル照度調整ノブ	145

表示灯 / 警告灯

	名称	ページ
①	ESP® 表示灯	52
	SPORT スポーツハンドリングモード表示灯（C 63 AMG）	56
②	日本仕様車では機能しません	
③	ESP® オフ表示灯	55 57
④	ブレーキ警告灯	309 310 312
⑤	方向指示表示灯	105 107
⑥	日本仕様車では機能しません	
⑦	ABS 警告灯	309 310

	名称	ページ
⑧	SRS 警告灯	33
⑨	エンジン警告灯	313
⑩	日本仕様車には装備されません	
⑪	シートベルト警告灯	99
⑫	ESP® 表示灯（C 63 AMG）	57
⑬	冷却水警告灯	313 314
⑭	リアフォグランプ表示灯	103
⑮	ハイビーム表示灯	106
⑯	ヘッドライト表示灯	102
⑰	フロントフォグランプ表示灯 *	102
⑱	燃料残量警告灯	145

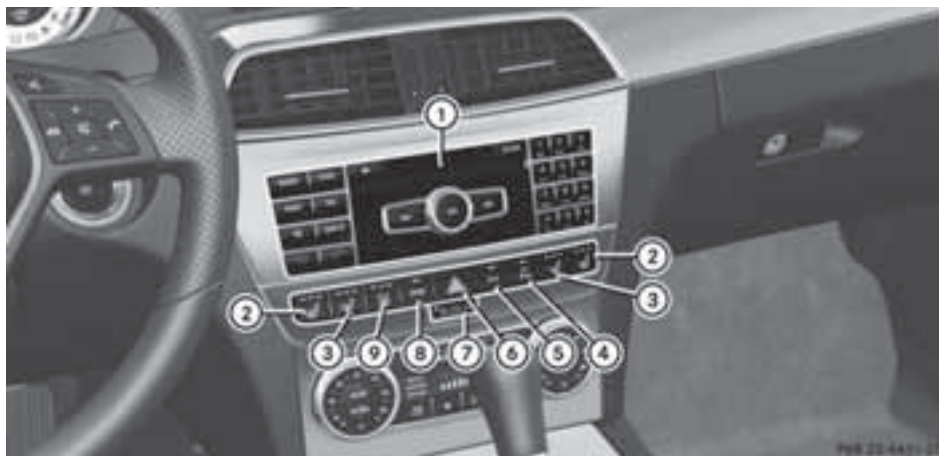
* オプションや仕様により、異なる装備です。

マルチファンクションステアリング

左ハンドル車

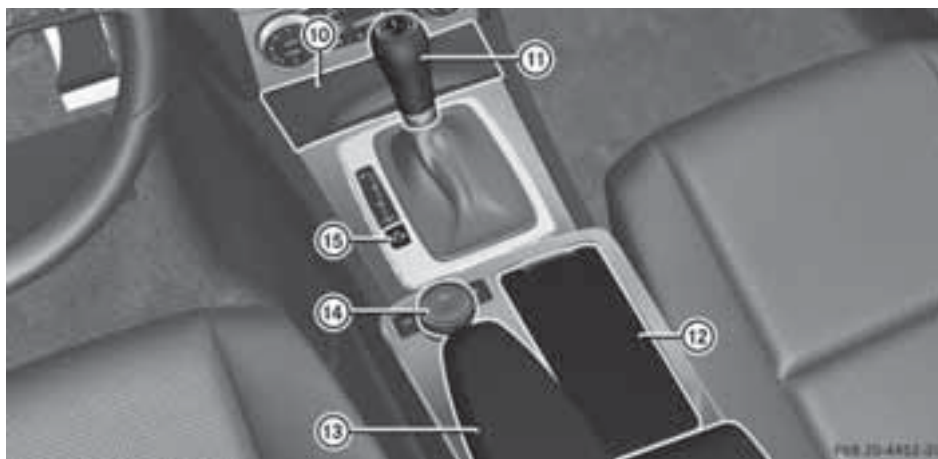
	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	147
②	COMAND ディスプレイ	別冊
③	音声認識スイッチ	149
④	通話開始 / 終了スイッチ（電話） [+] [−] 音量スイッチ 消音スイッチ	149
⑤	[◀] [▶] スクロールスイッチ（メインメニューの選択） [▲] [▼] スクロールスイッチ（サブメニューの選択 / リストのスクロール） [OK] 確定スイッチ	148
⑥	リターンスイッチ / 音声認識解除スイッチ	149

センターコンソール

センターコンソール上部

	名称	ページ
①	COMAND コントロールパネル	別冊
②	シートヒータースイッチ *	87
③	シートベンチレータースイッチ *	88
④	パークトロニックオフスイッチ *	191
⑤	ECO ECO スタート / ストップスイッチ *	128

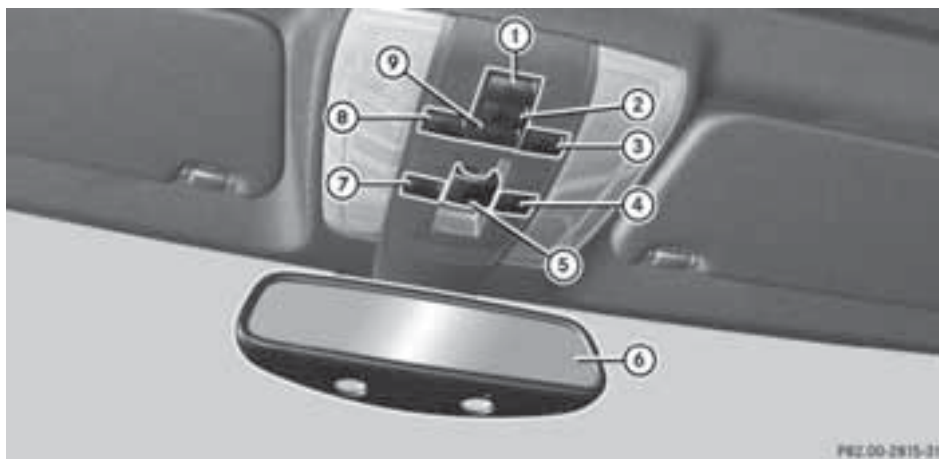
	名称	ページ
⑥	非常点滅灯スイッチ	106
⑦	盗難防止警報システム表示灯 *	59
⑧	SPORT スポーツモードスイッチ *	183
	ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ (C 63 AMG)	56 57
⑨	日本仕様車では装備されません	

* オプションや仕様により、異なる装備です。

センターコンソール下部

	名称	ページ
⑩	灰皿 ライター	235 236
⑪	セレクターレバー	123 134
⑫	センターコンソールのカップホルダー	234

	名称	ページ
⑬	フロントアームレストの小物入れ	228
⑭	COMAND コントローラー	別冊
⑮	走行モード選択スイッチ	136

ⓘ C 63 AMG には、走行モード選択スイッチの代わりに、走行モード選択ダイヤルが装備されます。

前席上方の操作部

	名称	ページ
①	リアルームランプスイッチ	111
②	点灯モード切り替えスイッチ	111
③	フロント読書灯（右側）スイッチ	111
④	けん引防止機能解除スイッチ *	60
⑤	パノラミックスライディングルーフスイッチ *	221

	名称	ページ
⑥	ルームミラー	91
⑦	室内センサー解除スイッチ *	61
⑧	フロント読書灯（左側）スイッチ	111
⑨	フロントルームランプスイッチ	111

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ドアの操作部

運転席ドア（左ハンドル車）

	名称	ページ
①	ドアレバー	73
②	[アンロック] [ロック] ドアロックスイッチ	74
③	シート調整スイッチ *	83
④	M 1 2 3	
	ポジションスイッチ *	96
	メモリースイッチ *	96
⑤	[選択] [左] [調整] [右]	
	ドアミラー選択スイッチ	92
	ドアミラー調整スイッチ	92
	ドアミラー格納 / 展開スイッチ	92
⑥	ドアウインドウスイッチ	117
⑦	トランクオープナースイッチ	77

* オプションや仕様により、異なる装備です。

乗員安全装備

安全上の重要事項

シートベルトやSRS（乗員保護補助装置）は、効果を高めるために補い合い、連携する乗員保護装置です。

これらは、想定される事故の状況において、乗員が負傷する可能性を最小限に抑えて安全性を高めます。

シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置を適切に機能させるため、以下のことに注意してください。

- シートやヘッドレストは正しい位置に調整してください（▷82 ～ 84 ページ）。
- シートベルトを正しく着用してください（▷96 ページ）。
- エアバッグの作動が妨げられていないことを確認してください（▷35 ページ）。
- ステアリングを正しい位置に調整してください。
- 乗員保護装置を改造しないでください。

ⓘ エアバッグはシートベルトを正しく着用しているときのみ、乗員保護機能を高めることができます。しかし、エアバッグは組み合わされることで効果を発揮する付加的な保護補助装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。エアバッグが装備されていても、必ず乗員全員がシートベルトを正しく着用してください。

また、エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。状況によっては、乗員が正しくシートベルトを着用している場合は、エアバッグが作動しても乗員保護効果が高まらないことがあります。

以下の理由から、エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。

- シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの適切な位置関係を保つことができます。
- シートベルトを着用することで、正面からの衝突のときなどに乗員が前方に投げ出されるのを防ぎます。これにより、けがの危険性を減らすことができます。

したがって、衝突時にエアバッグが作動したときは、エアバッグは正しく着用されたシートベルトの保護機能に加えて効果を発揮します。

⚠ **警告**

不適切な作業を行なうと、車両の走行安定性が損なわれる可能性があります。その結果、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、安全装備が正常に作動しなくなり、乗員保護効果が得られないおそれがあります。

点検整備や修理などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

⚠ **警告**

乗員保護装置の以下の構成部品を改造したり、不適切な作業を行なわないでください。正常に作動しなくなるおそれがあります。

- シートベルトやベルトアンカー、シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグを含む乗員保護装置
- 配線
- 車載ネットワークで接続された電子制御部品

衝突時の衝撃の強さが乗員保護装置が作動するレベルに達していても、エアバッグとシートベルトテンショナーが作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。決して乗員保護装置を改造しないでください。

また、絶対に車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

SRS（乗員保護補助装置）

SRSは以下の装備により構成されます。

- SRS 警告灯
- エアバッグ
- エアバッグコントロールユニット（クラッシュセンサーを含む）
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター

SRS 警告灯

イグニッション位置を **1** にすると点灯し、数秒後に消灯します。

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときは、一定間隔で自己診断を行ない、SRS の異常を検出します。

⚠ **警告**

以下のようなときは、SRS に異常が発生しています。衝撃を受けてもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれや、不意に作動するおそれがあります。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに SRS 警告灯が点灯しないとき
- イグニッション位置を **1** にしたときは数秒後に、イグニッション位置を **2** にしたときはエンジン始動後に SRS 警告灯が消灯しないとき
- エンジンがかかっているときなどに SRS 警告灯が点灯したとき

ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動は、衝撃の強さによって変わります。

衝突などで衝撃が発生した際、センサーは衝撃の強さや方向などを検知し、シートベルトテンショナーを作動させる必要があるか判断します。

さらに車両の縦方向に一定以上の衝撃を検知したときに、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

ℹ 事故の状況によってはエアバッグが作動しない場合があります。

事故の際にすべてのエアバッグが作動するわけではありません。

各エアバッグの作動条件はそれぞれ異なります。

いずれのエアバッグも、衝突の最初の段階において検知された衝撃の強さや方向、および以下のような事故の種類に基づいて作動します。

- 前方からの衝突
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突

ℹ センサーが検知する衝撃の強さや方向は、以下の要素によって決まります。

- 衝撃の集中度 / 分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形度合い
- 衝突物の特性

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

シートベルトテンショナー

シートベルトにはシートベルトテンショナーが装備されています。

シートベルトテンショナーは、車両の縦方向に大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

シートベルトテンショナーは、シート位置が不適切なときや、シートベルトが正しく着用されていないときは、効果を発揮できません。

シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を密着させるためのものではありません。

シートベルトテンショナーは、以下のときに作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- SRS に異常がないとき
- フロントのシートベルトテンショナーは、シートベルトが正しくバックルに差し込まれているとき

リアシートのシートベルトテンショナーは、シートベルトの着用に関わらず作動します。

シートベルトテンショナーは、事故の状況や衝撃の強さが以下のようなときに作動します。

- 前方または後方からの衝突の際に、衝撃を受けた最初の段階で、車両の縦方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき
- 側面衝突の際に、車両の横方向に強い衝撃を検知したとき

シートベルトテンショナーの作動時に聞こえる作動音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

シートベルトテンショナーが作動すると、SRS 警告灯 [SRS] が点灯します。

⚠ **警告**

シートベルトテンショナーが作動すると、次に事故が発生した場合は乗員保護機能が得られません。そのため、作動したシートベルトテンショナーは、必ずメルセデス·ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス·ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

! 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突時などに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

ベルトフォースリミッター

シートベルトにはベルトフォースリミッターが装備されています。

ベルトフォースリミッターは、シートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を分散・軽減します。

フロントシートベルトのベルトフォースリミッターは、運転席 / 助手席エアバッグと連動しており、乗員にかかる力を分散・軽減します。

エアバッグ

車が一定以上の衝撃を受けると、高温のガスが排出されて、収納されているエアバッグが瞬時にふくらみます。これにより、乗員の身体への衝撃を分散·軽減します。

エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。エアバッグの作動時に聞こえる作動音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

エアバッグが作動すると、SRS 警告灯 [SRS] が点灯します。

⚠ **警 告**

エアバッグの乗員保護機能を正しく発揮するため、以下の点に注意してください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

  ヘッドレストが目の高さにあり、後頭部が支えられるように調整してください。
- 身長 150cm 未満または 12 歳未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 頭部をドアウインドウに寄りかけないでください。サイドバッグやウインドウバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 助手席には後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。また、タイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。やむを得ず助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。エアバッグの作動が妨げられるおそれや、エアバッグが作動したときにけがをするおそれがあります。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間にペットや荷物を置かないでください。
- バックレストとドアの間に物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックにかたい物や鋭利な物をかけないでください。
- カップホルダーなどのアクセサリーを、ドアに取り付けないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

⚠ **警 告**

以下のエアバッグ収納部には、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- ステアリングコラム下部のパネル部
- 助手席側のダッシュボードパネル部
- フロントシートのバックレスト側面
- リアシートの左右端部
- フロントピラーとリアピラー間のルーフライニング部

⚠ **警 告**

エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。

⚠ **警 告**

関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。

作動したエアバッグは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。次に事故が発生した場合は、エアバッグによる乗員保護機能が得られません。

⚠ **警 告**

未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

エアバッグの種類と収納場所

エアバッグ名	収納場所
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	助手席ダッシュボードパネル部
運転席ニーバッグ	運転席足元
フロントサイドバッグ	フロントシートのバックレスト側面
リアサイドバッグ	リアシートの左右端部
ウインドウバッグ	フロントピラーとリアピラー間のルーフライニング部
ペルビスバッグ	フロントシートのバックレスト側面下部

運転席 / 助手席エアバッグ

左ハンドル車

運転席エアバッグ①/ 助手席エアバッグ②は、縦方向からの強い衝撃を受けると作動し、運転席 / 助手席乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

運転席 / 助手席エアバッグは、他のエアバッグの作動に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、車両の縦方向に一定以上の衝撃を検知したとき
- 運転席 / 助手席エアバッグの作動が、シートベルトによる乗員保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルトを正しく着用しているとき

助手席エアバッグは、助手席に乗員が乗車しているときにのみ作動します。

! 助手席に重い荷物を置かないでください。システムが助手席に乗員がいると判断し、事故のときに助手席エアバッグが作動することがあります。作動したエアバッグは交換する必要があります。

i 縦方向からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。

運転席ニーバッグ

左ハンドル車

運転席ニーバッグ①は、運転席エアバッグに連動してステアリングの下方で作動し、乗員の膝から下への衝撃を分散・軽減します。

サイドバッグ

⚠ **警 告**

シートに市販のシートカバーを使用しないでください。サイドバッグとペルビスバッグの作動が妨げられるおそれがあります。

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のフロントサイドバッグ ①/ リアサイドバッグ ② が作動し、乗員の胸部への衝撃を分散・軽減します。

サイドバッグは、シートベルトの着用や運転席 / 助手席エアバッグの作動、シートベルトテンショナーの作動に関わらず、衝突の最初の段階で、車両の横方向に一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

運転席 / 助手席ペルビスバッグ

⚠ **警 告**

シートに市販のシートカバーを使用しないでください。サイドバッグとペルビスバッグの作動が妨げられるおそれがあります。

左側フロントシート

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側の運転席ペルビスバッグまたは助手席ペルビスバッグが作動し、運転席または助手席乗員への衝撃を分散・軽減します。

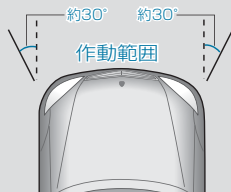
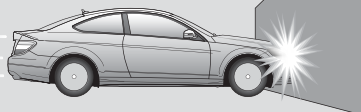
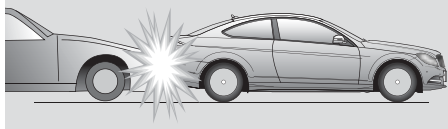
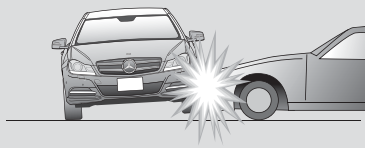
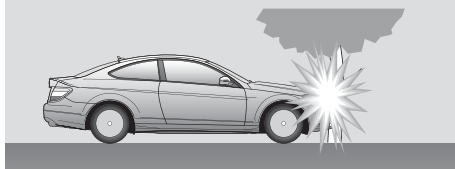
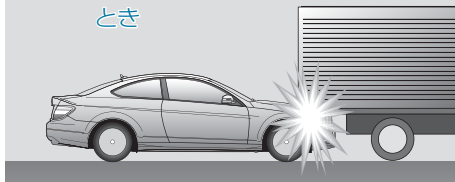
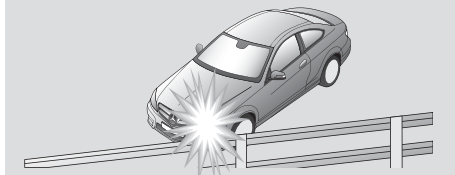
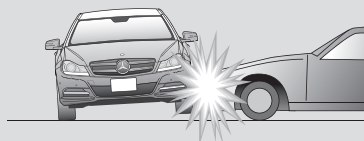
運転席 / 助手席ペルビスバッグ ① は、シートベルトの着用や運転席 / 助手席エアバッグの作動、シートベルトテンショナーの作動に関わらず、衝突の最初の段階で、横方向に一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

ウインドウバッグ

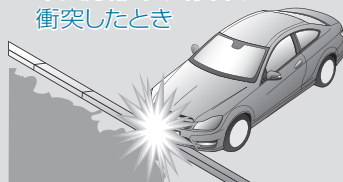
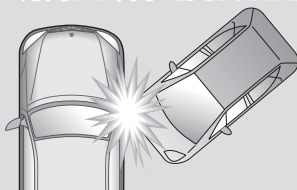
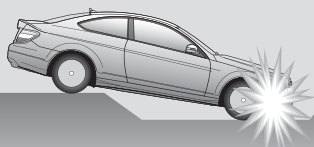
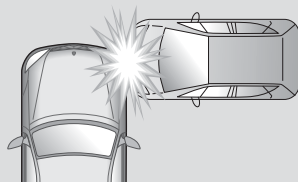
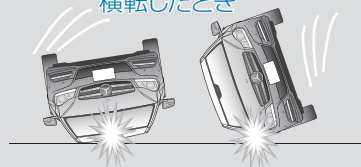
横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウインドウバッグ ① が作動し、頭部への衝撃を分散・軽減します。

ウインドウバッグは、助手席乗員の有無、シートベルトの着用、運転席 / 助手席エアバッグの作動に関わらず、衝突の最初の段階で、車両の横方向に一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

エアバッグの作動条件

運転席 / 助手席エアバッグ、運転席ニーバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグ、運転席ニーバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグ、運転席ニーバッグが作動しない場合があるとき

サイドバッグ、ペルビスバッグ、ウインドウバッグが作動するとき

サイドバッグ、ペルビスバッグ、ウインドウバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

PRE-SAFE®*

PRE-SAFE® は、車が危険な状態にあることを感知したときに、乗員保護機能を高める装置です。

PRE-SAFE® は、以下のときに作動します。

- BAS が作動するような急ブレーキを効かせたとき
- 車が物理的な限界を超えて強いアンダーステア状態やオーバーステア状態など、車の姿勢が危険な状態になったとき

PRE-SAFE® は以下のように作動します。

- 前席シートベルトを引き込み、シートベルトの張力を高めます。
- 助手席シートが不適切な位置にある場合は、助手席シートを適正な位置に調整します。
- 車が横滑りをすると、ドアウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が少し開いた状態まで自動的に閉じます。

車が危険な状態から脱すると、引き込まれた前席シートベルトの張力が緩みます。また、助手席シートの位置、ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * の開き具合を再度調整することができます。

前席シートベルトの引き込みが解除されないとき

▶ 停車しているときに、シートベルトの張力が緩むまで、バックレスト角度やシートの前後位置を後方の位置に動かします。

シートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

⚠ 警 告

シートを調整するときは、後席の乗員がけがをしないように注意してください。

! シート下部や後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

NECK PRO アクティブヘッドレスト

NECK PRO アクティブヘッドレストは、追突など後方からの衝撃を受けたときに、フロントシートのヘッドレストが前方および上方に動くことにより、運転席と助手席乗員の頭部をより効果的に支持し、頭部、頚部の保護度合いを高めます。

衝撃の大きさや衝撃を受けた方向によっては、NECK PRO アクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **警 告**

フロントシートには、必ず純正のシートカバーだけを使用してください。市販のシートカバーを使用すると、NECK PRO アクティブヘッドレストの作動が妨げられるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

事故の際に NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合は、ヘッドレストが前に動いた状態のままになります。このときは、運転席と助手席のヘッドレストをリセットしてください（▷319 ページ）。

リセットをしないと、次に後方からの衝撃を受けたときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部を保護することができません。

このリセット作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

子供を乗せるとき

チャイルドセーフティシート

⚠ **警 告**

急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに、子供が重大なけがや致命的なけがをするのを防ぐため、以下の点に注意してください。

- 6 歳未満の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 身長 150cm 未満および 12 歳未満の子供は、適切なシートに装着したチャイルドセーフティシートに乗車させ、確実に身体を固定してください。シートベルトは子供向けに設計されていないため、チャイルドセーフティシートの使用が必要になります。
- 助手席には後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。また、タイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。
- やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着してください。

  また、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 絶対に子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに子供を保護することができなくなり、子供が車内の部品に激しくぶつかったり、致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ **警 告**

- チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着されることにより保護機能を発揮します。正しく装着されていないと、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体を固定することができず、子供が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。
- チャイルドセーフティシートはリアシートに装着してください。子供の安全性が高くなります。
- チャイルドセーフティシートの底面全体がシートクッションに接している必要があります。そのため、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。
- チャイルドセーフティシートのクッションカバーが損傷したときは、純正品と交換してください。
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。

子供を乗車させるときは、子供の体格や年齢、体重に合ったチャイルドセーフティシートを使用して、身体を固定してください。

チャイルドセーフティシートは後席に装着し、走行している間は、チャイルドセーフティシートにより子供の身体を固定してください。

Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています（▷45 ページ）。

⚠ **警 告**

- 子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。子供が車内の各部に触れてけがをするおそれがあります。また、炎天下では車内が高温になるため熱中症を起こしたり、寒冷時には車内が低温になるため命にかかわるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられて重大なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実に固定してください。

> ⚠ **警告**
>
> 荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供がけがをする危険性が増加します。
>
> - 事故のとき
> - 急ブレーキ時
> - 急な進路変更時
>
> 車内に重い物や硬い物を積むときは、確実に固定してください。荷物を積むときの注意点ついて、詳しくは（▷226ページ）をご覧ください。

純正チャイルドセーフティシート

Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフプラス	約 13kg 以下	新生児～15 カ月位
デュオプラス	9 ～ 18kg	8 カ月～4 歳位
キッドフィックス	15 ～ 36kg	3 歳半～12 歳位

※ チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

助手席へのチャイルドセーフティシートの装着

助手席サンバイザーに貼付された警告ステッカー

チャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着することを禁止する警告ステッカー

後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを、助手席に装着して使用しないでください。

⚠ **警告**

- 助手席エアバッグが作動すると、助手席に装着したチャイルドセーフティシートに乗車している子供が致命的なけがをするおそれがあります。特に子供が助手席エアバッグのすぐそばに着座している場合は、エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをする危険性が高くなります。
- 絶対に後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して、子供を乗せないでください。後ろ向きで装着するタイプのチャイルドセーフティシートは、後席にのみ装着してください。
- やむを得ず前向きのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して子供を乗せるときは、必ず助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にして、ヘッドレストをもっとも高い位置にしてださい。
- チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、ダッシュボードと助手席側サンバイザーの両面に貼付されています。

  純正チャイルドセーフティシートについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

チャイルドセーフティシート固定機構

チャイルドセーフティシートをシートベルトで固定するとき、シートベルトが引き出されないようにロックしてチャイルドセーフティシートを確実に固定するシステムです。

リアシートベルトに装備されています。

⚠ **警告**

子供をチャイルドセーフティシート固定機構で遊ばせないでください。固定機構が作動するとシートベルトが引き出し方向に動かなくなるため、誤ってシートベルトが首に巻き付くと、窒息など致命的なけがをするおそれがあります。

チャイルドセーフティシートを装着する

▶ 製品に付属の取扱説明書の指示に従います。

▶ シートベルトをベルトアンカーからゆっくりと引き出します。

▶ シートベルトのプレートをバックルに差し込みます。

固定機構を使用する

▶ シートベルトをいっぱいまで引き出した後、チャイルドセーフティシートが確実に固定できる位置までシートベルトを巻き取らせます。

固定機構が作動すると、シートベルトが巻き取られているときに、固定機構の作動音が聞こえます。

▶ チャイルドセーフティシートを下方に押し、シートベルトのゆるみを取ります。

! チャイルドセーフティシートを固定後、シートベルトが引き出し方向に動かないことを確認してください。

固定機構を解除する

▶ 製品に付属の取扱説明書の指示に従います。

▶ シートベルトのプレートをバックルから外し、シートベルトを巻き取らせます。

! シートベルトを着用した状態で上体を大きく動かしたときに、シートベルトがいっぱいに引き出されてチャイルドセーフティシート固定機構が作動することがあります。このときは、固定機構を解除してから、シートベルトを再度着用してください。

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

リアシートに、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定装置を装備しています。

⚠ **警 告**

この固定装置は、体重 22kg 以下の子供を乗車させるときに使用してください。体重 22kg 以上の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを後席のシートベルトで装着してください。

⚠ **警 告**

- チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着されることにより保護機能を発揮します。正しく装着されていないと、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体を固定することができず、子供が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。
- 安全のため、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートは必ず後席左右の固定装置に装着してください。
- 正しく装着されていないと、チャイルドセーフティシートが外れ、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着したときは、必ず左右の固定装置に確実に装着されていることを確認してください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、保護効果が得られなくなるおそれがあります。その結果、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に、子供が致命的なけがをするおそれがあります。

そのため、事故で損傷したり強い負荷を受けたチャイルドセーフティシートや固定装置は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

固定装置を使用する

▶ カバー ② の上方を持ち、カバーを前方に開きます。

▶ 固定装置 ① にチャイルドセーフティシートを装着します。

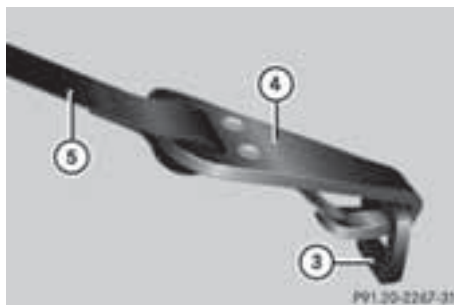
テザーアンカー

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートの上部を固定することにより、事故のときなどにチャイルドセーフティシートの前方への移動を抑えることができます。

テザーアンカーはリアヘッドレスト ① の後方にあります。

▶ テザーアンカー ③ のカバー ② の後部を押します。

カバー ② の前部が少し開きます。

▶ カバー ② を開きます。

▶ ヘッドレスト ① の左または右に、テザーベルト ⑤ を通します。

▶ テザーフック ④ をテザーアンカー ③ にかけます。

▶ テザーベルト ⑤ がねじれていないことを確認します。

▶ 製品に付属の取扱説明書の指示に従い、テザーベルトと ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを取り付けます。

▶ テザーベルト ⑤ が締め付けられていることを確認します。

装着できるユニバーサル（汎用）ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定装置には、カテゴリーⅠのサイズ等級 A、B または B1 に属している、ユニバーサル（汎用）ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを装着できます。

詳しくは、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ チャイルドセーフティシートのカテゴリーやサイズ等級については、チャイルドセーフティシート本体に貼付されているステッカーやチャイルドセーフティシートの取扱説明書をご覧ください。

カテゴリー（適応体重）	サイズ等級（装着器具タイプ）	
キャリコット（携帯式ベッド）	F（ISO/L1） G（ISO/L2）	固定装置で装着することはできません。
0（10kg まで）	E（ISO/R1）	固定装置で装着することはできません。
0+（13kg まで）	E（ISO/R1） D（ISO/R2） C（ISO/R3）	固定装置で装着することはできません。
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D（ISO/R2） C（ISO/R3） B（ISO/F2）	固定装置で装着することはできません。
	B1（ISO/F2X）	固定装置で装着することができます。
	A（ISO/F3）	固定装置で装着することはできません。

走行安全装備

走行安全装備には、以下のものがあります。

- ABS（アンチロック·ブレーキング·システム）
- BAS（ブレーキアシスト）
- アダプティブブレーキランプ
- ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）
- アダプティブブレーキ

安全上の重要事項

走行安全装備が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

また、タイヤのグリップが失われた状況では、走行安全装備は効果を発揮しません。

ⓘ 走行安全装備は、タイヤが路面に十分接地しているときにのみ、十分な効果を発揮します。タイヤに関する情報やタイヤの摩耗については「タイヤとホイール」をご覧ください（▷257 ページ）。

雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤやスノーチェーンの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着することで、走行安全装備の効果が発揮されます。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両操縦性を確保する装置です。

ABS は路面の状態に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動できるようになります。

滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

⚠ **警 告**

- ABS はブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ABS が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- ABS に異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。
- 故障により、ABS の機能が解除されたときは、BAS と ESP® の機能も解除されます。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

- 故障により、ABS の機能が解除されたときは、BAS と ESP® の機能も解除されます。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

ブレーキ操作をする

ABS が作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。

ABS が作動したとき

▶ 必要なだけ、そのままブレーキペダルを踏み続けてください。

強い制動力が必要なとき

▶ ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

⚠ 警 告

ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなるおそれがあります。

! ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABS を装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。

- 雪の積もった路面や凍結した路面
- 砂利道などの荒れた路面
- 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
- スノーチェーン装着時

i エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえることがありますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

i バッテリー電圧が低下すると ABS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BAS の操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが検知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

▶ 緊急ブレーキ状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。

ABS により、車輪のロックが抑えられます。

BAS はブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

⚠ **警 告**

- BAS は緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BAS が作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、緊急ブレーキ時には大きな制動力を確保できず、制動距離が長くなるおそれがあります。
- BAS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ⓘ BAS に異常があると、ABS も正しく作動しなくなることがあります。

ⓘ バッテリー電圧が低下すると BAS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

アダプティブブレーキランプ

約 50km/h 以上からの急ブレーキ時に BAS が作動すると、ブレーキランプが点滅し、後方の車両に注意を促します。停車すると、ブレーキランプは点灯に変わります。

また、約 70km/h 以上からの急ブレーキ時には、ブレーキランプの点滅に加えて、停車すると非常点滅灯が自動的に点滅します。

自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、再度走行を開始して走行速度が約 10km/h 以上になると、自動的に消灯します。

ESP®

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、個々のタイヤに独立してブレーキを効かせたり、エンジン出力を制御することによって、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

発進時または走行中に ESP® 表示灯 [表示灯] が点滅したときは、ESP® が作動しています。

[表示灯] ESP® 表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

⚠ **警 告**

ESP® 表示灯 [表示灯] が点滅したときは、以下のようにしてください。

- 状況を問わず、ESP® の機能を解除しないでください。
- 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。
- 路面と天候の状況に合わせて運転してください。

車輪が空転したり、車が横滑りするおそれがあります。

⚠ **警 告**

ESP® は車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP® が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。

ESP® 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! 以下のときは、イグニッション位置を **0** にしてください。

- ダイナモメーターを使用して、パーキングブレーキの検査を行なうとき
- 前輪または後輪を上げてけん引されるとき

ESP® によりブレーキが作動し、ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! ESP® が故障すると、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ℹ エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイに ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示され、ESP® 表示灯 [ESP] や ESP® オフ表示灯 [ESP OFF]、ABS 警告灯 [ABS] が点灯することがあります。

このようなときは、安全な場所に停車して、イグニッション位置を **0** に戻し、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると、メッセージや表示灯、警告灯は消灯します。

ℹ ABS が故障して ABS 警告灯 [ABS] が点灯しているときは、ESP® の機能も解除されています。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ℹ 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESP® が作動することがあります（走行中に ESP® 表示灯 [ESP] が点滅したままになります）。

ETS

ETS は、ESP® の機能の一部です。

ETS は、滑りやすい路面などで車輪が空転したときに、駆動輪にブレーキを効かせて発進時や加速時の駆動力を確保しようとするシステムです。

ESP® の機能が解除されている場合でも、ETS の機能は解除されません。

⚠ **警 告**

ETS は駆動力を確保し車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ETS が適切に作動しても、駆動力の確保には限界があります。

ETS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ESP® の機能の解除（C 63 AMG を除く車種）

エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

ℹ ECO スタート / ストップ装備車は、車両が停止したときにエンジンが自動的に停止します。発進するとエンジンは再始動します。このとき、ESP® の機能はエンジン停止前の状態が維持されます。例えば、ECO スタート / ストップによりエンジンが停止する前に ESP® の機能を解除していたときは、再始動しても ESP® の機能は解除されたままになります。

以下のような状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

このときは ESP® の機能を解除します。

⚠ **警 告**

ESP® の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP® を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができません。

ESP® の機能が解除されると、以下の状態になります。

- ESP® は作動せず、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができなくなります。
- エンジン出力の制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。
- トラクションコントロールシステムによる駆動力の確保は行なわれます。
- ブレーキを効かせたときは ESP® は自動的に作動します。

ESP® の機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを検知すると、ESP® 表示灯 [ESP表示灯] が点滅しますが、ESP® は作動しません。

⚠ **警 告**

ESP® の機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

ESP® の機能を解除する

▶ マルチファンクションディスプレイで ESP® の機能を解除します(▷160 ページ)。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [ESP OFF] が点灯します。

ESP® を待機状態にする

▶ マルチファンクションディスプレイで ESP® の機能を設定します(▷160 ページ)。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [ESP OFF] が消灯します。

[ESP OFF] ESP® オフ表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

⚠ 警 告

エンジンがかかっているときに ESP® オフ表示灯 [ESP OFF] が点灯しているときは、ESP® の機能が解除されています。ESP® 表示灯 [ESP] と ESP® オフ表示灯 [ESP OFF] が点灯しているときは、故障のため、ESP® の機能が解除されています。

特定の状況では、車が横滑りするおそれがあります。

路面と天候の状況に合わせて運転してください。

スポーツハンドリングモード、ESP® の機能の設定 / 解除（C 63 AMG）

スポーツハンドリングモードの設定 / 解除

エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

次のような状況では、スポーツハンドリングモードにしたほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

上記以外では、サーキットなどでスポーツ走行を行なうときに使用することができます。

⚠ 警 告

スポーツハンドリングモードにする必要がなくなったときは、ESP® を待機状態にしてください。スポーツハンドリングモードでは ESP® の作動内容が制限されるため、車が不安定な状況になったときは、車両操縦性や走行安定性の確保は限られたものになります。

スポーツハンドリングモードにしたときは以下のような状態になります。

- ESP® の作動内容が制限されるため、車両操縦性と走行安定性の確保は限られたものになります。
- エンジン出力の制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。
- トラクションコントロールシステムによる駆動力の確保は行なわれます。

- ブレーキを強く効かせたときはESP® は自動的に作動します。

スポーツハンドリングモードにしているときにタイヤの空転や横滑りを検知すると、ESP® 表示灯 [ESP] が点滅しますが、ESP® は制限された範囲で作動し、車両操縦性や走行安定性の確保は限られたものになります。

スポーツハンドリングモードにする

▶ ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ ① を押します。

メーターパネルのスポーツハンドリングモード表示灯 [SPORT] が点灯し、マルチファンクションディスプレイに "SPORT handling mode" と表示されます。

ℹ マルチファンクションディスプレイの表示を "SPORT handling mode" から他の表示に切り替えるときは、ステアリングスイッチの [↩] または [OK] を押します。

ESP® を待機状態にする

▶ ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ ① を押します。

メーターパネルのスポーツハンドリングモード表示灯 [SPORT] が消灯します。

ESP® の設定 / 解除

エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

以下のような状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

このときは ESP® の機能を解除します。

⚠ 警告

ESP® の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP® を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を高めることができません。

ESP® の機能が解除されると、以下の状態になります。

- ESP® は作動せず、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができなくなります。
- エンジン出力の制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。
- トラクションコントロールシステムによる駆動力の確保は行なわれます。
- PRE-SAFE® の機能が解除されます。
- ブレーキを強く効かせたときはESP® が自動的に作動します。

ESP® の機能を解除しているときにタイヤが空転したり横滑りをしても、ESP® 表示灯 [icon] は点滅せず、ESP® も作動しません。

⚠ 警 告

ESP® の機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

ESP® の機能を解除する

▶ メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯するまで、ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ ① を押して保持します。

マルチファンクションディスプレイに "OFF" と表示されます。

マルチファンクションディスプレイの表示を "OFF" から他の表示に切り替えるときは、ステアリングスイッチの [↩] または [OK] を押します。

[OFF] ESP® オフ表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

⚠ 警 告

エンジンがかかっているときに ESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯しているときは、ESP® の機能が解除されています。ESP® 表示灯 [icon] と ESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯しているときは、故障のため、ESP® の機能が解除されています。

特定の状況では、車が横滑りするおそれがあります。

路面と天候の状況に合わせて運転してください。

ESP® を待機状態にする

▶ ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ ① を押します。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [OFF] が消灯し、マルチファンクションディスプレイに数秒間 "ON" と表示されます。

EBD

EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）は、後輪のブレーキ圧を検知して制御を行ない、ブレーキ時の車両操縦性と走行安定性を確保しようとするシステムです。

⚠ **警 告**

EBD に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、急ブレーキ時などには後輪がロックするため、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。車両操縦性の変化に注意して慎重に運転してください。

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の利便性と安全性を高めるシステムです。

アダプティブブレーキには、ホールド機能（▷184 ページ）とヒルスタートアシスト（▷126 ページ）も含まれます。

盗難防止システム *

イモビライザー

イモビライザーは、正規のキー以外ではエンジンを始動させないようにする機能です。

キーによりイモビライザーを作動させる

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

キーレスゴー * によりイモビライザーを作動させる

▶ イグニッション位置を **0** にして、運転席ドアを開きます。

イモビライザーを解除する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

ⓘ イモビライザーは、エンジンを始動すると解除されます。

盗難防止警報システム

盗難防止警報システムが待機状態のときに以下の状況を検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。

- ドア、トランクが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき

盗難防止警報システムは、車を施錠した後、エマージェンシーキーを使用して運転席ドアやトランクを解錠し、開いたときも作動します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

表示灯 ① が点滅し、約 15 秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯 ① が点滅を続けます。

システムを解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を解錠します。

表示灯 ① が消灯します。

警報を停止する

キーによる操作

▶ エンジンスイッチにキーを差します。

または

▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押します。

キーレスゴー * による操作

▶ キーが左右側アンテナの検知範囲（▷66 ページ）またはトランク側アンテナの検知範囲にあるときに、キーがある側のドアハンドルの裏側に触れるか、トランクのハンドルを引きます。

または

▶ キーが車室内アンテナの検知範囲（▷66 ページ）にあるときに、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押します。

ℹ ドアやトランクが開けられたり、ボンネットのロックが解除されて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は停止しません。

ℹ システムを待機状態にするときはボンネットが確実に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にしても、ボンネットが開けられたときに警報は作動しません。

ℹ システムが待機状態のときに車内からドアを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

けん引防止機能

車を施錠して、けん引防止機能を待機状態にしたときは、車両の傾きを検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。

例えば、けん引やジャッキアップなどにより車両が持ち上げられたときなどに警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

約 30 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を解錠します。

けん引防止機能が自動的に解除されます。

けん引防止機能を解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- けん引されるとき
- カーフェリーや車両運搬車に載せて移動するとき
- 機械式駐車場などに駐車するとき

▶ イグニッション位置を **0** か **1** にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ けん引防止機能解除スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が数秒間点灯し、その後消灯します。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

けん引防止機能が解除されます。

けん引防止機能は、以下の操作を行なうまで解除されたままになります。

- 車を解錠する
- ドアを開閉する
- 車を施錠する

* オプションや仕様により、異なる装備です。

室内センサー

車を施錠して、室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。

例えば、ウインドウが割られたり、車内に腕を伸ばしたときなどに警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ システムを待機状態にする前に、室内センサーの誤作動を防止するために以下のことを確認してください。

- ドアウインドウが完全に閉じていること
- パノラミックスライディングルーフ * が完全に閉じていること
- ルームミラーやアシストグリップにマスコットなどをかけていないこと

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

約 30 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を解錠します。

室内センサーが自動的に解除されます。

室内センサーを解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残るとき
- ドアウインドウを少し開いた状態で車から離れるとき
- パノラミックスライディングルーフ * を少し開いた状態で車から離れるとき

▶ イグニッション位置を **0** か **1** にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 室内センサー解除スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が数秒間点滅し、その後消灯します。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

室内センサーが解除されます。

室内センサーは、以下の操作を行なうまで解除されたままになります。

- 車を解錠する
- ドアを開閉する
- 車を施錠する

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キー

リモコン機能付きのキーが 2 本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。

⚠ 警告

- 子供だけを残して車から離れないでください。車が施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、キーが車室内またはドア付近などの車外にあるときは、キーレスゴースイッチ * を押すことによりエンジンが始動し、事故の原因になります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

⚠ 警告

エンジンスイッチにキーを差し込むときは、重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして使用しないでください。

キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

! キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! キーを強い電磁波にさらすと、リモコンに障害が発生するおそれがあります。

! キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。

! キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。

! 盗難や事故を防ぐため、車から離れるときは必ず車を施錠してください。

! 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

! 車を操作するときは、運転者は常にキーを携帯してください。

! キーを携帯電話などの電子機器や硬貨などの金属製のものと一緒に持ち運ばないでください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作やキーレスゴー操作 * を行なうと、作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。

! 磁気を発生する電化製品の近くにキーを置かないでください。

ⓘ バッテリーの電圧が低下したときは、キーの電池が正常でもリモコン操作はできません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ キーの電池が消耗すると、キーのいずれかのボタンを押したときにキーの表示灯が点灯せず、リモコン操作やキーレスゴー操作 * ができなくなりますが、エンジンスイッチにキーを差し込むことによるイグニッション位置の選択とエンジンの始動はできます。

リモコン機能

① 🔒 施錠ボタン
② トランクオープナーボタン
③ 🔓 解錠ボタン

イグニッション位置が **0** でエンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- ドア、トランク、燃料給油フラップの解錠 / 施錠
- トランクを開く（▷77 ページ）
- コンビニエンスオープニング機能とコンビニエンスクロージング機能の操作（▷119、120 ページ）

操作時にキーの表示灯が 1 回点滅します。

解錠する

▶ 解錠ボタン 🔓 を押します。

ドア、トランク、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム *（▷58 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、アンサーバック機能 * を設定しているときは、確認音が鳴ります（▷70 ページ）。

施錠する

▶ 施錠ボタン 🔒 を押します。

ドア、トランク、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム *（▷58 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

また、アンサーバック機能 * を設定しているときは、確認音が鳴ります（▷70 ページ）。

❗ リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

トランクを開く

▶ トランクが開きはじめるまで、トランクオープナーボタン を約 2 秒間押し続けます。

ⓘ トランクが独立施錠（▷78 ページ）されているときは、トランクオープナーボタン を押してもトランクは開きません。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されない場合があります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ リモコン操作での解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- トランクを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す
- キーが車内にあるときは、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチ * を押す

ロケイターライティング

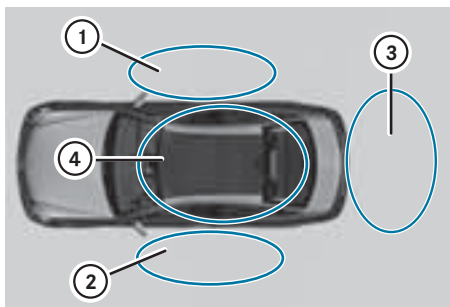
周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると、以下のライトが点灯します。

- 車幅灯
- フロントフォグランプ * または LED ドライビングライト *
- テールランプ
- ライセンスライト
- ドアミラー下部のライト *

点灯したライトは以下のときに消灯します。

- 運転席ドアを開いたとき
- 点灯してから約 40 秒経過したとき

この機能の設定と解除については（▷166 ページ）をご覧ください。

キーレスゴー *

① 右側アンテナの検知範囲
② 左側アンテナの検知範囲
③ トランク側アンテナの検知範囲
④ 車室内アンテナの検知範囲

キーレスゴーは、キーを携帯することにより、キーとキーレスゴーアンテナが電波の送受信を行ない、リモコン操作をしなくても、車の解錠 / 施錠やエンジンの始動を行なうことができます。

キーレスゴー操作で車を解錠 / 施錠するときは、キーとドアハンドルまたはトランクとの距離は約 1m 以内にしてください。

ⓘ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、キーレスゴー操作はできません。

ⓘ エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときも、エンジンがかかっているときやイグニッション位置が **2** のときは、キーレスゴー操作で施錠できません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キーの位置により、キーレスゴー操作で行なうことができる操作が以下のように異なります。

キーが左右側アンテナの検知範囲にあるとき

- キーがある側のドアハンドルに触れると、車の施錠 / 解錠ができます。
- トランクハンドルを引くと、トランクのみを解錠して開くことができます。

キーがトランク側アンテナの検知範囲にあるとき

- トランクハンドルを引くと、トランクのみを解錠して開くことができます。

キーが車室内アンテナの検知範囲にあるとき

- イグニッション位置の選択ができます（▷80 ページ）。
- エンジンの始動ができます（▷80、124 ページ）。

ⓘ ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときも、車室内アンテナにキーが検知されることがあります。

⚠ **警 告**

- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方や、その他の医療用電子機器を使用されている方は、車を使用する前に、あらかじめ医師や医療用電子機器メーカーなどにキーレスゴーによる電波の影響についてご相談ください。
- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方は、キーレスゴーアンテナから約 22cm 以内に近付かないようにしてください。キーレスゴー操作を行なうときは、キーとアンテナの間で電波が送受信されるため、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときも、キーレスゴースイッチを押すことによりエンジンが始動することがあり、事故の原因になります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

! 手袋を着用したままドアハンドルに触れたときは、解錠しないことがあります。

! キーが左右側またはトランク側アンテナの検知範囲にあるときに、ドアハンドルを清掃したり、ドアハンドルに雨粒や水しぶきがかかったり物などが触れると、車が解錠されることがありますので注意してください。

i キーを車から遠ざけたときは、キーレスゴー操作で車を施錠 / 解錠したり、エンジンを始動することはできません。

i 車を長期間使用しなかったときは、ドアハンドル表面のセンサーの機能が自動的に解除されます。ドアハンドルを引いてドアを解錠してからイグニッション位置を **2** にして、センサーを待機状態にしてください。

i キーレスゴーアンテナの検知範囲内にキーがあるときは、キーを携帯していない人でも、キーレスゴー操作を行なうことができます。

解錠する（初期設定時）

▶ ドアハンドルの裏側に触れます。

ドア、トランク、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム *（▷58 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、アンサーバック機能 * を設定しているときは、確認音が鳴ります（▷70 ページ）。

トランクが独立施錠（▷78 ページ）されているときは、ドアハンドルの裏側に触れてもトランクは解錠されません。

i 解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- トランクを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す
- キーが車室内にあるときは、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す

施錠する

左側ドア

▶ ドアハンドルの施錠操作部①に触れます。

ドア、トランク、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム *（▷58 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

また、アンサーバック機能 * を設定しているときは、確認音が鳴ります（▷70 ページ）。

! 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されない場合があります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ キーが車室内やトランク内にあるときは施錠できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに " キーが 車内にあります " または " キーを認識 できません " と表示されることがあります。

ただし、キーが左右側またはトランク側アンテナの検知範囲にあり、もう 1 本のキーが車室内にあるときは、ドアハンドルの施錠操作部に触れることで施錠できます。

ⓘ いずれかのドアが開いているときにドアハンドルの施錠操作部に触れると、確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ドアを閉めてから ロックしてください " と表示されます。

トランクを解錠して開く

▶ トランクのハンドルを引きます。

トランクのみが解錠されます。

▶ トランクを引き上げます。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

解錠時の設定の切り替え

リモコン操作またはキーレスゴー操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップのみを解錠するように設定できます。

▶ 解錠ボタン [解錠] と施錠ボタン [施錠] を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

ⓘ 車両の近くでリモコン機能の切り替えを行なうと、キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押したときに、車両も解錠または施錠されます。

この状態では以下のように作動します。

運転席ドアと燃料給油フラップを解錠する

▶ 解錠ボタン [解錠] を 1 回押します。

すべてのドアとトランク、燃料給油フラップを解錠する

▶ 解錠ボタン [解錠] を 2 回押します。

車を施錠する

▶ 施錠ボタン [施錠] を押します。

キーレスゴーでは以下のように作動します。

運転席ドアと燃料給油フラップを解錠する

▶ 運転席ドアハンドルの裏側に触れます。

すべてのドアとトランク、燃料給油フラップを解錠する

▶ 助手席ドアハンドルの裏側に触れます。

車を施錠する

▶ いずれかのドアハンドルの施錠操作部に触れます。

解錠時の設定を初期設定に戻す

▶ キーの表示灯が 2 回点滅するまで、解錠ボタン [解錠] と施錠ボタン [施錠] を同時に約 6 秒間押し続けます。

アンサーバック機能 *

アンサーバック機能を設定しているときは、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車両を解錠 / 施錠したときに、仕様により以下のように確認音が鳴ります。

- 車両を施錠したときに、確認音が 1 回鳴ります。

または

- 車両を解錠したときに確認音が 1 回鳴り、車両を施錠したときに確認音が 3 回鳴ります。

この機能の設定と解除については （▷169 ページ）をご覧ください。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されない場合があります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キーのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作をしてください。 リモコン操作ができないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください(▷315、316 ページ)。
	キーが故障している。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーレスゴー操作で解錠 / 施錠できない。	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ リモコン機能で車を施錠 / 解錠してください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から操作してください。
	キーレスゴーが故障している。 ▶ リモコン機能で車を施錠 / 解錠してください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から操作してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。 リモコン操作ができないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください(▷315、316 ページ)。
キーを紛失した。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
キーによるエンジン始動ができない。	バッテリーの電圧が低下している。 ▶ シートヒーターやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してから再度エンジンスイッチをまわしてください。 それでもエンジンスイッチがまわらないとき： ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷341 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	ステアリングロックが効いている。 ▶ ステアリングを軽く左右にまわしながら、エンジンスイッチからキーを抜き、再度差し込んでください。
キーが車内にある状態で、キーレスゴースイッチを押しても、エンジンが始動しない。	ドアが開いているため、キーが認識されにくくなっている。 ▶ ドアを閉じてから、再度始動操作を行なってください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外し、エンジンスイッチにキーを差し込んで、始動操作を行なってください。

ドア

⚠ 警告

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。
- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

車外からのドアの開閉

開く

▶ ドアハンドル ① を引きます。

閉じる

▶ ドアハンドル ① を持って確実に閉じます。

! 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ず施錠してください。

! ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

車内からのドアの開閉

開く

▶ ドアレバー ② を矢印の方向に引きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ ① が上がり、解錠されます。

閉じる

▶ インナーグリップ ③ を持って確実に閉じます。

ℹ 車が施錠されているときも、車内のドアレバーを引くとドアを開くことができます。

ℹ 助手席ドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。

ℹ ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

車内からの解錠 / 施錠

⚠ 警告

ロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供を乗せているときは特に注意してください。

! 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。

! ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

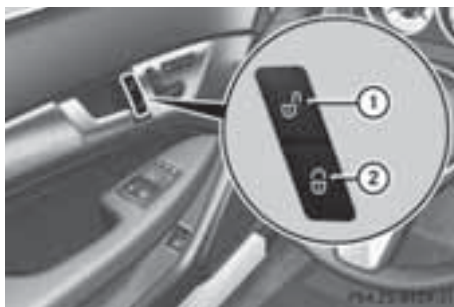
ドアごとの解錠 / 施錠

解錠する

▶ ドアレバー ② を矢印の方向に引きます。

このときドアも開きます。

施錠する

▶ ロックノブ ① を押します。

ドアロックスイッチ

すべてのドアとトランクを解錠 / 施錠できます。

燃料給油フラップの解錠 / 施錠はできません。

ドアロックスイッチは、運転席ドアと助手席ドアにあります。

解錠する

▶ ドアロックスイッチ（解錠）① を押します。

ロックノブが上がります。

施錠する

▶ ドアロックスイッチ（施錠）② を押します。

ロックノブが下がります。

ℹ 次のような場合はドアロックスイッチで解錠 / 施錠できません。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

ℹ 運転席ドアが開いているときは、ドアロックスイッチで助手席ドアとトランクの解錠 / 施錠ができます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ トランクが独立施錠されているときは、ドアロックスイッチで解錠しても、トランクは解錠されません。

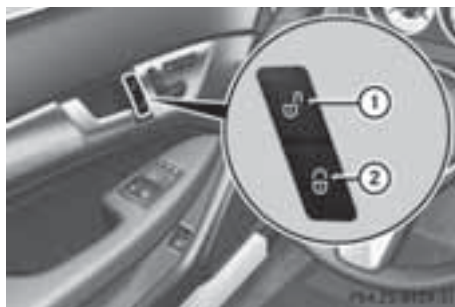
車速感応ドアロック

走行速度が約 15km/h 以上になると、ドアとトランクを自動的に施錠します。

! 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押すときやタイヤ交換などで車を持ち上げるとき、ダイナモメーターでパーキングブレーキをテストするときなどは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

ⓘ 車速感応ドアロックで施錠されているときも、車内のドアレバーを引いてドアを解錠して開くことができます。

ⓘ 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

車速感応ドアロックの設定 / 解除

車速感応ドアロックを設定する

▶ ドアロックスイッチ（施錠）② を約 5 秒間押して保持します。

車速感応ドアロックが設定され、確認音が鳴ります。

車速感応ドアロックを解除する

▶ ドアロックスイッチ（解錠）① を約 5 秒間押して保持します。

車速感応ドアロックが解除され、確認音が鳴ります。

ⓘ ドアロックスイッチを押して保持しても確認音が鳴らないときは、その設定がすでに選択されています。

ⓘ 車速感応ドアロックはマルチファンクションディスプレイでも設定 / 解除できます（▷168 ページ）。

トランク

トランクの開閉

⚠ 警告

エンジンをかけた状態でトランクを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

⚠ 警告

トランクを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! トランク内には乗車しないでください。事故などのとき、けがをするおそれがあります。

! 子供などがトランクに閉じ込められないように注意してください。

! トランクを開くときは、トランクの周りに障害物がなく、身体や物に当たるおそれがないことを確認してください。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

トランクをいっぱいまで開いたときの高さについては（▷361 ページ）をご覧ください。

! 強風のときにトランクを開くと、風にあおられて、トランクが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、トランクに雪が積もっているときも同様に注意してください。

! トランクを閉じたときは、トランクが確実に閉じていることを確認してください。

! トランクの中にキーを残したままにしないでください。トランクが施錠されるとキーが取り出せなくなります。

ℹ 車が施錠されているときにリモコン操作やキーレスゴー操作 *、エマージェンシーキーなどでトランクを開き、再度トランクを閉じるとトランクは施錠されます。ただし、キーレスゴー装備車は、トランク内にキーを残したままのときは、キーレスゴー操作では施錠されません。

ℹ トランクが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

ℹ 車が施錠されているときは、キーのトランクオープナーボタンを押すとトランクだけが解錠されて開きます。

ℹ 車が施錠されているときにトランクのみを解錠して開き、再度トランクを閉じるとトランクは施錠されます。このとき、非常点滅灯が 3 回点滅します。

ℹ 車が施錠されているときも、キーがキーレスゴー * の左右側またはトランク側アンテナの検知範囲にあるときは、トランクハンドルを引くと、トランクだけが解錠されて開きます。その状態でトランクを閉じると、トランクは施錠されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ トランクが独立施錠されているときは、トランクのハンドルを引くか、トランクオープナースイッチを引いたり、キーのトランクオープナーボタンを押してもトランクは開きません。

車外からの開閉

トランクを開く

▶ キーの解錠ボタン [解錠] を押します。

▶ ハンドル ① を引きます。

トランクが開きます。

トランクを閉じる

▶ グリップ ① に手をかけてトランクを引き下げます。

▶ 外側からトランクを押さえます。

▶ 必要であれば車を施錠します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車内からトランクを開く

左ハンドル車

停車しているときは、運転席ドアのスイッチでトランクを開くことができます。

▶ トランクが開きはじめるまで、トランクオープナースイッチ ① を引き続けます。

トランクが開きます。

ⓘ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車が施錠されているときは、トランクオープナースイッチでトランクを開くことはできません。

トランクの独立施錠

車の解錠 / 施錠に関わらず、トランクを独立して施錠できます。

トランクを独立施錠しているときは、トランクを開くことはできません。

トランクを独立施錠する

▶ トランクを閉じます。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します。

▶ トランクのキーシリンダーにエマージェンシーキー（▷315 ページ）を差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを独立施錠位置 2 にまわします。

▶ キーシリンダーからエマージェンシーキーを抜きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

! トランクを開いた状態でも、上記の操作を行なってトランクを閉じると独立施錠されます。このときは、エマージェンシーキーの閉じ込みに注意してください。

i 駐車場などでキーを預ける場合に、この機能を使用してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外して携帯してください。

独立施錠を解除する

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します。

▶ トランクのキーシリンダーにエマージェンシーキー（▷315 ページ）を差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを独立施錠解除位置 1 にまわします。

▶ キーシリンダーからエマージェンシーキーを抜きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

イグニッション位置

⚠ **警告**

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

! 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

キーによるイグニッション位置の選択

左ハンドル車

イグニッション位置を選択する

▶ エンジンスイッチに差し込んだキーをまわします。

以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーの位置	イグニッション位置
0	0：キーを差し込む / 抜く位置
1	1：イグニッション位置が1になります。
2	2：イグニッション位置が2になります。
3	3：エンジンが始動します。

エンジンスイッチからキーを抜かずに **0** の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。また、ステアリングがロックされます。このときは、キーをいったん抜き、再度差してからまわしてください。

! バッテリーあがりを防止するために、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。

ℹ キーの発信部が覆われていたり、汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

ℹ 異なる車両のキーを差し込んだときも、エンジンスイッチをまわせることがありますが、エンジンスイッチの位置の選択や、エンジンの始動はできません。

キーレスゴースイッチによるイグニッション位置の選択（キーレスゴー装備車）

左ハンドル車

車室内にキーがあり、エンジンスイッチにキーレスゴースイッチ ① を取り付けてあるとき、キーレスゴースイッチ ① を押すことにより、イグニッション位置の選択とエンジンの始動ができます。

イグニッション位置を選択する

▶ ブレーキペダルを踏んでいないときにキーレスゴースイッチ ① を押すと、以下のようにイグニッション位置が変更されます。

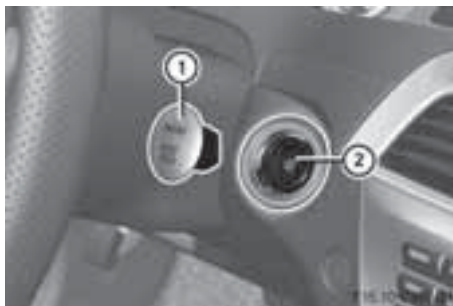
キーレスゴースイッチの操作	イグニッション位置
1 回押す	**0** から **1** になります。
さらに 1 回押す	**1** から **2** になります。
さらに 1 回押す	**2** から **0** になります。

エンジンを始動する

▶ ブレーキペダルを踏んでいるときにキーレスゴースイッチ ① を押します。

! ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

ℹ 車室内にキーがないときにキーレスゴースイッチを押すと、マルチファンクションディスプレイに " キーを認識 できません " または " スタートボタンを外し キーを入れてください " と表示されます。

キーレスゴースイッチの取り外し

左ハンドル車

キーレスゴースイッチ ① を取り外し、エンジンスイッチ ② にキーを差し込んでまわすことにより、イグニッション位置を選択できます。

ℹ キーレスゴースイッチは、通常は駐車時でも取り外す必要はありません。

▶ エンジンスイッチ ② からキーレスゴースイッチ ① を取り外します。

ℹ エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けてから約 2 秒間は、キーレスゴースイッチでのイグニッション位置の選択やエンジン始動ができません。

シート

⚠ **警 告**

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもシート位置を調整できるため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。シート調整スイッチを操作してシートに挟まれるおそれがあります。

⚠ **警 告**

運転席シートの調整は、必ず停車しているときに行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警 告**

シートの高さを不用意に調整すると、けがをするおそれがあります。特に子供は、シート調整スイッチを不用意に操作してけがをするおそれがあるため、以下のことに注意してください。

- シートを調整している間は、シートの下やシートの可動部分に手を入れないでください。
- 子供が乗車するときは、シートの下やシートの可動部分に手を入れないように注意してください。

⚠ **警 告**

シートを調整するときは他の乗員の身体が挟まれないように注意してください。また、エアバッグに関する注意もご覧ください。

子供を乗せるときは、（▷43 ページ）をご覧ください。

⚠ **警 告**

ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストの中央部に支えられていることを確認してください。後頭部がヘッドレストに正しく支えられていないと、事故などのときに、首に重大なけがをするおそれがあります。ヘッドレストが正しい位置に調整されていないときは、決して走行しないでください。

⚠ **警 告**

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い状態で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。

! シートやシートヒーター * の損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- シートカバーが濡れたときなどは、シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートは定期的に清掃することをお勧めします。「日常の手入れ」をご覧ください（▷276 ページ）。
- シートの上に重い物を載せないでください。また、シートクッションの上にナイフや工具などの鋭利な物を置かないでください。

  シートは、できるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、ブランケットやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートを調整するときは、足元やシートの下などに物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

! シートを後方に移動したり、バックレストを後方に倒すときはリアシートと接触しないように注意してください。シートを損傷するおそれがあります。

i フロントシートのヘッドレストには、NECK PRO アクティブヘッドレストを装備しているため、ヘッドレストを取り外すことはできません。詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

フロントシートの調整（4 ウェイパワーシート）

左側シート
① バックレストの角度の調整
② シートの高さの調整
③ シートクッションの角度の調整
④ シートの前後位置の調整

i 太もも部分が軽く支えられるように、シートクッションの角度を調整してください。

バックレストの角度とシートの高さは、エンジンスイッチにキーが差し込まれているときに調整できます。

バックレストの角度の調整

▶ シート調整スイッチを矢印 ① の方向に操作して調整します。

シートの高さの調整

▶ シート調整スイッチを矢印 ② の方向に操作して調整します。

シートの前後位置の調整

▶ レバー ④ を引き上げながらシートを前後に動かして調整します。

▶ レバー ④ を放して、シートがロックされたことを確認します。

シートクッションの角度の調整

▶ ダイヤル ③ をまわして調整します。

フロントシートの調整（メモリー付パワーシート）

左側シートのスイッチ
① ヘッドレストの高さの調整
② シートクッションの角度の調整
③ シートの高さの調整
④ シートの前後位置の調整
⑤ バックレストの角度の調整

シートの前後位置の調整

▶ スイッチを矢印 ④ の方向に操作します。

ヘッドレストの高さも、連動して自動的に調整されます。

シートの高さの調整

▶ スイッチを矢印 ③ の方向に操作します。

シートクッションの角度の調整

▶ スイッチを矢印 ② の方向に操作します。

バックレストの角度の調整

▶ スイッチを矢印 ⑤ の方向に操作します。

ヘッドレストの高さの調整

▶ スイッチを矢印 ① の方向に操作します。

ℹ 助手席シートが不適切な位置にあるときに PRE-SAFE® が作動したときは、助手席シートが適切な位置に自動的に調整されます。

ℹ メモリー機能により、シート位置を記憶させることができます（▷95 ページ）。

ヘッドレストの高さの調整

4 ウェイパワーシート装備車

ヘッドレストを上げる

▶ 好みの高さにヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストを下げる

▶ ロック解除ボタン①を押して、好みの高さにヘッドレストを押し下げます。

メモリー付パワーシート装備車

▶ スイッチを矢印①の方向(▷83ページ)に操作します。

フロントシートのバックレストを前方に倒す

重要な安全事項

⚠ **警告**

フロントシートのバックレストが確実にロックされていることを確認してください。ドアが閉じているときにバックレストが確実にロックされていないときは、イグニッション位置を **2** にすると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " 右（または左）フロント バックレスト ロックしてください " と表示されます。走行中のときは、周囲の道路状況や交通状況に注意しながらすみやかに停車し、バックレストをロックしてください。バックレストの動きを妨げているものがあるときは、すみやかに取り除いてください。

⚠ **警告**

フロントシートのバックレストを操作したり、フロントシートが移動しているときは、身体が挟まれないように注意してください。フロントシートが移動しているときに身体が挟まれそうになったときは、対応する側のシート調整スイッチやメモリースイッチ、ポジションスイッチ（▷96ページ）を操作すると、シートはその位置で停止します。

! フロントシートの足元やシートの後方に物が無いことを確認してください。移動するシートと物が接触して、シートや物を損傷するおそれがあります。

! バックレストは必ずヘッドレストが下がりきってから前方に倒してください。ルーフ内張りにヘッドレストが干渉して損傷するおそれがあります。

! シートが高い位置に調整されているときは、低い位置に調整してください。ルーフ内張りやサンバイザーに干渉して損傷するおそれがあります。

ℹ シートが前方の位置にあるときは、バックレストを前方に倒しても、シートは前方に移動しません。

フロントシートのバックレストを倒す

メモリー機能非装備車

▶ 必要であれば、ヘッドレストを押し下げます。

▶ シートロック解除ハンドル ① を前方に引き、バックレストがロックされるまで、シートを前方に倒します。

▶ シートをいっぱいまで前方に押します。

メモリー機能装備車

▶ ロック解除レバー ① を矢印の方向に引きます。

ヘッドレストが下がります。

▶ ヘッドレストが下がりきったら、ロック解除レバー ① を引きながら、バックレストを前方に倒します。

フロントシートが前方に移動します。

フロントシートのバックレストを戻す

メモリー機能非装備車

▶ シートが元の位置に戻るまで、バックレストを後方に押します。

▶ ロックされた音が聞こえるまで、バックレストを後方にゆっくり戻します。

▶ バックレストを後方に戻した後に、ヘッドレストが正しい位置にあることを確認してください。

メモリー機能装備車

▶ フロントシートのバックレストを後方に起こします。

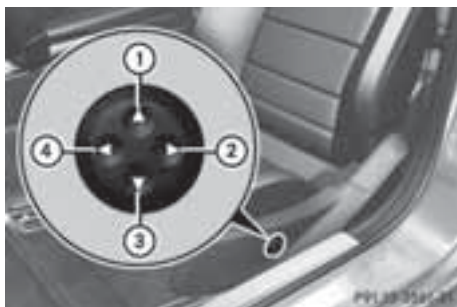
フロントシートの前後位置とヘッドレストの高さが自動的に元に戻ります。

▶ バックレストが確実にロックされていることを確認します。

ℹ シートが完全にロックされていないときは、シート調整スイッチでバックレストの角度とヘッドレストの高さ * を調整することはできません。

ℹ メモリー機能装備車は、バックレストを大きく後方に傾けていたときやシートが後方の位置にあるとき、またはバックレストを前方に倒してからシート調整スイッチを操作したときは、シートの前後位置とヘッドレストの高さが元の位置に戻らないことがあります。

ℹ メモリー機能装備車は、後方に移動しているフロントシートが挟み込みを検知すると、シートの移動が停止し、シートの位置によっては前方に移動します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

電動ランバーサポート *

左側シートのスイッチ
①③ ランバーサポートの位置の調整
② ランバーサポートの強さの調整（弱）
④ ランバーサポートの強さの調整（強）

ランバー（腰部）のサポートを調整できます。

フロントシートに装備されています。

サポートの位置を調整する

▶ スイッチ ① または ③ を押して、サポートの位置を調整します。

サポートの強さを調整する

▶ スイッチ ②（弱）または ④（強）を押して、サポートの強さを調整します。

ℹ 右側シートは、スイッチ ②（弱）と ④（強）の位置が逆になります。

シートヒーター *

⚠ **警 告**

シートヒーターを強で連続して使用しないでください。また、コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。

異常過熱による低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こしたり、シートヒーターが故障するおそれがあります。

⚠ **警 告**

以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、病人、身体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 眠気を誘う薬を服用された方
- 飲酒した方

シートヒーターの作動を 3 段階に調整できます。

ℹ バッテリーの電圧が低下すると、シートヒーターが停止することがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

シートヒーターを使用する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ シートヒータースイッチ ① を押します。

シートヒータースイッチを押すごとに点灯する表示灯の数が変わり、シートヒーターの作動が切り替わります。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ ① を押して、表示灯を消灯させます。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 約 8 分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約 10 分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約 20 分後に自動的に停止します。
0	停止します。

! シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

シートヒーターのトラブル

シートヒーターが短時間で停止したり、作動しないときは、多くの電気装備が使用されているために電圧が低下しています。

▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。

シートベンチレーター *

シートベンチレーターの作動を 3 段階に調整できます。

ℹ バッテリーの電圧が低下すると、シートベンチレーターが停止することがあります。

シートベンチレーターを使用する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ シートベンチレータースイッチ ① を押します。

シートベンチレータースイッチを押すごとに点灯する表示灯の数が変わり、シートベンチレーターの作動が切り替わります。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートベンチレーターが強で作動します。
2	シートベンチレーターが中で作動します。
1	シートベンチレーターが弱で作動します。
0	停止します。

シートベンチレーターを停止する

▶ シートベンチレータースイッチ ① を押して、表示灯を消灯させます。

ℹ リモコン操作でドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * を開くと、運転席のシートベンチレーターが強で作動します。

シートベンチレーターのトラブル

シートベンチレーターが短時間で停止したり、作動しないときは、多くの電気装備が使用されているために電圧が低下しています。

▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ステアリング

⚠ **警 告**

ステアリングの調整は、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警 告**

運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、運転席エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。

ステアリングのパッド部にカバーをしたり、バッジやステッカー、オーディオのリモコンなどを貼り付けないでください。運転席エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

! ステアリングをいっぱいにまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。

! 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

ステアリング位置の調整（手動式）

① ロック解除ハンドル
② 上下位置の調整
③ 前後位置の調整

▶ ロック解除ハンドル ① を矢印の方向に押し下げます。

ステアリング調整のロックが解除されます。

▶ ステアリングを前後上下に動かして、正しい位置に調整します。

▶ ロック解除ハンドル ① をいっぱいまで引き上げます。

ステアリングがロックされます。

▶ ステアリングが完全にロックされていることを確認します。

そのときは、ステアリングに前後上下に押して確認してください。

⚠ **警 告**

ステアリングがロックされていない状態で走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

ステアリング位置の調整（電動式）

① 上下位置の調整
② 前後位置の調整

⚠ **警 告**

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもステアリング位置を調整できるため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。ステアリング調整レバーを操作してステアリングに挟まれるおそれがあります。

上下位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを ① の方向に操作します。

前後位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを ② の方向に操作します。

ℹ メモリー付パワーシート装備車のステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶させることができます（▷95 ページ）。

イージーエントリー機能 *

⚠ **警 告**

イージーエントリー機能が作動しているときは、乗員の身体が挟まれないように注意してください。

身体が挟まれそうになったときは、以下の操作をしてください。

- ステアリング調整レバーをいずれかの方向に操作する
- 運転席ドアのいずれかのポジションスイッチ（▷96 ページ）を押す

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転席ドアを開いたときなどにイージーエントリー機能が作動して、ステアリングに身体が挟まれるおそれがあります。

イージーエントリー機能は、運転席への乗り降りを容易にする機能です。

次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- イグニッション位置が **0** か **1** のときに運転席ドアを開く

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じた状態で、エンジンスイッチにキーを差し込む
- イグニッション位置が **0** のときは、運転席ドアを閉じてからイグニッション位置を **1** にする
- イグニッション位置が **1** のときは、運転席ドアを閉じてイグニッション位置を **2** にする

この機能の設定と解除については（▷169 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ ステアリングが上方の位置にあるときは、イージーエントリー機能は作動しないことがあります。

クラッシュセンサー連動機能

事故などのときに、クラッシュセンサーに連動してイージーエントリー機能が作動します。イグニッション位置に関わらず、事故などのときに運転席ドアを開くと、ステアリングが上方に移動して、車外への脱出と乗員の救出を容易にします。

クラッシュセンサー連動機能は、マルチファンクションディスプレイでイージーエントリー機能を設定しているときにのみ作動します。

ミラー

⚠ **警 告**

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーやドアミラーには死角があります。車線変更をするときなどは、必ずルームミラーおよびドアミラーで後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ルームミラーやドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。ガラスクリーナーによっては、ミラーが変色するおそれがあります。

ルームミラー

ルームミラーの角度調整

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

ドアミラー

⚠ **警告**

ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。車線変更をするときなどは、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。

ⓘ より広い視界を確保するため、ドアミラーの外側部分は凸面になっています。

ⓘ ドアミラーにはヒーターが装備されています。外気温度が低いときにリアデフォッガーを使用したときは、自動的に温められ、凍結を防ぎます。

ドアミラーの角度調整

左ハンドル車

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 調整する側のドアミラー選択スイッチ ① または ② を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

何も操作を行なわないと、表示灯は約 15 秒後に消灯します。

▶ ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯しているときに、ドアミラー調整スイッチ ③ を操作してドアミラーの角度を調整します。

ⓘ メモリー付パワーシート装備車のドアミラーの角度は、運転席シートの位置やステアリングの位置と併せて記憶させることができます（▷95 ページ）。

ドアミラーの格納 / 展開

左ハンドル車

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 格納 / 展開スイッチ ① を押します。

ドアミラーが格納 / 展開します。

! ドアミラーは手で格納 / 展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

! 走行するときはドアミラーが完全に展開されていることを確認してください。

! ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

ドアミラーのリセット

バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、施錠時のドアミラー格納が作動しないことがあります。このようなときは、ドアミラーをリセットしてください。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ 格納 / 展開スイッチ①を押します。

施錠時のドアミラー格納

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠すると、ドアミラーも併せて格納されます。

格納されたドアミラーは、ドアを開くと展開します。

この機能の設定と解除については (▷171 ページ) をご覧ください。

i ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納したときは、ドアミラーは展開しません。

ドアミラーが無理に外側に曲げられたとき

ドアミラーが無理に外側に曲げられたときは、以下のようにしてください。

▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ (▷92 ページ) を、ギアが噛み合う音が聞こえるまで押します。

ドアミラーユニットのギアが噛み合うと、通常通りドアミラーを格納 / 展開できるようになります。

ルームミラーの防眩機能

自動防眩ルームミラー

⚠ 警 告

車内に高さのある荷物を積んでいるときなど、ルームミラーのセンサーに後続車のライトが照射されないときは自動防眩機能は作動しないことがあるため、眩惑により事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でルームミラーの角度を調整してください。

周囲が暗く、イグニッション位置が **1** か **2** のときに、ルームミラーのセンサーが後続車のライトを感知すると、自動的にルームミラーと運転席側のドアミラーの色の濃度が変わり、眩しさを防止します。

i セレクターレバーが **R** に入っているときは、自動防眩機能が解除されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パーキングヘルプ機能 *

後退時の助手席側ドアミラー角度を記憶させる

左ハンドル車

セレクターレバーを R に入れたときに、助手席側ドアミラーの角度があらかじめ記憶させていた角度になり、車両後方の視界を確保して、後退を容易にします。

▶ 停車して、イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ ② を押します。

▶ セレクターレバーを R に入れます。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

▶ ドアミラー調整スイッチ ③ で、助手席側ドアミラーを後退時に後方が確認しやすい角度に調整します。

調整した角度が新たに記憶されます。

ⓘ セレクターレバーを R から他の位置に入れると、助手席側ドアミラーは走行時の角度に戻ります。

ⓘ メモリースイッチ ④ により、後退時の助手席側ドアミラー角度を記憶させることもできます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯しているときに、ドアミラー調整スイッチ ③ で、後退時に後方を確認しやすい角度に助手席側ドアミラーを調整します。

▶ 運転席ドアのメモリースイッチ ④ を押します。

▶ 約 3 秒以内にドアミラー調整スイッチ ③ をいずれかの方向に押します。

このとき助手席側ドアミラーが動かなければ、そのときの角度に記憶されます。

助手席側ドアミラーが動いたときは最初からやり直してください。

▶ ドアミラー調整スイッチ ③ で、走行時の角度に助手席側ドアミラーを調整します。

! 走行する前に、必ずドアミラーの角度を後方が十分確認できるように調整してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

記憶させた助手席側ドアミラー角度の呼び出し

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ ② を押します。

▶ セレクターレバーを **R** に入れます。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- 走行速度が約 15km/h 以上になったとき
- セレクターレバーを **R** から他の位置に入れて約 10 秒経過したとき
- 運転席側ドアミラー選択スイッチ ① を押したとき

ℹ パーキングヘルプ機能が作動しているときは、助手席側ドアミラー選択スイッチ ② の表示灯が点灯します。

メモリー機能 *

シート位置の記憶

⚠ **警 告**

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもメモリー機能は作動するため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。シートやステアリングが動き出し、身体が挟まれるおそれがあります。

⚠ **警 告**

運転席側の記憶位置の呼び出しは、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

メモリー機能では、例えば 3 人の異なる運転者のために 3 つの位置を記憶させることができます。

以下の項目がひとつの設定として記憶されます。

- シートとバックレスト、ヘッドレストの位置
- 運転席側は、ステアリングの位置
- 運転席側は、運転席側および助手席側ドアミラーの角度

* オプションや仕様により、異なる装備です。

左側ドアのスイッチ

▶ 正しいシート位置に調整します（▷83 ページ）。

運転席では、さらにステアリングの位置（▷90 ページ）、ドアミラーの角度（▷92 ページ）を調整します。

ドアミラーの角度を調整するときは、イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ メモリースイッチ **"M"** を押します。

▶ 3 秒以内にポジションスイッチの **"1"**、**"2"**、**"3"** のいずれかを押します。

ピッという確認音が鳴り、そのポジションスイッチにシート位置などが記憶されます。

シート位置の呼び出し

▶ 呼び出したいポジションスイッチ **"1"**、**"2"**、**"3"** のいずれかを押し続けます。

シートなどが動きはじめ、あらかじめ記憶させた位置になると停止します。

ℹ 安全のため、ポジションスイッチから手を放すとシートなどは停止します。

シートベルト

シートベルトの着用

⚠ **警 告**

- シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの機能が十分に発揮されず、致命的なけがをするおそれがあります。
- 着用前に、シートベルトやバックルに損傷や汚れがないことを確認してください。
- 乗員全員が、常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。
- シートベルトは身体に密着させて、ねじれのないように着用してください。
- コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
- 肩を通るベルトは肩の中央にかけ、絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて胸に密着させてください。
- 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。
- ペンや眼鏡など、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にシートベルトをかけないでください。
- シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。

- 子供を膝の上に座らせて走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに子供を保護することができず、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。必ずチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供の安全を確保してください。

  詳しくは（▷43 ページ）をご覧ください。
- 子供が着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。
- チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に添付されている取扱説明書に従ってください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトを使って、重い荷物などを固定しないでください。

⚠ 警告

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い位置で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

- シートベルトが以下のようなときは、機能が十分に発揮されずに致命的なけがをするおそれがあります。
  - ◇ シートベルトが損傷しているとき
  - ◇ 事故などでシートベルトに大きな衝撃がかかったとき
  - ◇ シートベルトを改造・分解したとき
- 鋭利な部分の上にシートベルトを通さないでください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトがドアやシートレールに挟まれていないことを確認してください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトを改造したり分解しないでください。
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるため、清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない
- シートベルトに損傷がないか、定期的に点検してください。

シートベルトを着用する

▶ フロントシートは、シートを調整し、バックレストをできるだけ垂直に近い角度にします。

▶ シートベルトをベルトアンカー ① からゆっくりと引き出します。

シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、肩を通るベルトが肩の中央に、腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにします。

▶ プレート ② の先端をバックル ③ に差し込みます。

フロントシートは、テンション自動調整機能 * が作動します。

▶ 必要であれば、肩を通るベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

フロントシートベルトのテンション自動調整機能 *

フロントシートベルトにはテンション自動調整機能が装備されています。

イグニッション位置が **2** のときに、プレートの先端をバックルに差し込むと、シートベルトが身体に密着するように、自動的にシートベルトのテンション（締め付け具合）を調整します。

この機能の設定と解除については（▷170 ページ）をご覧ください。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート ② を持ち、バックル ③ の解除ボタン ④ を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。シートベルトやプレートがドアやシートに挟まれて、ドアや内張り、シートベルトを損傷するおそれがあります。損傷したシートベルトは乗員保護効果を十分に発揮できないため、交換する必要があります。詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

シートベルト着用警告

シートベルト警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、エンジンを始動してから数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンがかかっているときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用せずにエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約 25km/h 以上になったときに、運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないかシートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約 60 秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みます。ただし、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約 25km/h 以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

ⓘ 助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

正しい運転姿勢

⚠ **警告**

- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- バックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ **警告**

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。

運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

▶ 以下のことに注意して、シート③とヘッドレストを調整します。

- 運転席エアバッグとの間隔を、できるだけ確保する
- 正しい姿勢で着座している
- シートベルトが正しく着用できる
- バックレストをできるだけ垂直に調整している
- 大腿部がシートクッションに軽く支えられている
- ペダルが楽に踏み込める

▶ 以下のことに注意してヘッドレストを調整します。

- ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストに支えられていることを確認する

▶ 以下のことに注意して、ステアリング①を調整します。

- ステアリングを握ったときに、腕に適度な余裕がある
- 足を自由に動かせる
- メーターパネルのすべてのメーター類やマルチファンクションディスプレイ、警告灯や表示灯を確認できる

▶ 以下のことに注意して、シートベルト②を着用します。

- シートベルトが身体に密着している
- 肩を通るベルトが肩の中央にかかっている
- 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかっている

▶ 走行する前に、道路や交通状況が十分確認できるようにルームミラーとドアミラーを調整します。

▶ メモリー付パワーシート装備車は、メモリー機能で、シートとステアリングの位置、ドアミラーの角度を記憶させます。

! シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

! シートの一部が他の乗員や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。

! 誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

ライト

ライトスイッチ

左ハンドル車

	位置	作動内容
1	←P	左側パーキングライトが点灯
2	P→	右側パーキングライトが点灯
3	車幅灯	車幅灯、テールランプ、ライセンスライト、メーターパネルの照明が点灯
4	AUTO	オートモード
5	ヘッドライト	ヘッドライト、LED ドライビングライト * が点灯
⑥	リアフォグ	リアフォグランプスイッチ
⑦	フロントフォグ	フロントフォグランプスイッチ *

! バッテリーあがりを防ぐため、車から離れるときは、車幅灯とパーキングライトを消灯してください。

i ライトスイッチが 車幅灯 の位置のとき、エンジンスイッチにキーが差し込まれていないかキーレスゴー操作 * でイグニッション位置を **0** にしているときは、運転席ドアを開くと警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ライトを消してください " と表示されます。

i 車から離れるときに警告音が鳴ったときは、ライトが消灯していません。ライトスイッチを AUTO の位置にしてください。

車外ライトの消灯

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のときや、エンジンがかかっているときは、ライトスイッチを P→ または ←P の位置にします。

i ヘッドライトと LED ドライビングライト * が点灯しているときに、エンジンを停止するか、イグニッション位置を **1** にすると、ヘッドライトと LED ドライビングライト * は消灯します。

さらにイグニッション位置を **0** にして運転席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、車幅灯なども消灯します。

車幅灯

車幅灯を点灯する

▶ ライトスイッチを 車幅灯 の位置にします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ヘッドライト / LED ドライビングライト *

ヘッドライト / LED ドライビングライトを点灯する

▶ イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを [ヘッドライト] の位置にします。

メーターパネルのヘッドライト表示灯 [ヘッドライト] が点灯します。

オートモード

周囲が暗いとき、車外ライトが自動的に点灯します。

⚠ 警 告

霧の中を走行するときにオートモードにしていると、ライトが自動的に点灯しなかったり点灯していたライトが消灯することがあるため、事故を起こすおそれがあります。霧の中を走行するときはライトスイッチを [ヘッドライト] の位置にしてください。

ライトのオートモードは運転者を支援する機能です。ライトの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。

ⓘ フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。センサー部にステッカーなどを貼付すると、オートモードが作動しなくなります。

オートモードにする

▶ ライトスイッチを AUTO の位置にします。

イグニッション位置を **1** にすると、周囲の明るさに応じて、車幅灯、テールランプ、ライセンスライト、メーターパネル、スイッチの照明などが自動的に点灯 / 消灯します。

エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドライト / LED ドライビングライト * も自動的に点灯し、メーターパネルのヘッドライト表示灯 [ヘッドライト] が点灯します。

フロントフォグランプ *

⚠ 警 告

霧の中で走行することが見込まれる場合は、走行前にライトスイッチを [ヘッドライト] の位置にしてください。十分な視界が確保できず、事故を起こすおそれがあります。

! フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。

フロントフォグランプを点灯する

▶ イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを [車幅灯] AUTO [ヘッドライト] のいずれかの位置にして、車外ライトを点灯させます。

▶ フロントフォグランプスイッチ [フォグランプ] を押します。

メーターパネルのフロントフォグランプ表示灯 [フォグランプ] が点灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

フロントフォグランプを消灯する

▶ 再度、フロントフォグランプスイッチ [フロントフォグランプ] を押します。

メーターパネルのフロントフォグランプ表示灯 [フロントフォグランプ] が消灯します。

リアフォグランプ

リアフォグランプを点灯する

▶ イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを [ヘッドライト] または AUTO の位置にします。

▶ リアフォグランプスイッチ [リアフォグランプ] を押します。

メーターパネルのリアフォグランプ表示灯 [リアフォグランプ] が点灯します。

リアフォグランプを消灯する

▶ 再度、リアフォグランプスイッチ [リアフォグランプ] を押します。

メーターパネルのリアフォグランプ表示灯 [リアフォグランプ] が消灯します。

ℹ フロントフォグランプ装備車は、ライトスイッチが [車幅灯] の位置のときは、フロントフォグランプを点灯しているときに、リアフォグランプを点灯することができます。

ℹ オートモードで車外ライトが消灯しているときにリアフォグランプスイッチ [リアフォグランプ] を押してリアフォグランプを点灯させると、車幅灯やヘッドライトなども点灯します。

パーキングライト

暗がりでの駐車時に車の存在を知らせるため、片側のフロント車幅灯とリアパーキングライトが点灯します。

イグニッション位置が **0** のとき、またはキーを差し込んでいないときに点灯することができます。

パーキングライトを点灯する

▶ ライトスイッチを [右パーキングライト] の位置にします。

右側のフロント車幅灯とリアパーキングライトが点灯します。

または

▶ ライトスイッチを [左パーキングライト] の位置にします。

左側のフロント車幅灯とリアパーキングライトが点灯します。

車外ライト残照機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、以下のライトが点灯します。

- 車幅灯
- フロントフォグランプ * または LED ドライビングライト *
- テールランプ
- ライセンスライト
- ドアミラー下部のライト *

点灯した車外ライトは、ドアやトランクを開いて閉じた後、約 15 秒経過すると消灯します。

この機能の設定と解除については（▷166 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ ライトが消灯するまでの時間は、ドアやトランクを閉じてから消灯するまでのおよその時間です。

エンジンを停止してからドアやトランクを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約 60 秒後に、ライトは消灯します。

車外ライト残照機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後に、イグニッション位置を **2** にします。

ヘッドライトの照射角度調整 *

乗員数が増えたり、荷物を積載してヘッドライトの照射角度が変わったときは、対向車への眩惑を防ぐため照射角度を調整します。

❗ トランクに積載する荷物の制限重量に注意してください（▷361 ページ）。

ℹ バイキセノンヘッドライト装備車のヘッドライト照射角度は、自動的に調整されます。

位置	作動内容
0	運転席と助手席に乗車するとき
1	運転席と助手席、後席に乗車するとき
2	運転席と助手席、後席に乗車し、トランクに荷物を積載しているとき
3	運転席と助手席に乗車し、トランクに重い荷物を積載しているとき

ヘッドライトの照射角度を調整する

▶ エンジンを始動します。

▶ 乗員や荷物の積載量に応じて、ヘッドライト照射角度調整ダイヤルで調整します。

ℹ 対向車に迷惑がかからないように注意しながら調整してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ヘッドライトウォッシャー *

エンジンがかかっていてヘッドライトが点灯しているときに、フロントウインドウウォッシャー（▷116 ページ）を約 5 回噴射させると、ヘッドライトウォッシャーがヘッドライトに向けて 2 回噴射されます。

その後、ウインドウウォッシャーを約 5 回噴射させるたびに、ヘッドライトウォッシャーがヘッドライトに向けて 2 回噴射されます。

! ヘッドライトには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

i 状況によっては、最初にウインドウウォッシャーを噴射させたときに、ヘッドライトウォッシャーが噴射されることがあります。

i エンジンを停止すると、ウインドウウォッシャーを噴射させた回数はリセットされます。

i 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

コンビネーションスイッチ

方向指示

① ヘッドライト（上向き）
② 方向指示（右側）
③ パッシング
④ 方向指示（左側）

イグニッション位置が **1** か **2** のときに点滅させることができます。

方向指示灯を短時間点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを ② または ④ の方向に軽く操作します。

操作した側の方向指示灯が 3 回点滅します。

方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを ② または ④ の方向に操作します。

操作した側の方向指示灯が点滅します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

ℹ 方向指示灯を使用しているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯が点滅します。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。

ヘッドライトの上向き / 下向きの切り替え

ヘッドライトを上向きにする

▶ イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを [ロービーム] または [AUTO] の位置にします。

▶ コンビネーションスイッチを ① の位置にします。

ヘッドライトが上向きで点灯し、メーターパネルのハイビーム表示灯 [ハイビーム] が点灯します。

ライトスイッチが [AUTO] の位置のときは、周囲が暗く、エンジンがかかっているときにのみ、ヘッドライトが上向きで点灯します。

! 対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドライトを上向きで点灯しないでください。

ヘッドライトを下向きにする

▶ コンビネーションスイッチを元の位置にします。

メーターパネルのハイビーム表示灯 [ハイビーム] が消灯します。

パッシング

▶ イグニッション位置を **1** か **2** の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ コンビネーションスイッチを ③ の方向に引きます。

引いている間、ヘッドライトが上向きで点灯し、メーターパネルのハイビーム表示灯 [ハイビーム] が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと元の位置に戻ります。

非常点滅灯

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯は、イグニッション位置が **0** のときやエンジンスイッチからキーを抜いているときも点滅させることができます。

また、以下のときに自動的に点滅します。

- エアバッグが作動したとき
- 約 70km/h 以上で走行中に急ブレーキを効かせて停車したとき

非常点滅灯を使用する

▶ 非常点滅灯スイッチ ① を押します。

すべての方向指示灯が点滅し、スイッチと、メーターパネルの方向指示表示灯も同時に点滅します。

ℹ 非常点滅灯を使用しているときに方向指示の操作をすると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

非常点滅灯を消灯する

▶ 非常点滅灯スイッチ ① を押します。

ℹ エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。

自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

ℹ 約 70km/h 以上の走行中に急ブレーキを効かせて停車したときは、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、走行速度が約 10km/h 以上になると消灯します。

インテリジェントライトシステム *

インテリジェントライトシステムは、走行時や天候の状況に合わせてヘッドライトを自動的に調整するシステムです。

走行速度や天候状況などに応じて路面の照射を向上させる効果があります。

システムには、アクティブライトシステム、コーナリングライト、ハイウェイモード、フォグランプ強化機能が含まれます。インテリジェントライトシステムは、周囲が暗いときにのみ作動します。

この機能の設定と解除については (▷165 ページ) をご覧ください。

アクティブライトシステム

ヘッドライトが点灯しているとき、走行中にステアリングを操作すると、操作した方向にヘッドライトの向きが変わります。

ℹ ヘッドライトの角度は、ステアリングの操作角度や走行速度に応じて変化します。

ℹ 変化するヘッドライトの角度は小さいため、変化がわかりにくいことがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

コーナリングライト

以下のときに、方向指示灯の点滅、またはステアリング操作に連動して、コーナリングライトが点灯します。

- 周囲が暗いとき
- エンジンがかかっているとき
- ヘッドライトを点灯しているとき

コーナリングライトの点灯

▶ 走行速度が約 40km/h 以下のときに方向指示灯を点滅させるか、ステアリングを操作します。

方向指示灯を点滅させた側、またはステアリングを操作した側のコーナリングライトが点灯します。

▶ 走行速度が約 40km/h から約 70km/h の間のときにステアリングを操作します。

ステアリングを操作した側のコーナリングライトが点灯します。

コーナリングライトの消灯

コーナリングライトは以下のときに消灯します。

- 走行速度が約 40km/h 以上になったとき
- 方向指示灯の操作を終えたとき
- ステアリングを直進位置に戻したとき

ⓘ 方向指示灯を点滅させたとき、セレクターレバーが R に入っているときは、コーナリングライトは点灯しません。

ⓘ ステアリングを操作したとき、セレクターレバーが R に入っているときは、ステアリングを操作した側と逆側のコーナリングライトが点灯します。

ⓘ 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のコーナリングライトが点灯します。

ⓘ コーナリングライトはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のコーナリングライトが点灯することがあります。

ⓘ 点灯したコーナリングライトは約 3 分後に自動的に消灯します。

ハイウェイモード

以下のときに、ヘッドライトの照度や照射範囲を自動的に調整します。

- 約 110km/h 以上の走行速度で、ステアリングを大きく操作することなく約 1km 走行したとき

- 走行速度が約 130km/h を超えたとき

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

走行速度が約 80km/h 以下になると、ハイウェイモードは停止します。

フォグランプ強化機能

ヘッドライトが道路の脇を照射することで視界を確保し、眩しさを軽減します。

走行速度が約 70km/h 以下のときにリアフォグランプを点灯すると作動します。

走行速度が約 100km/h を超えるか、リアフォグランプを消灯すると、フォグランプ強化機能は停止します。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

アダプティブハイビームアシスト *

フロントウインドウ上のカメラにより路面状況や交通状況を検知し、ヘッドライトを自動的に上向きと下向きに切り替えます。他の車を幻惑することなく、状況に応じて路上を適切に照射します。

ヘッドライトが下向きから上向きに切り替わるときは、ヘッドライトの光量がゆっくり変化します。

アダプティブハイビームアシストを作動させる

▶ エンジンを始動します。

▶ マルチファンクションディスプレイで、アダプティブハイビームアシストを設定します（▷165 ページ）。

▶ ライトスイッチを AUTO の位置にします。

▶ コンビネーションスイッチを ① の位置にします（▷105 ページ）。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

周囲が暗く、ヘッドライトが下向きで点灯したときは、マルチファンクションディスプレイにアダプティブハイビームアシストマーク ① が表示されます。

※ 車種や仕様により、アダプティブハイビームアシストマークが表示される位置は異なります。

走行速度が約 45km/h になると、アダプティブハイビームアシストによりヘッドライトの光軸調整が開始されます。

走行速度が約 55km/h 以上で、他の車両などを検知しない場合は、自動的にヘッドライトが上向きになり、メーターパネルにハイビーム表示灯 ≣D も表示されます。

走行速度が約 45km/h 以下で、他の車両を検知したり、道路が照明で照らされている場合は、ヘッドライトが下向きになり、ハイビーム表示灯 ≣D は消灯しますが、アダプティブハイビームアシストマーク ① は表示されたままになります。

アダプティブハイビームアシストを解除する

▶ コンビネーションスイッチを元の位置にします。

アダプティブハイビームアシストマーク ① が消えます。

⚠ **警 告**

- アダプティブハイビームアシストは運転者を支援する機能です。運転者は視界や道路状況、交通状況に応じて、ヘッドライトの下向き / 上向きを手動で切り替えてください。
- 以下のときは、システムの作動に影響を与えたり、システムが作動しないことがあります。
  - ◇ 降雪時や降雨時、霧のときなど視界が悪いとき
  - ◇ フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、またはカメラ付近にステッカーなどが貼付されているとき
- 以下のような場合は、歩行者や自転車を検知できない場合があります。
  - ◇ 歩行者がライトを持っていないときや自転車にライトが装着されていないとき
  - ◇ 歩行者がライトを持っていたり、自転車にライトが装着されていても、ライトが暗いとき
  - ◇ 荷物を持っていたり、ガードレールの後ろにいるなど、歩行者が持っているライトや自転車に装着されているライトが遮られて検知できないとき
- 歩行者がライトを持っていたり、自転車にライトが装着されていても、まれに検知が遅れたり、検知できないことがあります

- 車両の前を人が横切った場合や車両に近づいてくる場合は、ヘッドライトが自動的に切り替わらなかったり、不意に切り替わる場合があります。事故を起こすおそれがあるため、常に交通状況に注意し、必要であれば、手動でヘッドライトの向きを切り替えてください。

ヘッドライトの内側が曇るとき

外気の湿度が高いときは、ヘッドライトの内側が曇ることがあります。

▶ ヘッドライトを点灯して走行してください。

走行距離や天候（湿度と気温）に応じて、ヘッドライト内側の曇りは取れます。

▶ ヘッドライト内側の曇りが取れない場合は、メルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ルームランプ

パノラミックスライディングルーフ装備車
① リアルームランプスイッチ
② 点灯モード切り替えスイッチ
③ フロント読書灯（右側）スイッチ
④ フロントルームランプスイッチ
⑤ フロント読書灯（左側）スイッチ

点灯モードの切り替え

自動点灯モードにする

▶ 点灯モード切り替えスイッチ を押して、スイッチが押されていない状態にします。

自動点灯モードになり、以下のときにフロントルームランプとリアルームランプが点灯します。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠したとき

  点灯したルームランプは約 40 秒後に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜いたとき

  点灯したルームランプは約 20 秒後に消灯します。

  この機能の設定と解除については、（▷167 ページ）をご覧ください。

車両の操作

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- ドアを開いたとき

  イグニッション位置が **2** のときは、点灯したルームランプは消灯しません。ドアを閉じると、ルームランプはただちに消灯します。

  イグニッション位置が **2** 以外のときやエンジンスイッチからキーを抜いてあるときは、点灯したルームランプは約 5 分後に消灯します。ドアを閉じると、ルームランプは約 10 秒後に消灯します。

- 開いていたドアを閉じたとき

  点灯したルームランプは約 10 秒後に消灯します。

ⓘ 自動点灯モードになっていても、周囲が明るいときはルームランプが点灯しないことがあります。

常時消灯モードにする

▶ 点灯モード切り替えスイッチ [OFF] を押して、スイッチが押された状態にします。

以下のいずれかの操作をしても、ルームランプは点灯しません。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠する
- エンジンスイッチからキーを抜く
- ドアを開閉する

ルームランプ、フロント読書灯

フロントルームランプを点灯 / 消灯する

▶ スイッチ [ ] を押して点灯 / 消灯します。

リアルームランプを点灯 / 消灯する

▶ スイッチ [ ] を押して点灯 / 消灯します。

フロント読書灯を点灯 / 消灯する

▶ スイッチ [ ] を押して点灯 / 消灯します。

ⓘ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠すると、点灯していたフロント読書灯は消灯します。車種や仕様により、次に解錠したとき、施錠前に点灯していたフロント読書灯は再度点灯します。

ルームミラー下部のライト

周囲が暗いときに車外ライトが点灯すると点灯します。車外ライトが消灯すると消灯します。

ドア赤色灯 *

ドアを開くと点灯します。

- イグニッション位置が **2** のときは、点灯したドア赤色灯は消灯しません。
- イグニッション位置が **2** 以外のときやエンジンスイッチからキーを抜いてあるときは、点灯したドア赤色灯は約 5 分後に消灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

乗降用ライト *

ダッシュボード左右下部に乗降用ライトがあります。

- ドアを開くと、明るい照度で点灯します。
  - ◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアを開いたままにすると点灯した乗降用ライトは消灯しません。ドアを閉じると、暗い照度で点灯します。
  - ◇イグニッション位置が **2** 以外のときやエンジンスイッチからキーを抜いてあるとき、ドアを開いたままにすると点灯した乗降用ライトは約 5 分後に消灯します。ドアを閉じると、暗い照度で約 10 秒間点灯した後に消灯します。
- イグニッション位置を **2** にすると暗い照度で点灯し、イグニッション位置を **2** 以外にすると約 10 秒後に消灯します。

ドアレバーライト *

ドアレバー上方にドアレバーライトがあります。

周囲が暗いときに車外ライトが点灯すると点灯します。

車外ライトが消灯してから約 2 分後に消灯します。

緊急時点灯機能

事故などのときに大きな衝撃を受けると、ルームランプが自動的に点灯します。

自動的に点灯したルームランプを消灯する

▶ 非常点滅灯スイッチを押します。

または

▶ キーの施錠ボタン [施錠] を押した後に解錠ボタン [解錠] を押します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ワイパー

ワイパーの操作

⚠ 警告

ワイパーブレードのゴムが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取ることができません。視界を妨げて周囲の交通状況を把握できず、事故の原因になります。

ワイパーブレードは年に 2 回の目安で交換してください。

! フロントウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付いたり、ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。フロントウインドウが汚れているときは、必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを使用してください。

! 自動洗車機で洗車した後に、ワイパーを使用してもフロントウインドウに油膜が残るときは、ウインドウにワックスや洗浄液などが付着している可能性があります。自動洗車機で洗車した後は、ウォッシャー液を噴射してフロントウインドウを清掃してください。

! フロントウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを停止の位置にしてください。ワイパーが作動して、けがをするおそれがあります。

! ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

! エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを停止の位置にしてください。コンビネーションスイッチが低速作動モードや高速作動モードの位置のときにイグニッション位置を **1** にすると、ワイパーが作動し、フロントウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。

! 寒冷時にはワイパーブレードがフロントウインドウに張り付くことがあります。作動させる前に張り付いていないことを確認してください。張り付いたままワイパーを作動させると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。

! 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを作動させてください。作業の際には、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

位置		作動内容
1	0	停止
2	···	オートモードⅠ ℹ レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度に応じて、ワイパーの作動が自動調整されます。
3	····	オートモードⅡ オートモードⅠよりも少ない雨滴量で作動します。 ℹ レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度に応じて、ワイパーの作動が自動調整されます。
4	—	低速作動モード 停車時やごく低速での走行時は、間欠作動になります。
5	═	高速作動モード 停車時やごく低速での走行時は、低速作動になります。
⑥		ウインドウウォッシャーの噴射

ワイパーを作動させる

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ コンビネーションスイッチをまわして、作動内容を選択します。

ワイパーを 1 回だけ作動させる

▶ コンビネーションスイッチを ⑥ の方向に軽く押します。

ウォッシャー液が噴射せずに、ワイパーが 1 回だけ作動します。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

ℹ フロントウインドウが濡れていなくても、オートモードⅠまたはオートモードⅡにすると、ワイパーが 1 回作動します。

ℹ ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。

ℹ オートモードⅠまたはオートモードⅡでワイパーが作動しているとき、停車時にドアを開くとワイパーは停止します。ワイパーは以下のときに作動を再開します。

- セレクターレバーが **P** または **N** に入っている場合は、ドアを閉じて、セレクターレバーを他の位置にしたとき
- セレクターレバーが **D** または **R** に入っている場合は、ドアを閉じたとき

レインセンサー

フロントウインドウ上部中央にレインセンサーがあります。

! レインセンサー部にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

! フロントウインドウが濡れていないときは、コンビネーションスイッチを停止位置にしてください。フロントウインドウの汚れや光線の反射などでレインセンサーが誤作動し、ワイパーが作動するおそれがあります。

フロントウインドウウォッシャーの噴射

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ コンビネーションスイッチを ⑥ の方向にいっぱいまで押し続けます。

その間ウインドウウォッシャー液が噴射して、ワイパーも作動します。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

i 純正ウインドウウォッシャーには油膜や汚れの付着を防ぐ効果があります。

i 冬季にはウインドウウォッシャー液の濃度に注意し、冬用のウインドウウォッシャー液を使用してください。

i エンジンがかかっていて、ヘッドライトが点灯しているときに、ウインドウウォッシャーを噴射すると、ヘッドライトウォッシャー * が 2 回噴射されます。

その後、ウインドウウォッシャーを約 5 回噴射させるたびに、ヘッドライトウォッシャーが 2 回噴射します。

ワイパーのトラブル

ワイパーの作動が妨げられている

葉や雪など、ウインドウに障害になる物が付着しているため、ワイパーの作動が妨げられている。ワイパーモーターの作動が停止している。

▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜きます。

または

▶ イグニッション位置を **0** にして、運転席ドアを開きます。

▶ 障害物を取り除きます。

▶ 再度、ワイパーを作動させます。

ワイパーが作動しない

ワイパーが故障している。

▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。

ウインドウウォッシャー液の噴射ノズルの角度が適切でない

ウインドウウォッシャー液がフロントウインドウの中央に噴射されない。ウインドウウォッシャー液の噴射ノズルの角度が適切でない。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で噴射ノズルの角度を調整してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パワーウインドウ

⚠ 警告

ドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。

⚠ 警告

ドアウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにドアウインドウスイッチを操作してドアウインドウを開いてください。

⚠ 警告

子供が車内からドアウインドウを開閉すると、けがをするおそれがあります。子供だけを残して車から離れないでください。短時間でも、車から離れるときは、キーを携帯してください。

⚠ 警告

子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

- 車内の各部に触れて、重大なけがや致命的なけがをするおそれがあります。
- 車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられて重大なけがをするおそれがあります。

子供を乗せるときは、後席に乗車させてください。走行中にドアやドアウインドウが開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。

ドアウインドウの開閉

運転席ドアのスイッチ（左ハンドル車）
①左ドアウインドウスイッチ
②右ドアウインドウスイッチ

パワーウインドウスイッチは各ドアにあります。

運転席ドアには、すべてのドアウインドウのスイッチがあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに開閉できます。

ドアウインドウを開く

▶ スイッチを軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチをいっぱいまで押すと、自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチを軽く引きます。

引いている間だけ閉じます。

スイッチをいっぱいまで引くと、自動で閉じます。

! 車から離れるときや洗車のときは、すべてのドアウインドウが完全に閉じていることを確認してください。

ⓘ PRE-SAFE®（▷42 ページ）が作動したときは、ドアウインドウが自動で閉じ、わずかに開いた状態で停止します。

ⓘ リモコン操作でドアウインドウを開くことができます(▷119 ページ)。

ⓘ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * でドアウインドウを閉じることができます（▷120 ページ）。

ⓘ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、ドアウインドウを開閉できます。約 5 分以内にドアを開くと、ドアウインドウの開閉はできなくなります。

ⓘ ドアウインドウが自動で開閉しているときにドアウインドウスイッチを操作すると、ドアウインドウはその位置で停止します。

ⓘ 運転席ドアのスイッチで助手席ドアウインドウを開閉しているときは、助手席ドアのスイッチで開閉中の助手席ドアウインドウを操作することはできません。

挟み込み防止機能

⚠ **警 告**

挟み込み防止機能が作動しない状態でドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

スイッチを引き続けてドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止します。スイッチから手を放すと、その位置から少し下降します。

その状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、ドアウインドウはより強い力で閉じます。

このときに挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、スイッチから手を放すと、その位置から少し下降します。

さらに、この状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

自動でドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、その位置から少し下降します。

ただし、2 度連続して挟み込み防止機能が作動してから約 2 秒以内に再度ドアウインドウを閉じたときは、ドアウインドウは自動で閉じなくなります。このときにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、挟み込み防止機能は作動しません。

コンビニエンスオープニング機能

車内が暑くなっているときなど、乗車する前に車内の空気を換気したいときは、リモコン操作により、以下の各部を操作することができます。

- 車両を解錠する
- ドアウインドウを開く
- パノラミックスライディングルーフ * を開く
- 電動サンシェード * を開く
- 運転席のシートベンチレーター * を作動させる

ⓘ コンビニエンスオープニング機能は、リモコン操作でのみ行なうことができます。操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

コンビニエンスオープニング機能を作動させる

▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向けます。

▶ キーの解錠ボタン [解錠] を押し続けます。

すべてのドアウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が開きます。

パノラミックスライディングルーフ * の電動サンシェード * が閉じているときは、電動サンシェード * が開きます。

シートベンチレーター装備車は、シートベンチレーターが強で作動します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

電動サンシェードが全開になった後、解錠ボタン から指を放し、再度押し続けると、パノラミックスライディンググルーフ * が開きます。

解錠ボタン から指を放すと、作動中のドアウインドウとパノラミックスライディンググルーフ * または電動サンシェード * はその位置で停止します。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

i エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは操作できません。

コンビニエンスクロージング機能

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * により、車外から以下の操作をすることができます。

- ドアウインドウを閉じる
- パノラミックスライディンググルーフ * を閉じる
- 電動サンシェード * を閉じる

車から降りた後に、ドアウインドウなどを閉じたいときに使用します。

⚠ 警 告

車外からドアウインドウやパノラミックスライディンググルーフ * などを閉じているときに身体などが挟まれそうになったときは、以下の操作を行なってください。

- リモコン操作の場合は、施錠ボタン から指を放してください。そして、解錠ボタン を押し続けて、ドアウインドウとパノラミックスライディンググルーフ * を開いてください。
- キーレスゴー操作 * の場合は、コンビニエンスクロージング操作部から指を放してください。そして、ただちにドアハンドルを引き続けてください。

  ドアウインドウとパノラミックスライディンググルーフ * が開きます。

! コンビニエンスクロージング機能でドアウインドウとパノラミックスライディンググルーフ * を閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下で操作を行なうと、作動しなかったり、誤作動することがあります。

! 車から離れる前に、すべてのドアウインドウとパノラミックスライディンググルーフ * が閉じていることを確認してください。

i エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは操作できません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リモコン操作での作動

ⓘ 操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

▶ キーの発信部を運転席ドアのドアハンドルに向けます。

▶ キーの施錠ボタン 🔒 を押し続けます。

すべてのドアウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が閉じます。

パノラミックスライディングルーフ * が閉じているときは、電動サンシェードが閉じます。

パノラミックスライディングルーフ * が全閉した後、施錠ボタン 🔒 から指を放し、再度押し続けると、電動サンシェードが閉じます。

施錠ボタン 🔒 から指を放すと、作動中のドアウインドウとパノラミックスライディングルーフ * または電動サンシェード * はその位置で停止します。

▶ すべてのドアウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が閉じていることを確認します。

キーレスゴー操作での作動 *

キーが車外にあり、すべてのドアが閉じているときに操作できます。

左ハンドル車

▶ ドアハンドルのコンビニエンスクロージング操作部 ① に触れ続けます。

すべてのドアウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が閉じます。

パノラミックスライディングルーフ * が全閉のときは、電動サンシェードが閉じます。

パノラミックスライディングルーフ * が全閉した後、施錠ボタンから指を放し、再度押し続けると、電動サンシェードが閉じます。

コンビニエンスクロージング操作部から指を放すと、作動中のドアウインドウとパノラミックスライディングルーフ * または電動サンシェード * はその位置で停止します。

▶ すべてのドアウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が閉じていることを確認します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ドアウインドウのリセット

ドアウインドウが完全に閉じなくなったときは、ドアウインドウのリセットを行なってください。

- ▶ すべてのドアを閉じます。
- ▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。
- ▶ 運転席ドアのドアウインドウスイッチを軽く引いてドアウインドウを全閉します。
- ▶ スイッチを軽く引いたまま 2 秒以上保持します。

ドアウインドウが少し開いた状態になるときは、下記の操作を行ないます。

- ▶ ただちに運転席ドアのドアウインドウスイッチを軽く引いてドアウインドウを全閉します。
- ▶ スイッチを軽く引いたまま 2 秒以上保持します。

スイッチから指を放したときにドアウインドウが閉じていれば、ドアウインドウはリセットされています。

ドアウインドウが少し開いた状態になるときは、再度上記の操作を行なってください。

ドアウインドウのトラブル

ドアウインドウに障害物があり、ドアウインドウを閉じることができないとき

- ▶ 障害物を取り除いてください。
- ▶ ドアウインドウを閉じてください。

ドアウインドウを閉じることができず、原因が分からないとき

⚠ **警 告**

強い力でドアウインドウを閉じるときや、挟み込み防止機能が作動しない状態でドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。閉じているドアウインドウに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

閉じているドアウインドウが停止して、少し開くときは、以下のようにしてください。

- ▶ ドアウインドウが停止したらただちに、ドアウインドウが閉じるまでドアウインドウスイッチを引き続けてください。

  強い力でドアウインドウが閉じます。

閉じているドアウインドウが再度停止して、少し開くときは、以下のようにしてください。

- ▶ ドアウインドウが停止したらただちに、ドアウインドウが閉じるまでドアウインドウスイッチを引き続けてください。

  挟み込み防止機能が作動しない状態で、ドアウインドウが閉じます。

走行と停車

エンジンの始動

⚠ 警告

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットやカーペットは正しく固定し、ペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。

フロアマットを重ねて使用しないでください。

少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

⚠ 警告

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は無色無臭のため、気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

! エンジンは、セレクターレバーが N に入っているときも始動できますが、安全のため、必ずセレクターレバーを P に入れ、ブレーキペダルを踏んで始動してください。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

ℹ エンジンが冷えた状態で始動したときは、触媒が約 30 秒間予熱されます。このときは、エンジン音が通常と異なることがあります。

シフトポジション

シフトポジション

P	**パーキング位置** 駐車およびエンジン始動 / 停止の位置です。 完全に停車していないときは、 P にしないでください。 シフトポジションが P のときにのみ、キーを抜くことができます。シフトポジションが P のときは、セレクターレバーがロックされます。
R	**リバース位置** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、 R にしないでください。

N	**ニュートラル位置** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 ! 走行中はシフトポジションを N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
D	**ドライブ位置** 走行するときの位置です。 1 速～ 7 速の範囲で自動的に変速します。

キーによるエンジンの始動

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに **3** の位置までまわして手を放します。

エンジンが始動します。

タッチスタート機能

エンジンスイッチを **3** の位置（▷79 ページ）までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

キーレスゴーに操作よるエンジンの始動 *

⚠ 警 告

キーが車内にあるときは、キーレスゴースイッチによりエンジンを始動できます。そのため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

ℹ キーレスゴースイッチにより、エンジンスイッチにキーを差し込むことなく、エンジンを始動することができます。

▶ 車室内にキーがあることを確認します。

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押します。

エンジンが始動します。

! エンジン始動後は、キーを携帯した人が車から離れても、エンジンは停止しません。車から離れるときは、短時間でも必ずエンジンを停止して、車を施錠してください。盗難のおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! エンジン始動後にキーを車外に持ち出して走行を開始すると、約5秒間警告音が鳴ります。また、マルチファンクションディスプレイが赤くなり " キーを 認識できません " と表示されます。

さらに、ドアやトランクを開閉するたびに、この警告は繰り返し行なわれます。

この状態でエンジンを停止するとエンジンは再始動できません。また、車を施錠することもできません。走行前には必ずキーを携帯していることを確認してください。

! ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

発進

! セレクターレバーを R に入れるときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まっていないときは、エンジン保護のため、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

! C 63 AMG では、エンジンオイルの油温が約 20℃以下のときなどエンジンが暖まっていない場合は、エンジン保護のためにエンジン回転数が制限されることがあります。

i 車速感応ドアロックが設定されているときは、走行速度が約 15km/h 以上になると自動的に車が施錠されます。

車速感応ドアロックの設定 / 解除については（▷75、168 ページ）をご覧ください。

i イグニッション位置が **2** で、ブレーキペダルを踏んでいないと、セレクターレバーを P から動かすことはできません。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、セレクターレバーを D または R に入れます。

⚠ **警 告**

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進したり、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

i ギアが完全に切り替わるのを待ってください。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

ℹ 急な坂道で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで、車が動き出す感触を確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

また、坂道で発進するときは、ヒルスタートアシストも作動します。

ℹ エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

ヒルスタートアシストの作動

坂道での発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、発進を容易にします。

⚠ **警 告**

- ヒルスタートアシストはパーキングブレーキに代わるものではありません。駐車するときは必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れてください。
- ヒルスタートアシストが作動して車が停止していても、絶対に車から離れないでください。約 1 秒後にはヒルスタートは解除され、車が動き出すおそれがあります。

▶ 発進時に、通常通りブレーキペダルから足を放してアクセルペダルを踏みます。

ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが自動的に約 1 秒間ブレーキを効かせ、車が後退または前進するのを防ぎます。

以下のときは、ヒルスタートアシストは作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- セレクターレバーが N に入っているとき
- パーキングブレーキが効いているとき
- ESP® が故障しているとき

ECO スタート / ストップ *

❗ 緩い坂などで発進するときは、車両が若干後退することがあります。

ℹ エンジンが再始動するときにエンジン音が高くなることがありますが、故障ではありません。

ECO スタート / ストップは、車両が停車したときに自動的にエンジンを停止します。

エンジンは発進時に自動的に再始動します。これにより、車両の消費燃料と排出ガスが抑えられます。

エンジンを始動するたびに、ECO スタート / ストップは待機状態になります。ECO スタート / ストップのすべての作動条件がそろっているときは、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター ECO が緑地に黒文字で表示されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

すべての作動条件がそろっていないときは、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター ECO が黄文字で表示されます。

ECO スタート / ストップが解除されているときは、ECO インジケーター ECO は表示されません。

⚠ 警告

- エンジンが停止して、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター ECO が緑地に黒文字で表示されているときは、エンジンが自動的に停止している状態です。車両のすべてのシステムは機能したままです。この状態で運転席ドアを開いたときやシートベルトを外したとき、ブレーキペダルから足を放したときは、自動的にエンジンが始動します。車両が動き出して、事故やけがの原因になります。
- 車両が不意に動き出すことを防ぐため、発進するまではブレーキペダルから足を放さないでください。

  ECO インジケーター ECO が表示されているときは、車から離れないでください。
- 車から離れるときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを効かせて車が動き出さないようにしてから、イグニッション位置を **0** にして、エンジンを停止してください。

! 車から離れるときは、必ずイグニッション位置を **0** にして、キーを携帯してください。

エンジンの自動停止

エンジンが自動的に停止するための条件は以下の通りです。

- 外気温度が作動温度の範囲内にあるとき
- エンジン温度が作動温度に達しているとき
- 車内温度がエアコンディショナーの設定温度に達しているとき
- バッテリーの電圧が十分なとき
- エアコンディショナーが作動しているときに、システムがフロントウインドウの曇りを検知していないとき
- ボンネットが確実に閉じているとき
- エンジン関係の診断を行なっていないとき
- フロントタイヤが直進方向を向いているとき
- 運転席の乗員がシートベルトを装着していて、運転席ドアが閉じているとき

i エンジンは連続して、最大 4 回（最初の停止と、それに続く 3 回の停止）まで自動的に停止します。その後は、マルチファンクションディスプレイの ECO インジケーター ECO が黄文字になります。マルチファンクションディスプレイの ECO インジケーターが緑地に黒文字になったときのみ、エンジンは自動的に停止します。

車両の操作

ℹ エンジンが自動的に停止しているときは、エアコンディショナーの作動能力が低下します。最大限の能力でエアコンディショナーを作動させたいときは、ECOスタート / ストップスイッチを押して、ECO スタート / ストップを解除してください。

セレクターレバーが D か N に入っている状態で、ブレーキペダルを踏んで停車したとき、自動的にエンジンが停止します。

ℹ 停車して、エンジンが自動的に停止しているときも、ブレーキペダルをさらに踏み込むことによりホールド機能を作動させることができます。このときは、ブレーキペダルから足を放しても、エンジンは停止したままになります。

また、このときにアクセルペダルを踏むと、エンジンが始動してホールド機能が解除されます。先にアクセルペダルを軽く踏んでエンジンを始動させてから、発進してください。

エンジンの自動再始動

以下のとき、エンジンは自動的に再始動します。

- ECO スタート / ストップスイッチを押して、ECO スタート / ストップを解除したとき
- 車両が動き出したとき
- エンジン始動がブレーキシステムに必要になったとき
- バッテリーの電圧が低下したとき
- 運転席の乗員がシートベルトを外すか、運転席ドアを開いたとき
- ボンネットを開いたとき
- セレクターレバーを D から R に入れたとき
- ステアリングを操作したとき

以下のときも、エンジンは自動的に再始動します。

- ホールド機能が作動していない状態で、シフトポジションが D または N のときに、ブレーキペダルから足を放したとき

または

- セレクターレバーを R に入れたとき

または

- アクセルペダルを踏んだとき

ℹ セレクターレバーを P に入れても、エンジンは始動しません。

ECO スタート / ストップの解除 / 作動

ECO スタート / ストップを解除する

▶ ECO スタート / ストップスイッチ ① を押します。

表示灯 ② とマルチファンクションディスプレイの ECO インジケーター ECO が消えます。

ECO スタート / ストップを待機状態にする

▶ ECO スタート / ストップスイッチ ① を押します。

表示灯 ② が点灯し、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター ECO が表示されます。

ECO スタート / ストップのすべての作動条件がそろっていないときは、メーターパネルの ECO インジケーター ECO は黄文字で表示されます。このときは、ECO スタート / ストップを作動させることはできません。

表示灯 ② が消灯しているときは、ECO スタート / ストップが手動で解除されているか、システムに異常が発生しています。このときは、ブレーキペダルを踏んで停車しても、エンジンは自動的に停止しません。

ⓘ エンジンを始動するたびに、ECO スタート / ストップは待機状態になります。

駐車

⚠ 警告

マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。

⚠ 警告

- 停車する前にエンジンを停止しないでください。ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 駐車時や車を離れるときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。また、エンジンスイッチからキーを抜いてください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

! 短時間でも車から離れるときは、ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * を閉じて、車を施錠してください。

確実に駐車するために、以下のことを確認してください。

- パーキングブレーキが確実に効いていること
- セレクターレバーが P に入っていて、エンジンスイッチからキーが抜かれているか、イグニッション位置が 0 になっていること
- 坂道で駐車するときは、前輪が歩道の縁石方向に向いていること

* オプションや仕様により、異なる装備です。

エンジンの停止

⚠ 警 告

エンジンが停止しているときは、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

車のコントロールを失って事故を起こし、乗員がけがをするおそれがあります。

そのため、走行中はエンジンを停止しないでください。

! 水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

エンジンを停止する

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、セレクターレバーを P に入れます。

! セレクターレバーが P 以外に入っているときもエンジンを停止できますが、必ずパーキングブレーキを効かせて、セレクターレバーを P に入れてください。

エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき

▶ キーをまわし、イグニッション位置を **0** にして、キーを抜きます。

イモビライザーが作動します。

ⓘ セレクターレバーが P に入っているときにのみ、キーを抜くことができます。

エンジンスイッチにキーレスゴースイッチ * を取り付けているとき

▶ キーレスゴースイッチを押して、エンジンを停止します。

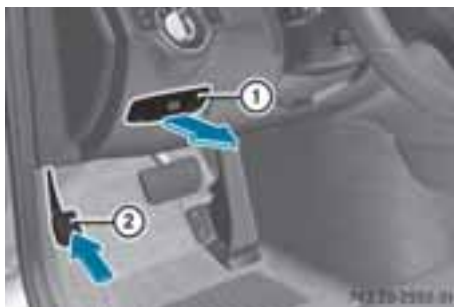
ⓘ キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、イグニッション位置は **1** になります。また、この状態で運転席ドアを開くと、イグニッション位置が **0** になります。

⚠ 警 告

走行中にキーレスゴースイッチを約 3 秒間押すとエンジンが停止します。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になりますので、走行中はエンジンを停止しないでください。

ⓘ 走行中にキーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、セレクターレバーを N に入れて再度キーレスゴースイッチを押すとエンジンが始動します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パーキングブレーキ

左ハンドル車

パーキングブレーキを効かせる

▶ 右足でブレーキペダルを踏み、左足でパーキングブレーキペダル ② をいっぱいまで踏み込みます。

メーターパネルのブレーキ警告灯 (!) が点灯します。

パーキングブレーキを解除する

▶ ブレーキペダルをいっぱいまで踏みます。

▶ 解除ハンドル ① を手前に引きます。

メーターパネルのブレーキ警告灯 (!) が消灯します。

! パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。

長期間駐車するとき

約 4 週間以上駐車したままにすると、バッテリーが完全放電して損傷するおそれがあります。このようなときは、以下のようにしてください。

▶ バッテリーからケーブルを外すか、バッテリー充電器を接続してください。

i バッテリー充電器については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

約 6 週間以上駐車したままにすると、不具合が発生するおそれがあります。このようなときは、別途対応が必要です。

▶ 対応について、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

エンジンのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンが始動しない。	ホールド機能が作動している。 ▶ ホールド機能を解除してください（▷184 ページ）。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にするとスターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムに異常がある。 • 燃料供給に異常がある。 ▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを **0** の位置にまわすか、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が消灯するまで、キーレスゴースイッチを押してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 何度始動を試みても、エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にするとスターターモーターの音がする。 燃料残量警告灯が点灯していて、燃料計の指針が 0 を示している。	燃料タンクが空になっている。 ▶ 燃料を給油してください。
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にしてもスターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている。 ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷341 ページ）。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	過度の負荷によりスターターモーターが過熱している。 ▶ スターターが冷えるまで、約 2 分間待ってください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 触媒を損傷するおそれがあります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
冷却水温度が約120℃を超えている。 冷却水警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ すみやかに安全に停車し、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば、冷却水補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください（▷254ページ）。
	冷却水量が正常なときは、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで運転してください。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

オートマチックトランスミッション

⚠ 警告

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットやカーペットは正しく固定し、ペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。

フロアマットを重ねて使用しないでください。

⚠ 警告

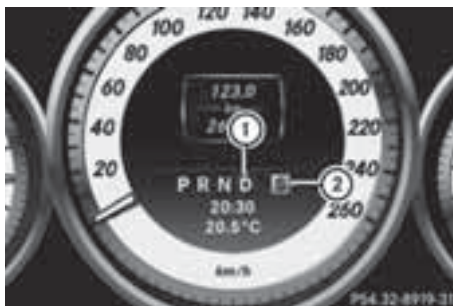
路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失って車両がスリップし、事故を起こすおそれがあります。

! 停車してエンジンを停止したときは、車が動き出すのを防ぐため、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを効かせてください。

セレクターレバー

! シフト位置を選択するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んでください。

i イグニッション位置が **2** で、ブレーキペダルを踏んでいないときは、セレクターレバーを P から動かすことができません。

シフト位置表示

C 63 AMG を除く車種
①シフト位置表示
②走行モード表示

マルチファンクションディスプレイ下部に、現在のシフト位置 ① と走行モード ② が表示されます。

シフト位置

シフト位置	作動内容
P	**パーキング位置** 駐車およびエンジン始動 / 停止の位置です。 完全に停車していないときは、P にしないでください。 シフト位置が P のときにのみ、キーを抜くことができます。 シフト位置が P のときは、セレクターレバーがロックされます。
R	**リバース位置** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、R にしないでください。
N	**ニュートラル位置** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 ! 走行中はシフト位置を N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
D	**ドライブ位置** 走行するときの位置です。 1 速～ 7 速の範囲で自動的に変速します。

⚠ **警 告**

走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こすおそれがあります。また、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

シフト位置の選択

オートマチックトランスミッションは、シフト位置が D のとき、以下の状況に合わせて自動的にギアを変速します。

- 選択されているギアレンジ
- 走行モード（▷136 ページ）
- アクセルペダルの踏み具合
- 走行速度

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、ギアが変速するタイミングが変化します。

- 軽く踏んだときはシフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだときはシフトアップするタイミングが遅くなります。

ダブルクラッチ機能（C 63 AMG）

選択している走行モードに関わらず、シフトダウン操作時にダブルクラッチ機能が作動します。

ダブルクラッチ機能が作動することにより、ギアシフト操作がスムーズに行なわれ、スポーティな運転スタイルに役立ちます。

ダブルクラッチ機能作動時のエンジン音は、走行モードにより異なります。

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行ないます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速し、素早く加速します。

▶ 希望する速度でアクセルペダルをゆるめると、シフトアップします。

! キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

停車する

▶ 一時的に停車するときは、セレクターレバーを D に入れたままブレーキペダルを踏みます。

▶ やむを得ず停車が長くなるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

⚠ 警告

停車中は空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが D か R に入ると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

! 急な上り坂などではアクセルペダルの踏み加減によって停車状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。

! 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象で車が動かないようにしてください。

走行モード

路面状況や運転に合わせて、オートマチックトランスミッションのギアの変速特性を選択できます。

走行モードの選択（C 180）

▶ マルチファンクションディスプレイに希望する走行モード②（▷134 ページ）が表示されるまで、走行モード選択スイッチ①を繰り返し押します。

※ 車種や仕様により、走行モード選択スイッチの表記が異なります。

走行モード	作動内容
E モード	快適性と経済性を重視したモードです。 トランスミッションが快適性と経済性を重視した設定になります。
S モード	スポーティな走行に適したモードです。 トランスミッションがスポーティな設定になります。
M モード *	マニュアルでギアシフトすることができます。 詳しくは（▷142 ページ）をご覧ください。

ℹ エンジンを停止すると、選択した走行モードに関わらず、次にエンジンを始動したときは E モードになります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

走行モードの選択（C 250）

E モードと S モードを切り替える

▶ オートマチックギアシフトが選択されているときに、センターコンソールのスポーツモードスイッチ②を押します。

スイッチの表示灯①が点灯しているときは S モードが選択され、スイッチの表示灯①が消灯しているときは E モードが選択されます。

E モードまたは S モード（オートマチックギアシフト）と M モード（マニュアルギアシフト）を切り替える

▶ マルチファンクションディスプレイに希望する走行モード②（▷134 ページ）が表示されるまで、走行モード選択スイッチ①を繰り返し押します。

※ 車種や仕様により、走行モード選択スイッチの表記が異なります。

走行モード	作動内容
E モード	快適性と経済性を重視したモードです。 トランスミッションが快適性と経済性を重視した設定になります。
S モード	スポーティな走行に適したモードです。 トランスミッションがスポーティな設定になります。
M モード *	マニュアルでギアシフトすることができます。 詳しくは（▷142 ページ）をご覧ください。

ⓘ エンジンを停止すると、選択した走行モードに関わらず、次にエンジンを始動したときは E モードになります。

走行モードの選択（C 63 AMG）

▶ マルチファンクションディスプレイに希望する走行モード表示 ① が表示されるまで、走行モード選択ダイヤル ① をまわします。

選択した走行モードの文字が赤色に点灯します。

走行モード	作動内容
C モード	快適性と経済性を重視したモードです。 トランスミッションが快適性と経済性を重視した設定になります。
S モード	スポーティな走行に適したモードです。 トランスミッションがスポーティな設定になります。
S+ モード	S モードよりも、さらにスポーティな走行用のモードです。 シフトアップ / シフトダウンが素早く行なわれます。
M モード	マニュアルでギアシフトすることができます。 詳しくは（▷142 ページ）をご覧ください。
レーススタート（RS）	グリップ力の高い路面状況において、停車状態から最適な加速力で発進することができます。 詳しくは（▷186 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ エンジンを停止すると、選択した走行モードに関わらず、次にエンジンを始動したときは C モードになります。

ℹ C 63 AMG は、通常の走行ではレーススタート（RS）を選択することはできません。詳しくは（▷186 ページ）をご覧ください。

パドルによる操作 *

① 左側パドル
② 右側パドル

セレクターレバーが D に入っていて、走行モードが M モード * 以外のときは、パドル * を操作して、オートマチックトランスミッションの変速範囲を変えることができます（▷140 ページ）。

マニュアルギアシフト（▷142 ページ）を選択しているときは、パドルを操作して、マニュアルでギアを選択することができます。走行中にエンジン回転数が下がったときは、ギアは自動的にシフトダウンします。

ℹ パドルによる操作は、セレクターレバーが D に入っているときのみ行なえます。

オートマチックギアシフト

走行モードが E モードまたは C モード（C 63 AMG）のときは、以下のようになります。

- エンジンとオートマチックトランスミッションが快適性を重視した設定になります。
- シフトアップが早めに行なわれるため、燃料の余分な消費が抑えられます。
- 前進・後退ともに、アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときは、穏やかに発進します。
- 滑りやすい路面などでの車両操縦性や走行安定性が向上します。
- オートマチックトランスミッションが早めにシフトアップするため、エンジン回転数が低く抑えられ、車輪が空転しにくくなります。

走行モードが S モードまたは S+ モード（C 63 AMG）のときは、以下のようになります。

- エンジンとオートマチックトランスミッションがスポーティな設定になります。
- 1 速で発進します。
- オートマチックトランスミッションが遅めにシフトアップします。
- シフトアップが遅めに行なわれるため、エンジン回転数が高くなり、燃料をより多く消費します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ティップシフト

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲（ギアレンジ）を変えることにより、不必要なシフトアップを抑えます。

セレクターレバーが D に入っていて、走行モードが E モードまたは C モード、S モード、S+ モード * のいずれかのときにティップシフトにできます。

ギアレンジ	作動内容
D	1 速～ 7 速の範囲で自動的に変速します。
D6	1 速～ 6 速の範囲で自動的に変速します。
D5	1 速～ 5 速の範囲で自動的に変速します。
D4	1 速～ 4 速の範囲で自動的に変速します。
D3	1 速～ 3 速の範囲で自動的に変速します。緩やかな坂道などを走行するときに使用します。
D2	1 速～ 2 速の範囲で自動的に変速します。急な坂道やエンジンブレーキが必要なときに使用します。
D1	1 速に固定されます。エンジンブレーキが最大に作用します。

⚠ 警告

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失い、車両がスリップするおそれがあります。また、駆動輪が空転すると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

ℹ ギアレンジ表示の数字は選択したギアレンジを示しており、必ずしも実際のギアを示すものではありません。

ℹ エンジンが暖まっていないときは、操作を行なっても、選択したギアレンジに変わらないことがあります。

ℹ ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数により異なります。

ティップシフトにする

セレクターレバーによる操作

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ セレクターレバーを ① 側に操作します。

または

▶ 左側パドル ①（▷139 ページ）を引きます。

ティップシフトになり、マルチファンクションディスプレイに選択したギアレンジ ③ が強調して表示されます。

ⓘ シフトダウン操作によりエンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、エンジン保護のため、シフトダウンされません。

ⓘ 加速時にエンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、エンジン保護のため、自動的にシフトアップされ、高いギアレンジが選択されます。

低いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを ① 側に操作します。

または

▶ 左側パドル ①（▷139 ページ）を引きます。

高いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを ② 側に操作します。

または

▶ 右側パドル ②（▷139 ページ）を引きます。

ティップシフトを解除する

▶ ギアレンジ表示 ③ に "D" が表示されるまで、セレクターレバーを ② 側に操作して保持します。

または

▶ ギアレンジ表示 ③ に "D" が表示されるまで、右側パドル ②（▷139 ページ）を引いて保持します。

ティップシフトが解除され、ギアレンジが D になります。

最適なシフトレンジを選択する

▶ セレクターレバーを ① 側に操作して保持します。

または

▶ 左側パドル ①（▷139 ページ）を引いて保持します。

そのときの加速や減速に最も適したギアレンジが選択されます。

ⓘ ティップシフトにしていないときにセレクターレバーを ② 側に操作するか、右側パドル ② を引くと、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

マニュアルギアシフト *

セレクターレバーが D に入っているとき、セレクターレバーまたはパドルを操作して、マニュアルでギアを選択できます。

⚠ 警告

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失い、車両がスリップするおそれがあります。また、駆動輪が空転すると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

! C 63 AMG は、マニュアルギアシフトでは、エンジン回転数が許容限度に達しても、自動的にシフトアップされません。エンジンの許容回転数に達したときは、過回転からエンジンを保護するため、燃料の供給が断たれます。運転者は常に、タコメーターの指針がレッドゾーンに達していないこと、シフトアップインジケーターが赤色に点灯していないことを確認してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

i マニュアルギアシフトでは、ESP® の機能を解除しないで走行することをお勧めします。

i エンジンが暖まっていないときは、ギアシフト操作を行なっても、選択したギアに変速しないことがあります。

i マニュアルギアシフトが選択された状態でエンジンを停止すると、オートマチックギアシフトに切り替わります。

マニュアルギアシフトの選択

マニュアルギアシフトを選択する（C 63 AMG を除く車種）

▶ マルチファンクションディスプレイの走行モード表示 ② に "M" が表示されるまで、走行モード選択スイッチ（▷136、137 ページ）を繰り返し押します。

マニュアルギアシフトを選択する（C 63 AMG）

▶ マルチファンクションディスプレイの走行モード表示 ② に "M" が表示されるまで、走行モード選択ダイヤル（▷138 ページ）をまわします。

走行モード選択ダイヤルの "M" が赤色に点灯します。

ギアシフト操作

低いギアを選択する

▶ セレクターレバーを ① 側（▷140 ページ）に操作します。

または

▶ 左側パドル ①（▷139 ページ）を引きます。

高いギアを選択する

▶ セレクターレバーを ② 側（▷140 ページ）に操作します。

または

▶ 右側パドル ②（▷139 ページ）を引きます。

ℹ シフトダウン操作をしなくても、走行速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトダウンすることがあります。

ℹ セレクターレバーを ① 側に操作して保持するか、左側パドル ① を引いて保持すると、そのときの加速や減速に最も適したギアが選択されます。

ℹ C 63 AMG を除く車種は、エンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、自動的にシフトアップされます。

ℹ シフトアップ / ダウン操作をしても、選択したギアが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。

ℹ 停車すると、ギアは 1 速にシフトされます。

ℹ 車種や仕様により、停車時に選択できるギアは異なります。

キックダウン

ℹ C 63 AMG では、マニュアルギアシフトを選択しているときは、キックダウンはできません。

マニュアルギアシフトを選択しているときにも、キックダウンを行なうことができます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速します。

マニュアルギアシフトの解除

マニュアルギアシフトを解除する（C 63 AMG を除く車種）

▶ マルチファンクションディスプレイの走行モード表示に "E" または "S" が表示されるまで、走行モード選択スイッチ（▷136 ページ）を押します。

マニュアルギアシフトを解除する（ダイナミックハンドリングパッケージ装備車）

▶ 走行モード選択スイッチ（▷137 ページ）を押します。

マルチファンクションディスプレイの走行モード表示に "M" が表示されなくなります。

マニュアルギアシフトを解除する（C 63 AMG）

▶ マルチファンクションディスプレイの走行モード表示に "C"、"S"、"S+" のいずれかが表示されるまで、走行モード選択ダイヤル（▷138 ページ）をまわします。

オートマチックトランスミッションのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションに異常があり、エマージェンシーモードになっている。 2 速ギアかリバースギアで走行できる場合があります。 ▶ 停車してください。 ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ エンジンを停止します。 ▶ 約 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ シフトポジションを D にします。 2 速ギアになります。 または ▶ シフトポジションを R にします。 リバースギアになります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

メーターパネル

メーターパネルの各部の名称については（▷24 ページ）をご覧ください。

⚠ **警 告**

メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障すると、車両の状態や速度、外気温度、故障 / 警告メッセージなどが表示できなくなることがあります。十分注意して走行してください。また、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

マルチファンクションディスプレイとメーターパネルの照度を調整する

▶ 周囲が暗く、イグニッション位置が **1** か **2** のとき、メーターパネル照度調整ノブ ① を時計回りまたは反時計回りにまわします。

マルチファンクションディスプレイの照度が変化します。

メーターパネルが点灯しているときは、メーターパネルの照度も変化します。

エンジン冷却水温度計

メーターパネルの左側にあります。エンジンの冷却水温度を表示します。

指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約 120℃まではオーバーヒートは起こしません。

暑い日や上り坂が続くときなどに、冷却水温度の表示が 120℃付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されない限り、故障ではありません。

燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンクの容量は約 66 リットルです。

! 給油のときはエンジンを停止してください。

燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなると点灯します。

警告灯が点灯したときの残量は約 8 リットル（C 63 AMG は約 14 リットル）です。

ℹ 走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

スピードメーター

車の走行速度を km/h で表示します。スピードメーターの内側には、クルーズコントロールインジケーター（▷178 ページ）および可変スピードリミッターインジケーター（▷182 ページ）があります。

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

! 指針がエンジンの許容回転数を超えて、レッドゾーンに入らないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジン回転数が許容回転数を超えると、エンジン保護のため、燃料供給が行なわれなくなります。

環 境

必要以上にエンジン回転数を上げて走行しないでください。燃料を不必要に消費し、大気汚染の原因になります。

マルチファンクションディスプレイ

⚠ **警告**

マルチファンクションディスプレイは道路と交通状況が許すときにのみ操作してください。注意がそれ、運転に集中することができず、事故の原因になります。

⚠ **警告**

メーターパネルまたはマルチファンクションディスプレイが故障しているときは、メッセージは表示されません。

その結果、速度や外気温度、警告灯や表示灯、メッセージなどの走行状態を示す情報を得ることができなくなります。また、走行特性に変化が出る可能性もあります。運転スタイルと走行速度を状況に合わせてください。

また、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ **警告**

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムの故障および警告のみを記録および表示します。そのため、車両が安全に使用できることを常にお客様自身で確認してください。安全性が確保されていない車両を運転することにより、事故の原因になります。

⚠ **警告**

不適切な作業を行なうと、車両安全性に悪影響を与えるおそれがあります。その結果、車両操縦性を失い、事故の原因になります。さらに、安全装備が設計通りに乗員を保護できなくなります。

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

⚠ **警告**

走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

マルチファンクションステアリング

マルチファンクションディスプレイの操作は、ステアリングのスイッチで行ないます。

ステアリングのスイッチでは、COMAND システムの一部の操作を行なうこともできます。詳しくは、COMAND システム の別冊取扱説明書をご覧ください。

マルチファンクションディスプレイの操作

イグニッション位置を **1** にすると、マルチファンクションディスプレイは作動します。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイを操作します。

① マルチファンクションディスプレイ
② 音声認識スイッチ
③ 右側キーパッド
④ 左側キーパッド
⑤ リターンスイッチ / 音声認識解除スイッチ

左側キーパッド

	機能
	スクロールスイッチ • メインメニューおよびメニューリストの呼び出し
	スクロールスイッチ 軽く押す： • リストのスクロール • サブメニューまたは機能の選択 • オーディオメニュー：ラジオ・テレビの手動選局、トラックの選択、DVD ビデオのチャプター選択 • 電話メニュー：電話帳の表示および電話帳の名前または電話番号の選択、発信履歴の選択 押して保持する： • オーディオメニュー：ラジオ・テレビの自動選局、トラックの早送り / 早戻し、DVD ビデオの早送り / 早戻し • 電話メニュー：電話帳のスクロール
OK	**確定スイッチ** • 選択した項目の確定やメッセージの確認 • 電話メニュー：電話帳の表示および電話の発信 • オーディオメニュー：選局操作の停止

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

右側キーパッド

	機能
	通話終了スイッチ • 電話の保留 / 切断 • 電話帳 / 発信履歴を閉じる
	通話開始スイッチ • 電話の発信 • 発信履歴の表示
	音量スイッチ • 音量の調節
	消音スイッチ オーディオやナビの音声案内などの消音

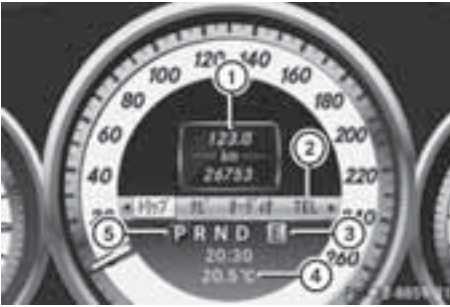
音声認識スイッチ

	機能
	音声認識スイッチ • 音声認識の開始 ⓘ 音声認識の詳細については、COMAND システムの別冊取扱説明書をご覧ください。

リターンスイッチ

	機能
	リターンスイッチ / 音声認識解除スイッチ 軽く押す： • 戻る • 音声認識の中止 • 故障 / 警告メッセージの消去、ひとつ前の画面への移動 • 電話帳 / 発信履歴を閉じる 押して保持する： • 基本画面への移動

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メニューリスト

① 表示エリア
② メニューリスト
③ 走行モード表示
④ 外気温度表示 / 走行速度表示
⑤ シフトポジション表示 / ギアレンジ表示 / ギア表示

メニューリスト②には、マルチファンクションディスプレイのメインメニューが表示されます。

メニューリストを表示させる

▶ [◀] または [▶] を押します。

ⓘ メニューリストを表示させてから約 3 秒間何も操作しないと、メニューリストの表示は消えます。

基本操作

メインメニューを選択する

▶ メニューリストが表示されているときに [◀] または [▶] を押して、メインメニューを選択します。

ひとつ前の画面に戻る

▶ [↩] を押します。

基本画面（トリップメニュー）に戻る

▶ トリップメニューが表示されるまで [↩] を押します。

または

▶ [↩] を押して保持します。

選択を確定する

▶ [OK] を押します。

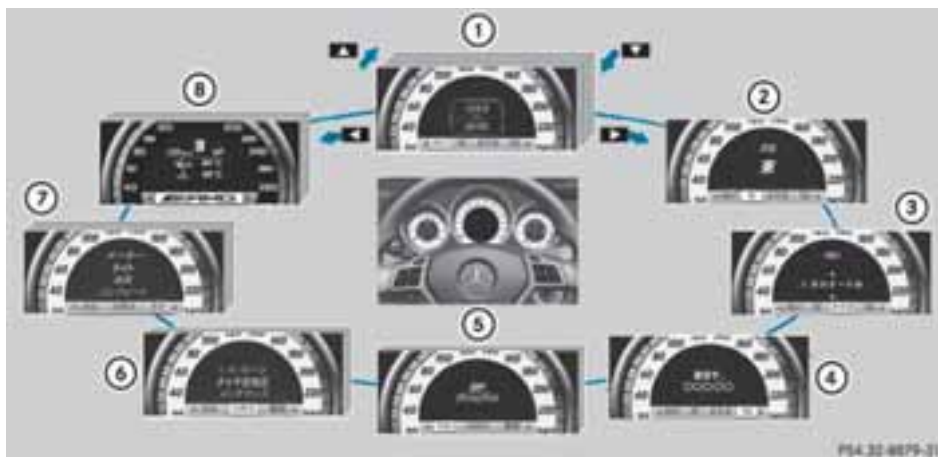
オーディオや通話などの音量を調整する

▶ [+] または [−] スイッチを押します。

消音する

▶ [🔇] を押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メインメニューとサブメニュー

	機能
①	トリップメニュー（▷152 ページ）
②	ナビメニュー（▷154 ページ）
③	オーディオメニュー（▷156 ページ）
④	TEL メニュー（▷158 ページ）
⑤	アシストメニュー （▷159 ページ）
⑥	メンテナンスメニュー（▷161 ページ） • 故障 / 警告メッセージの表示（▷161 ページ） • タイヤ空気圧警告システムの表示 *（▷263 ページ） • メンテナンスインジケーターの表示（▷274 ページ）
⑦	設定メニュー（▷162 ページ）
⑧	AMG メニュー *（▷172 ページ）

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

トリップメニュー

トリップメニューで表示・設定できる項目は以下の通りです。

- 基本画面
- エンジン始動時からの情報表示（▷152 ページ）
- リセット時からの情報表示（▷153 ページ）
- 走行可能距離・瞬間燃費 * 表示（▷154 ページ）
- 走行速度表示（▷154 ページ）

トリップメニューを表示させる

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " トリップ " を選択します。

基本画面

① トリップメーター
② オドメーター

トリップメーター ① は、リセット後の走行距離を表示します。

オドメーター ② は、これまでに走行した距離の総合計を表示します。

基本画面を表示させる

▶ 基本画面が表示されるまで ↩ を押すか、押して保持します。

または

▶ トリップメニューを表示させます。

▶ ▼ または ▲ を押して、基本画面を表示させます。

トリップメーターをリセットする

▶ 基本画面を表示させます。

▶ OK を押します。

確認画面が表示されます。

▶ ▼ を押して " はい " を選択し、OK を押します。

エンジン始動時からの情報表示

① エンジン始動時からの走行距離
② エンジン始動時からの経過時間
③ エンジン始動時からの平均速度
④ エンジン始動時からの平均燃費

エンジンを始動したときを起点とした情報を表示します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ イグニッション位置を **0** にしてから、またはエンジンスイッチからキーを抜いてから約 4 時間経過すると、自動的にリセットされます。

約 4 時間以内にイグニッション位置を **1** か **2** にしたときは、前回の情報が継続して表示されます。このときは、999 時間経過後、または 9,999km 走行後に自動的にリセットされます。

エンジン始動時からの情報を表示させる

▶ トリップメニューを表示させます。

▶ ▼ または ▲ を押して、エンジン始動時からの情報を表示させます。

エンジン始動時からの情報を手動でリセットする

エンジン始動時からの情報は手動でリセットすることもできます。

▶ エンジン始動時からの情報を表示させます。

▶ OK を押します。

確認画面が表示されます。

▶ ▼ を押して "はい" を選択し、OK を押します。

リセット時からの情報表示

① リセット時からの走行距離
② リセット時からの経過時間
③ リセット時からの平均速度
④ リセット時からの平均燃費

リセットしたときを起点とした情報を表示します。

リセット時からの情報を表示させる

▶ トリップメニューを表示させます。

▶ ▼ または ▲ を押して、リセット時からの情報を表示させます。

ⓘ リセット後は、9,999 時間経過後、または 99,999km 走行後に自動的にリセットされます。

リセットする

▶ リセット時からの情報を表示させます。

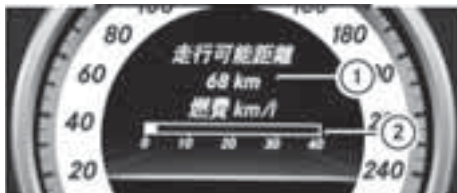
▶ OK を押します。

確認画面が表示されます。

▶ ▼ を押して "はい" を選択し、OK を押します。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行可能距離・瞬間燃費 * 表示

走行可能距離 ① は、現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。イグニッション位置が **2** のときに表示されます。

瞬間燃費 ② は、走行中の瞬間燃費を km/l で表示します。エンジンがかかっているときに表示されます。

走行可能距離・瞬間燃費を表示させる

▶ トリップメニューを表示させます。

▶ [▼] または [▲] を押して、走行可能距離・瞬間燃費（C 63 AMG を除く）を表示させます。

ℹ 燃料残量が少ないときは、走行可能距離の代わりに [給油マーク] が表示されます。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

走行速度表示

走行速度を表示します。

走行速度を表示させる

▶ トリップメニューを表示させます。

▶ [▼] または [▲] を押して、走行速度を表示させます。

ナビメニュー

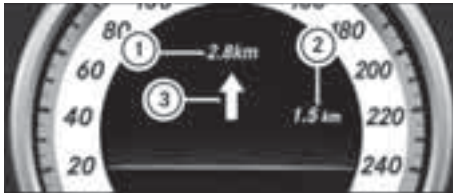
ナビメニューを表示させる

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで " ナビ " を選択します。

ルート案内を行なっていないとき

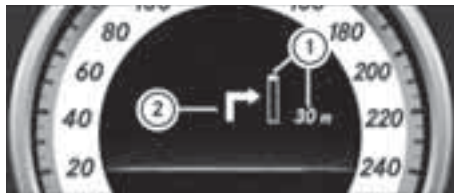
① 進行方向の方位表示

マルチファンクションディスプレイに進行方向の方位 ① が表示されます。

ルート案内を行なっているとき

① 目的地までの距離
② 交差点（分岐点）までの距離
③ 交差点（分岐点）での進行方向

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

交差点（分岐点）に接近しているとき

車線変更を伴わない右折時の例

①交差点（分岐点）までの距離と距離を表すグラフ
②交差点（分岐点）での進行方向

交差点（分岐点）に接近すると、音声案内が行なわれ、マルチファンクションディスプレイに交差点（分岐点）までの距離と距離を表すグラフ①、進行方向②が表示されます。

車線変更を伴う左折時の例

①交差点（分岐点）までの距離
②適切な走行車線
③車線変更表示

複数の車線がある道路を走行しているときに交差点（分岐点）に接近すると、マルチファンクションディスプレイに交差点（分岐点）までの距離①が表示されます。また、適切な走行車線②と、車線変更の内容③が表示されます。

ルート案内中の表示

COMAND システムで目的地を設定したときやルート案内をしているときは、マルチファンクションディスプレイに以下のような表示が行なわれることがあります。

" 🏁 "

目的地に到着したときに表示されます。

" 新ルート "

当初の案内ルートから外れたり、渋滞が発生した場合などに表示されることがあります。計算後はルート案内表示に戻ります。

" ルート計算中 "

ルートを計算しているときに表示されます。

" 案内ルート外 "

車が地図に表示されない場所にあるとき、または駐車場などの道路外の場所にあるときに表示されることがあります。

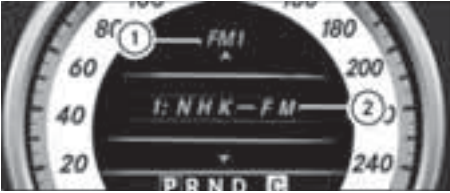
" ルートなし "

目的地までのルート案内が計算できない場合などに表示されることがあります。

ⓘ ナビの詳細については、COMAND システムの別冊取扱説明書をご覧ください。

オーディオメニュー

ℹ オーディオの詳細については、COMANDシステムの別冊取扱説明書をご覧ください。

ラジオ局を選局する

① "FM1" または "FM2"
"AM1" または "AM2" または "交通情報"
② プリセット番号 /
放送局名または受信周波数

COMANDシステムで、ラジオを受信しているときに表示・選局できます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで "ｵｰﾃﾞｨｵ" を選択します。

ラジオ局をプリセット選局する

▶ ▼ または ▲ を押します。

プリセットされたラジオ局が選択されます。

ラジオ局を自動選局する

▶ ▼ または ▲ を押して保持します。

受信周波数が動き、次に受信できる周波数で停止します。

トラックを選択する

① 音楽ソース表示
("ディスク"/"ﾒﾓﾘｰｶｰﾄﾞ"/"HDD"/"USB"/"MEDIA INT."/"BT AUDIO"/"外部入力")
② トラック番号 / トラック名

COMANDシステムで再生している音楽ソース（ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター、USBメモリー、メディアインターフェース、Bluetooth® オーディオ、外部入力）が音楽ソース表示 ① に表示されます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで "ｵｰﾃﾞｨｵ" を選択します。

トラックを選択する

ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター、USBメモリー、メディアインターフェース、Bluetooth® オーディオのいずれかを再生しているときはトラックを選択することができます。

▶ ▼ または ▲ を押します。

次または前のトラックが選択されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

DVD ビデオのチャプターを選択する

①チャプター番号

COMAND システムで、DVD ビデオを再生しているときに表示・選択できます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " オーディオ " を選択します。

チャプターを選択する

▶ ▼ または ▲ を押します。

次または前のチャプターが再生されます。

テレビ局を選局する

①" テレビ 1" または " テレビ 2"
②プリセット番号 / チャンネル番号 / 放送局名

COMAND システムで、テレビを受信しているときに表示・選局できます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " オーディオ " を選択します。

テレビ局をプリセット選局する

▶ ▼ または ▲ を押します。

プリセットされたテレビ局が選択されます。

テレビ局を自動選局する

▶ ▼ または ▲ を押して保持します。

受信チャンネルが動き、次に受信できるチャンネルで停止します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

TEL メニュー

携帯電話を COMAND システムに接続することにより、ハンズフリー通話ができます。

ℹ COMAND システムには Bluetooth® 接続により携帯電話を接続できます。詳しくは、COMAND システムの別冊取扱説明書をご覧ください。

⚠ **警 告**

安全のため、運転者は走行中の携帯電話の接続や、携帯電話本体の使用は避けてください。

走行中は電話をかけないでください。

また、走行中に電話がかかってきたときは、あわてずに安全な場所に停車してから受けてください。

どうしても電話を受けなければならないときは、ハンズフリー機能で「かけ直す」ことを伝え、安全な場所に停車してからかけ直してください。

TEL メニューを表示させる

▶ COMAND システムの電源をオンにします。

▶ 携帯電話を COMAND システムに接続します。

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで "TEL" を選択します。

マルチファンクションディスプレイに " 電話 待ち受け " と表示されます。

着信した電話を受ける

発信元が電話帳データに登録されている場合

電話が着信すると上記のような画面が表示されます。

▶ 着信呼び出し中に [📞] を押します。

通話を終える（電話を切る）

▶ [☎] を押します。

通話を保留する

▶ 着信呼び出し中に [☎] を押します。

ℹ 上記の操作は TEL メニューを表示していないときも行なうことができます。

電話帳から電話を発信する

COMAND システムに登録されている電話帳から電話を発信できます。

ℹ COMAND システムの電話帳には、COMAND システムから直接電話帳データを入力したり、携帯電話や SD カードからデータをダウンロードできます。詳しくは、COMAND システムの別冊取扱説明書をご覧ください。

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで "TEL" を選択します。

▶ [▼] [▲] または [OK] を押して、電話帳を呼び出します。

▶ [▼] または [▲] を押して、発信先を選択します。

電話帳のリストがスクロールします。

[▲] または [▼] を約 2 秒以上押し続けると、電話帳データがスクロールします。[▲] または [▼] を約 4 秒以上押し続けると、あかさたな…行、およびアルファベットの最初の登録項目ごとにスクロールします。

電話帳データに電話番号が 1 件のみ登録されている場合

▶ [発信] または [OK] を押します。

または

電話帳データに複数の電話番号が登録されている場合

▶ [発信] または [OK] を押します。

▶ [▼] または [▲] を押して、発信したい電話番号を選択します。

▶ [発信] または [OK] を押します。

マルチファンクションディスプレイに、" 発信中 ..." のメッセージと発信した電話番号が表示されます。電話帳に名前が登録されているときは、名前も表示されます。また、発信した番号が履歴に登録されます。

または

電話の発信を止める場合

▶ [終話] または [戻る] を押します。

ⓘ ステアリングの [発信] スイッチを押し、電話を発信しないで電話帳を閉じたときは、待ち受け画面に戻ります。

発信履歴から電話を発信する

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで "TEL" を選択します。

▶ COMAND ディスプレイに " 電話 待ち受け " と表示されているときに、[発信] を押します。

発信履歴が表示されます。

▶ [▼] または [▲] を押して、発信先を選択します。

▶ [発信] または [OK] を押します。

または

電話の発信を止める場合

▶ [終話] または [戻る] を押します。

ⓘ 走行中は一部の機能が使用できなくなります。

アシストメニュー

アシストメニューで設定できる項目は以下の通りです。

- ESP®*
- アテンションアシスト

アシストメニューを表示させる

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで " アシスト " を選択します。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ESP® の設定 *

⚠ 警告

ESP® 表示灯 [表示灯] が点滅したときは、車輪が空転しているか、車が横滑りしています。事故につながるおそれがあるため、以下の点に注意してください。

- 状況を問わず、ESP® の機能を解除しないでください。
- アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。
- 路面や天候の状況にあわせて慎重に運転してください。

ESP® は無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP® が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。

C 63 AMG の ESP® の設定については （▷55 ページ）をご覧ください。

エンジンがかかっているときに、ESP® の設定ができます。

▶ アシストメニューで [▲] を押して、"ESP" を選択します。

▶ [OK] を押します。

設定画面が表示されます。

▶ [OK] を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
オフ	ESP® の機能が解除されます。 メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯します。
オン	ESP® が待機状態になります。 メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [OFF] が消灯します。

⚠ 警告

エンジンがかかっているときに ESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯しているときは、ESP® の機能が解除されているか、故障により ESP® の機能が作動していません。路面や天候の状況にあわせて慎重に運転してください。

詳しくは（▷52 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

アテンションアシストの設定

アテンションアシストの設定ができます。

▶ アシストメニューで [▼] を押して " アテンションアシスト " を選択し、[OK] を押します。

設定画面が表示されます。

▶ [OK] を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
オン	アテンションアシストが設定されます。
オフ	アテンションアシストが解除されます。

ℹ アテンションアシストを設定すると、イグニッション位置が **2** のときに、マルチファンクションディスプレイに [☕] が表示されます。

詳しくは（▷207 ページ）をご覧ください。

メンテナンスメニュー

メンテナンスメニューで表示 / 設定できる項目は以下の通りです。

- 故障表示
- タイヤ空気圧警告システム *（▷263 ページ）
- メンテナンスインジケーター（▷274 ページ）

メンテナンスメニューを表示させる

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで " メンテナンス " を選択します。

故障表示

故障や異常が発生したとき、故障や異常の内容がメッセージで表示されます。

⚠ **警 告**

表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障 / 警告メッセージは運転者を支援するものです。発生した故障や異常に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。

故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

自動表示機能

故障や異常が発生したときは、故障 / 警告メッセージが自動的に表示されます。

複数の故障や異常があるときは、故障 / 警告メッセージが約 5 秒間隔で順番に表示されます。

メンテナンスメニューに戻るときは、[↩] または [OK] を押します。

故障 / 警告メッセージを手動で確認する

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで " メンテナンス " を選択します。

"0 メッセージ " と表示されているときは、故障や異常はありません。故障や異常があるときは、 "2 メッセージ " のように故障や異常の件数が表示されます。

▶ [▼] または [▲] を押して、"2 メッセージ " などの件数表示を選択します。

ⓘ " メンテナンス " を選択して約 3 秒経過すると、" メッセージ " が自動的に選択されます。

▶ 故障や異常があるときは、[OK] を押します。

故障や異常の内容が表示されます。

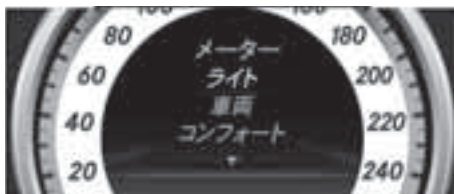
複数の故障や異常があるときは、[▼] または [▲] を押して、故障 / 警告メッセージを順番に表示させます。

▶ メンテナンスメニューに戻るときは、[↩] を押します。

ⓘ 表示される故障 / 警告メッセージについては（▷294 ページ〜）をご覧ください。

ⓘ 故障 / 警告メッセージは、イグニッション位置を **0** にすると消えます。

ただし、故障状況が変わらない場合は、次にイグニッション位置を **1** か **2** にするか、エンジンを始動したとき、再び故障 / 警告メッセージが表示されます。

設定メニュー

設定メニューで設定できる項目は以下の通りです。

- メーターの設定（▷163 ページ）
- ライトの設定（▷164 ページ）
- 車両の設定（▷167 ページ）
- コンフォートの設定（▷169 ページ）
- 設定項目の初期化（▷171 ページ）

設定メニューを表示させる

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで " 設定 " を選択します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メーター

以下の設定ができます。

- 速度・距離の単位
- ディスプレイ下部の表示

速度・距離単位の設定

マルチファンクションディスプレイの速度と走行距離の表示単位を設定できます。

▶ 設定メニューで ▼ または ▲ を押して、" メーター " を選択します。

▶ OK を押します。

設定画面が表示されます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
km	表示単位がキロメートルになります。 "km/h"、"km" などで表示されます。
miles	表示単位がマイルになります。 "mph"、"mi"、"miles" などで表示されます。

⚠ 警 告

1 マイル（mph）は約 1.6km（km/h）です。マルチファンクションディスプレイの表示単位がマイルになっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず表示単位をキロメートルにしてください。

ディスプレイ下部の表示の設定

マルチファンクションディスプレイ下部に表示される項目の設定ができます。

▶ 設定メニュー（▷162 ページ）で ▼ または ▲ を押して、" メーター " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
外気温度表示	マルチファンクションディスプレイ下部に外気温度が表示されます。
速度表示 [mph]:	マルチファンクションディスプレイ下部に走行速度（mph 単位）が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ライト

以下の設定ができます。

- ヘッドライト点灯モード
- インテリジェントライトシステム *
- アダプティブハイビームアシスト *
- ヘッドライト照射範囲 *
- ロケイターライティング
- ルームランプ残照機能

ヘッドライト点灯モードの設定

ヘッドライトの点灯モードの設定ができます。

常時点灯モードでは、ライトスイッチが AUTO の位置にあるときにイグニッション位置を **1** か **2** にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスライトが常に点灯します。また、エンジンを始動すると、ヘッドライトと LED ドライビングライト * が常に点灯します。

手動点灯モードでは、ライトスイッチを操作してヘッドライトなどを点灯します。日本ではこのモードに設定してください。

イグニッション位置が **1** のとき、またはイグニッション位置が **2** でエンジンが停止しているときに設定できます。

▶ 設定メニュー（▷162 ページ）で ▼ または ▲ を押して、"ライト" を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

常時点灯モードに設定されているときは、車両イラストのライトと ☀ マークが赤色に表示されます。

手動点灯モードに設定されているときは、車両イラストのライトと ☀ マークが白色に表示されます。

ℹ 安全のため、エンジンがかかっているときは、設定の変更はできません。

ℹ 常時点灯モードは、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定してください。

ℹ 常時点灯モードで自動的に点灯するライト以外のライトを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

インテリジェントライトシステムの設定 *

インテリジェントライトシステムの設定を変更できます。

▶ 設定メニュー(▷162 ページ)で ▼ または ▲ を押して、" ライト " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

インテリジェントライトシステムが設定されているときは、車両イラストのライトと マークが赤色に表示されます。

インテリジェントライトシステムの設定が解除されているときは、車両イラストのライトと マークが白色に表示されます。

詳しくは（▷107 ページ）をご覧ください。

アダプティブハイビームアシストの設定 *

アダプティブハイビームアシストの設定ができます。

▶ 設定メニュー(▷162 ページ)で ▼ または ▲ を押して、" ライト " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

アダプティブハイビームアシストが設定されているときは、車両イラストのライトと マークが赤色に表示されます。

アダプティブハイビームアシストの設定が解除されているときは、車両イラストのライトと マークが白色に表示されます。

詳しくは（▷109 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ヘッドライト照射範囲の設定 *

ヘッドライトの照射範囲を、左側通行または右側通行に適した設定に切り替えます。

▶ 設定メニュー（▷162 ページ）で ▼ または ▲ を押して、" ライト " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
左側通行用	ヘッドライトの照射設定が左側通行に適した設定になります。
右側通行用	ヘッドライトの照射設定が右側通行に適した設定になります。

ℹ 日本では、" 左側通行用 " に設定して使用してください。

ℹ " 右側通行用 " に設定すると、インテリジェントライトシステム設定画面に " ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝﾄﾗｲﾄｼｽﾃﾑ システム作動できません 右側通行設定では無効 " と表示され、インテリジェントライトシステムの設定が変更できなくなります。また、ハイウェイモードおよびフォグランプ強化機能が解除されます。

ロケイターライティングの設定

ロケイターライティングの設定ができます。

ロケイターライティングには、周囲が暗くライトスイッチが AUTO の位置にあるときにリモコン操作で解錠すると車外ライトが点灯する機能（解錠時点灯機能）と、周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ライトが点灯する機能（車外ライト残照機能）があります。

上記の機能で点灯する車外ライトは以下の通りです。

- 車幅灯
- フロントフォグランプ * または LED ドライビングライト *
- テールランプ
- ライセンスライト
- ドアミラー下部のライト *

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ 設定メニュー(▷162 ページ)で ▼ または ▲ を押して、" ライト " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

解錠時点灯機能と車外ライト残照機能が設定されているときは、車両イラストの車外ライトが赤色に表示されます。

解錠時点灯機能と車外ライト残照機能の設定が解除されているときは、車両イラストの車外ライトが白色に表示されます。

詳しくは（▷66、103 ページ）をご覧ください。

ルームランプ残照機能の設定

ルームランプが自動点灯モードのときにエンジンスイッチからキーを抜くとルームランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ 設定メニュー(▷162 ページ)で ▼ または ▲ を押して、" ライト " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

ルームランプ残照機能が設定されているときは、車両イラストのウインドウ部分が赤色に表示されます。

ルームランプ残照機能の設定が解除されているときは、車両イラストのウインドウ部分が白色に表示されます。

詳しくは（▷111 ページ）をご覧ください。

車両

以下の設定ができます。

- ウィンタータイヤスピードリミッター
- 車速感応ドアロック
- アンサーバック機能 *

ウィンタータイヤスピードリミッターの設定

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

日本仕様でも設定はできますが、法定速度を守って走行してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ 設定メニュー(▷162 ページ)で ▼ または ▲ を押して、" 車両 " を選択します。

▶ OK を押します。

設定画面が表示されます。

▶ OK を押します。

▶ ▼ または ▲ を押して、設定を変更します。

▶ OK を押します。

表示	設定内容
オフ	ウィンタータイヤスピードリミッターは作動しません。
240km/h 230km/h 220km/h 210km/h 200km/h 190km/h 180km/h 170km/h 160km/h	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ℹ ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッター（▷179 ページ）で設定できる制限速度の上限は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度になります。

車速感応ドアロックの設定

走行速度が約 15km/h 以上になったときにドアとトランクを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ 設定メニュー(▷162 ページ)で ▼ または ▲ を押して、" 車両 " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

車速感応ドアロックが設定されているときは、車両イラストのドア部分が赤色に表示されます。

車速感応ドアロックの設定が解除されているときは、車両イラストのドア部分が白色に表示されます。

詳しくは（▷75 ページ）をご覧ください。

アンサーバック機能の設定 *

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車両を解錠 / 施錠したときに確認音が鳴る機能の設定ができます。

▶ 設定メニュー（▷162 ページ）で ▼ または ▲ を押して、" 車両 " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

アンサーバック機能が設定されているときは、イラストの 🔒 マークが赤色に表示されます。

アンサーバック機能の設定が解除されているときは、イラストの 🔓 マークが白色に表示されます。

詳しくは（▷70 ページ）をご覧ください。

コンフォート

以下の設定ができます。

- イージーエントリー *
- フロントシートベルトのテンション自動調整機能 *
- 施錠時のドアミラー格納

イージーエントリーの設定 *

イージーエントリーの設定ができます。

イージーエントリーを設定すると、以下のときにステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜いたとき
- イグニッション位置が **0** か **1** で運転席ドアを開いたとき

▶ 設定メニュー（▷162 ページ）で ▼ または ▲ を押して、" コンフォート " を選択します。

▶ OK を押します。

設定画面が表示されます。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されない場合があります。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ OK を押して、設定を変更します。

イージーエントリーが設定されているときは、車両イラストのステアリング部分がオレンジ色に表示されます。

イージーエントリーの設定が解除されているときは、車両イラストのステアリング部分が白色に表示されます。

詳しくは（▷90 ページ）をご覧ください。

⚠ 警 告

- 子供だけを残して車から離れないでください。誤ってエンジンスイッチからキーを抜いたり、運転席ドアを開くとイージーエントリーが作動し、けがをするおそれがあります。
- イージーエントリーの作動中に身体や物が挟まれないように注意してください。

フロントシートベルトのテンション自動調整機能の設定 *

イグニッション位置が **2** のとき、フロントシートベルトが乗員の上半身に密着するように、テンション（締め付け具合）を自動的に調整する機能の設定ができます。

▶ 設定メニュー（▷162 ページ）で ▼ または ▲ を押して、" コンフォート " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

フロントシートベルトのテンション自動調整機能が設定されているときは、車両イラストのシートベルト部分が赤色に表示されます。

フロントシートベルトのテンション自動調整機能の設定が解除されているときは、車両イラストのシートベルト部分が白色に表示されます。

詳しくは（▷98 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

施錠時のドアミラー格納の設定

リモコン操作やキーレスゴー操作 * での施錠時にドアミラーを格納する機能の設定ができます。

▶ 設定メニュー(▷162 ページ)で ▼ または ▲ を押して、" コンフォート " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

施錠時のドアミラー格納機能が設定されているときは、車両イラストのドアミラー部分が赤色に表示されます。

施錠時のドアミラー格納機能の設定が解除されているときは、車両イラストのドアミラー部分が白色に表示されます。

詳しくは（▷93 ページ）をご覧ください。

設定項目の初期化

設定メニューのすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する（戻す）ことができます。

設定項目を初期化する

▶ 設定メニュー(▷162 ページ)で ▼ を押して、" 設定初期化 " を選択し、OK を押します。

確認画面が表示されます。

▶ ▼ を押して、 " はい " を選択し、OK を押します。

初期化が実行され、" 工場出荷時の設定に初期化 しました " と表示されます。

" いいえ " を選択すると、元の画面に戻ります。

ℹ 安全のため、エンジンがかかっているときは初期化を行なうことができない項目があります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

AMG メニュー *

油温・水温表示

① 走行速度表示
② ギア表示
③ シフトアップ表示
④ 油温表示
⑤ 水温表示

油温・水温を表示させる

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで "AMG" を選択します。

イグニッション位置が **2** のとき、またはエンジンがかかっているときは、AMG メニューの各項目に走行速度表示 ① とギア表示 ② が表示されます。

走行速度表示 ① は、走行中の速度を表示します。

ギア表示 ② は、オートマチックトランスミッションの実際のギア位置を表示します。

シフトアップ表示 ③ は、マニュアルギアシフトを選択しているとき、シフトアップするタイミングになると表示されます。シフトアップ表示 ③ は、運転者がシフトアップ操作をするまでの間、他のメッセージの代わりに表示されます。

油温表示 ④ は、エンジンオイルの油温を表示します。

油温が約 80℃未満のときは油温が青色で表示されます。このときはエンジンオイルが温まっていません。必要以上にエンジン回転数を上げないようにして運転してください。

水温表示 ⑤ は、エンジン冷却水の水温を表示します。

ℹ イグニッション位置が **1** のときは、油温、水温は表示されません。このときは " ――℃ " が表示されます。

ドライブモード表示

① 走行モード表示
② ESP® モード / スポーツハンドリングモード表示

以下の設定を確認することができます。

- 走行モード表示（C、S、S+、M）
- ESP® モード / スポーツハンドリングモード表示（ON、SPORT、OFF）

ドライブモードを表示させる

▶ 油温・水温を表示させます。

▶ ドライブモードが表示されるまで ▼ または ▲ を押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

レースタイマー

レースタイマー画面では、周回ごとのラップタイムを計測・記録したり、その結果を一覧表示できます。

イグニッション位置が **2** のとき、またはエンジンがかかっているときに使用できます。

レースタイマーを表示させる

▶ 油温・水温を表示させせます。

▶ レースタイマーが表示されるまで [▼] または [▲] を押します。

ℹ レースタイマーを表示しているときは、[◀] または [▶] でメインメニューを選択することはできません。

① ラップ表示
② 計測タイム

タイム計測を開始する

▶ [OK] を押して、"Start" を確定します。

タイム計測が開始されます。

スプリットタイムを表示する

▶ [◀] または [▶] を押して、"Interm. Time" を選択し、[OK] を押します。

スプリットタイムが約 5 秒間表示されます。

約 5 秒経過後に、タイム計測の表示に戻ります。

ラップタイムを記録する

最大 16 件までの計測タイムをラップタイムとして記録できます。

① 計測タイム
② 最速ラップタイム
③ ラップ表示

▶ [◀] または [▶] を押して、"New Lap" を選択し、[OK] を押します。

スプリットタイムがラップタイムとして記録され、スプリットタイムが表示された時点から、次のラップのタイム計測が開始されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ⓘ ラップタイムが記録されているときは、計測タイム ① の下に最速ラップタイム ② が表示されます。

ⓘ ラップタイムが 16 件記録されると、それ以上計測ができなくなります。新たにタイム計測を行なうときは、記録したラップタイムをすべて消去してください。

タイム計測を停止する

▶ [↩] を押します。

▶ [OK] を押して、"Yes" を確定します。

▶ "Start" を選択して [OK] を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

ⓘ タイム計測中に、停車してイグニッション位置を **1** にすると、タイム計測が停止します。

その後、イグニッション位置を **2** にするかエンジンを始動してから、"Start" を選択して [OK] を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

現在のラップタイムを消去する

▶ タイム計測を停止しているときに "Reset Lap" を選択して [OK] を押します。

すべてのラップタイムを消去する

▶ 現在のラップタイムを消去します。

▶ "Reset" を選択して [OK] を押します。

マルチファンクションディスプレイに "Reset Race-Timer?" と表示されます。

▶ [▼] を押して "Yes" を選択し、[OK] を押します。

全ラップの計測結果を確認する

2 周以上のラップタイムが記録されているときは、タイム計測が停止しているときに全ラップの計測結果を表示できます。

① 全ラップ計測結果表示
② 合計時間
③ 計測した全ラップの平均速度
④ 計測した全ラップの走行距離
⑤ 計測した全ラップでの最高速度

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

計測結果（全ラップ）を表示させる

▶ タイム計測を停止します。

▶ 計測結果（全ラップ）が表示されるまで ▼ または ▲ を押します。

ラップごとの計測結果を確認する

ラップタイムが記録されているときは、タイム計測が停止しているときにラップごとの計測結果を表示できます。

① ラップ表示
② ラップタイム
③ 表示されているラップの平均速度
④ 表示されているラップの走行距離
⑤ 表示されているラップでの最高速度

計測結果（ラップ別）を表示させる

▶ タイム計測を停止します。

▶ 計測結果（ラップ別）が表示されるまで ▼ または ▲ を押します。

▶ 表示させたいラップの計測結果が表示されるまで ▼ または ▲ を押します。

表示されているラップが最速ラップのときは、ラップ表示 ① が点滅します。

記録したすべてのラップタイムを消去する

▶ タイム計測を停止します。

▶ レースタイマー、計測結果（全ラップ）または計測結果（ラップ別）のいずれかが表示されているときに、OK を押します。

マルチファンクションディスプレイに "Reset Race-Timer?" と表示されます。

▶ ▼ を押して "Yes" を選択し、OK を押します。

記録したすべてのラップタイムが消去されます。

ⓘ 記録したラップタイムは個別には消去できません。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行装備

クルーズコントロール

クルーズコントロールを設定することにより、アクセルペダルを踏まなくても、設定速度を自動的に維持して走行できます。

クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

設定できる速度は 30km/h 以上です。

⚠ 警告

車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

クルーズコントロールを使用しているときは、運転者は常に道路状況に注意を払ってください。

⚠ 警告

以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

- 急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路を走行しているとき
- 加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路を走行しているとき
- 雨で濡れた路面や積雪路、凍結路などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 降雨時や降雪時、濃霧時など視界が確保できないとき

! クルーズコントロールの設定速度と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

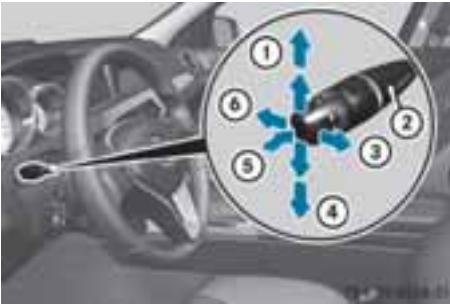
! 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。

! 急な上り坂では速度を維持するためにシフトダウンすることがありますが、設定した速度を維持できないときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

! 急な下り坂や重い荷物を積んでいるときなどは、設定速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ 警告

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

クルーズコントロールを設定する

①現在の走行速度に設定する / 設定速度を上げる
②表示灯
③記憶されている前回の設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する
④現在の走行速度に設定する / 設定速度を下げる
⑤クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥クルーズコントロールを解除する

クルーズコントロールは、可変スピードリミッター（▷179 ページ）と同じレバーで操作します。

▶ 表示灯 ② が消灯していることを確認します。

表示灯が点灯しているときは、レバーを ⑤ の方向に押します。

表示灯が消灯します。

クルーズコントロールは、約 30km/h 以上の速度で走行しているときに設定できます。

▶ 設定したい速度で走行します。

▶ レバーを ① または ④ の方向に操作します。

そのときの走行速度に設定されます。

または

▶ レバーを ③ の方向に操作します。

記憶されている前回の設定速度に設定されます。

前回の設定速度が記憶されていないときは、そのときの走行速度に設定されます。

> ⚠ **警 告**
>
> 記憶されている前回の設定速度に設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速して事故を起こすおそれがあります。

▶ アクセルペダルから足を放します。

自動的に設定速度を維持しながら走行します。

ℹ 以下のときはクルーズコントロールは設定できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに " クルーズコントロール --- km/h" が数秒間表示され、"---" 部分が点滅します。

- 約 30km/h 以下の速度で走行しているとき
- ESP® の機能を解除しているとき

ℹ エンジンを停止すると、記憶されている前回の設定速度は消去されます。

ℹ 上り坂では設定速度を維持できないことがありますが、平坦な路面になると設定速度に戻ります。

⑦ クルーズコントロールインジケーター

クルーズコントロールが設定されると、マルチファンクションディスプレイに " クルーズコントロール " と設定速度が約 5 秒間表示されます。

また、設定速度から上の部分にクルーズコントロールインジケーター ⑦ が点灯します。

ⓘ クルーズコントロールインジケーターの目盛りは 5km/h 単位です。

設定速度を変更する

設定速度を上げる

▶ レバーを ① の方向に操作します。

レバーを軽く操作すると、1km/h 単位で上がります。

レバーをいっぱいまで操作すると、1km/h 単位が切り上がり、10km/h 単位で上がります。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

ⓘ 追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

設定速度を下げる

▶ レバーを ④ の方向に操作します。

レバーを軽く操作すると、1km/h 単位で下がります。

レバーをいっぱいまで操作すると、1km/h 単位が切り下がり、10km/h 単位で下がります。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

ⓘ レバーを ④ の方向に下げているときは、シフトダウンしたり、自動的にブレーキを効かせることがあります。

クルーズコントロールを解除する

▶ レバーを ⑥ の方向に操作します。

または

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを ⑤ の方向に押します。

レバーの表示灯 ② が点灯して、可変スピードリミッターが操作できる状態になります。

以下のときも、クルーズコントロールは解除されます。

- 走行速度が約 30km/h 以下になったとき
- ESP® が作動したときや、ESP® の機能を解除したとき
- セレクターレバーを N に入れたとき

このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " クルーズコントロール 解除 " が約 5 秒間表示されます。

また、パーキングブレーキを効かせたときもクルーズコントロールは解除されます。

⚠ **警 告**

走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターを設定することにより、アクセルペダルを踏んでも、設定速度を超えないように走行できます。

設定できる速度は 30km/h から 210km/h または 250km/h までの間です。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

⚠ **警 告**

走行しているときは、軽くブレーキを効かせ続けるなど、ブレーキペダルを踏み続けないでください。ブレーキシステムが過熱して制動距離が長くなったり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

⚠ **警 告**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警 告**

走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。

! 可変スピードリミッターの設定速度と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! 急な下り坂や重い荷物を積んでいるときなどは、設定速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

ℹ ウィンタータイヤ装着時など、タイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定できるウィンタータイヤスピードリミッターが装備されています。詳しくは（▷167 ページ）をご覧ください。

ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッターの設定速度の上限は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度になります。

ℹ 車の最高速度以上に設定しても、最高速度以上の速度で走行することはできません。

ℹ 車種や仕様により、設定できる速度が異なる場合があります。

ℹ 設定速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " 設定した 制限速度を 超えました " と表示されることがあります。

可変スピードリミッターを設定する

①現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する / 設定速度を上げる
②表示灯
③記憶されている前回の設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する
④現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する / 設定速度を下げる
⑤可変スピードリミッターとクルーズコントロールを切り替える
⑥可変スピードリミッターを解除する

可変スピードリミッターは、クルーズコントロール（▷176 ページ）と同じレバーで操作します。

▶ 表示灯 ② が点灯していることを確認します。

表示灯が消灯しているときは、レバーを ⑤ の方向に押します。

表示灯が点灯します。

⚠ **警 告**

運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定速度を伝えてください。

可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。

可変スピードリミッターは設定速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

可変スピードリミッターを設定しているときは、以下の操作を行なったときにのみ、設定速度以上の速度にすることができます。

- レバーを操作する
- アクセルペダルを踏んでキックダウンさせる

ブレーキ操作により、可変スピードリミッターを解除することはできません。

▶ レバーを ① または ④ の方向に操作します。

- 走行速度が 30km/h 以上のときは、そのときの走行速度に設定されます。
- 走行速度が 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。

または

▶ レバーを ③ の方向に操作します。

- 記憶されている前回の設定速度に設定されます。
- 前回の設定速度が消去されていて、走行速度が 30km/h 以上のときは、そのときの走行速度に設定されます。
- 前回の設定速度が消去されていて、走行速度が 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。

⚠ **警 告**

可変スピードリミッターを設定するときは、周囲の安全、特に後方の車などに注意しながら操作してください。

記憶されている前回の設定速度が走行速度より低いときは、記憶されている前回の設定速度に設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

ⓘ エンジンを停止すると、記憶されている前回の設定速度は消去されます。

可変スピードリミッターが設定されると、マルチファンクションディスプレイに " 制限速度 " と設定速度が約 5 秒間表示されます。

また、設定速度から下の部分に可変スピードリミッターインジケーター ⑦ が点灯します。

ℹ 可変スピードリミッターインジケーターの目盛りは 5km/h 単位です。

設定速度を変更する

設定速度を上げる

▶ レバーを ① の方向に操作します。

レバーを軽く操作すると、1km/h 単位で上がります。

レバーをいっぱいまで操作すると、1km/h 単位が切り上がり、10km/h 単位で上がります。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを ④ の方向に操作します。

レバーを軽く操作すると、1km/h 単位で下がります。

レバーをいっぱいまで操作すると、1km/h 単位が切り下がり、10km/h 単位で下がります。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを ⑥ の方向に操作します。

または

▶ レバーを ⑤ の方向に押します。

レバーの表示灯 ② が消灯して、クルーズコントロールが操作できる状態になります。

⚠ **警 告**

ブレーキ操作により、可変スピードリミッターを解除することはできません。

以下のときも、可変スピードリミッターは解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき

  このときは確認音が鳴ります。

  ただし、設定速度より約 20km/h 以上低い速度までは、キックダウンしても解除されません。

- エンジンを停止したとき

ダイナミックハンドリングパッケージ *

運転状況や走行状況に合わせて、自動的にサスペンションの制御を行ないます。

サスペンションは、主として以下の要因に応じて制御されます。

- 運転スタイル
- 路面状況
- 選択しているサスペンションモード

▶ エンジンを始動します。

スポーツモード

タイヤの路面追従性を向上させ、スポーティ性を重視した硬めのサスペンション制御になります。

また、エンジン回転数に応じて、アクセルペダルによるエンジンの反応が向上します。

山道での走行など、スポーティな走行をするときに適しています。

スポーツモードを選択する

▶ スポーツモードスイッチ ② を押して、表示灯 ① を点灯させせます。

走行モード(▷136 ページ)が S モードになります。

エンジンを停止すると、スポーツモードは解除され、コンフォートモードになります。

コンフォートモード

快適性を重視したサスペンション制御になります。

カーブの少ない高速道路などを走行するときに適しています。

コンフォートモードを選択する

▶ スポーツモードスイッチ ② を押して、表示灯 ① を消灯させせます。

走行モード(▷136 ページ)が E モードになります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ホールド機能

坂道での発進や信号待ちをしているときなどに、車が前進または後退することを防ぐ機能です。

ブレーキペダルを踏み続けたり、パーキングブレーキを効かせなくても、通常の路面で、停車した状態を維持することができます。

ホールド機能の作動条件

ホールド機能は、以下のときに作動させることができます。

- 停車しているとき
- エンジンがかかっているとき、または ECO スタート / ストップ * によりエンジンが自動的に停止しているとき
- 運転席ドアを閉じているとき（運転席の乗員がシートベルトを着用しているときは、運転席ドアが開いているときも作動します）
- パーキングブレーキが解除されているとき
- ボンネットのロックが解除されていないとき
- セレクターレバーが D、N、R のいずれかに入っているとき

ホールド機能を作動させる

▶ ホールド機能の作動の条件を確認します。

▶ ブレーキペダルを意識的に素早く深く踏み込みます。

⚠ 警 告

ホールド機能が作動しているときは、車にブレーキがかけられています。洗車機に入れるときやけん引などで車を動かすときは、ホールド機能を解除してください。

マルチファンクションディスプレイにホールド機能表示灯 ① が表示されます。

※ 車種や仕様により、ホールド機能表示灯が表示される位置は異なります。

表示されないときは、ブレーキペダルを少し戻して、再度意識的に素早く深く踏み込みます。

ホールド機能が作動し、ブレーキペダルから足を放しても停車したままになります。

ホールド機能を解除する

以下のいずれかの操作をすると、ホールド機能は解除され、ホールド機能表示灯 ① が消灯します。

- シフトポジションが D または R のときに、アクセルペダルを踏んだとき
- シフトポジションを P にしたとき
- ブレーキペダルを再度踏んだとき

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **警告**

ホールド機能が作動している状態で車から降りないでください。

ホールド機能は、車外から、または運転者以外の同乗者が操作したり解除しないでください。

ホールド機能はパーキングブレーキに代わるものではありません。絶対にパーキングブレーキとして使用しないでください。

以下のときは、ホールド機能が解除され、車が動きだすおそれがあります。

- アクセルペダルを踏んだときや、ブレーキペダルを再度踏んだとき
- システムまたは電力供給に異常（バッテリーあがりなど）があるとき
- バッテリーの接続が断たれたとき

エンジンを停止するときや駐車するとき、車から離れるときは、必ずホールド機能を解除し、パーキングブレーキを効かせて、セレクターレバーを P に入れてください。

! ホールド機能を解除したときは、車の動きに十分注意してください。

! セレクターレバーを P に入れてホールド機能を解除したときは、パーキングブレーキを効かせるかブレーキペダルを踏んで、確実に停車してください。

ℹ シフトポジションが N のときにアクセルペダルを踏んでも、ホールド機能は解除されません。

ℹ ホールド機能が作動して停車しているときにパーキングブレーキを効かせても、ホールド機能は解除されません。

ホールド機能が作動しているときに以下の操作をすると、マルチファンクションディスプレイに "P レンジにシフト してください" と表示されます。

- 運転席の乗員がシートベルトを着用していない状態で運転席ドアを開くか、運転席ドアを開いて運転席の乗員がシートベルトを外したとき
- エンジンを停止したとき（ECO スタート / ストップ * によりエンジンが自動的に停止している場合を除く）
- ボンネットのロックを解除したとき

▶ セレクターレバーを P に入れ、車が動き出さないようにしてください。

ホールド機能が解除されます。マルチファンクションディスプレイの警告メッセージが消えます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ホールド機能が作動しているときに以下の操作をすると、ホーンも鳴ります。

- エンジンが停止しているときに、運転席の乗員がシートベルトを着用していない状態で運転席ドアを開くか、運転席ドアを開いて運転席の乗員がシートベルトを外したとき
- ボンネットのロックを解除したとき

ホーンの音は、ホールド機能を作動させたまま車が駐車されたことに対する警告です。

キーレスゴー装備車は、ホーンが鳴っているときにリモコン操作で施錠しようとすると、ホーンの音量が上がります。ホールド機能を解除するまでは、施錠できません。

ⓘ ホールド機能を作動させたままエンジンを停止したときは、ホールドを解除するまで、エンジンを再始動することはできません。

ホールド機能を作動させているときに、システムまたは電力供給に異常（バッテリーあがりなど）が発生したときは、マルチファンクションディスプレイに " すぐにブレーキを踏んでください " と警告メッセージが表示されます。このときは、警告メッセージが消えるまで、ブレーキペダルをしっかり踏み込んでください。さらにシフトポジションを P にしてホールド機能を解除し、パーキングブレーキを効かせて確実に停車するとともに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

レーススタート（C 63 AMG）

グリップ力の高い路面状況において、停車状態から最適な加速力で発進できる機能です。

⚠ **警 告**

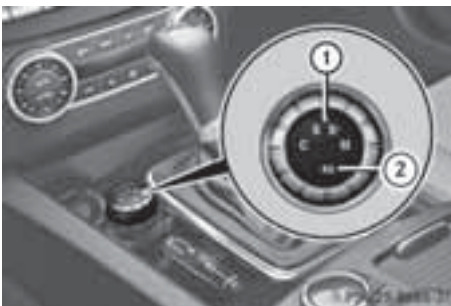
- レーススタートは、スポーツハンドリングモード（▷55 ページ）を設定しているときにのみ使用できます。ただし、スポーツハンドリングモードを設定したときは、車が横滑りをし始めたりタイヤが空転した場合、限られた程度までしか、車両操縦性や走行安定性が確保されません。
- レーススタートは、公道以外のサーキットなどでのみ使用してください。また、常に路面や天候の状態に合わせて運転してください。
- レーススタートを使用するときは、可変スピードリミッターを解除してください。可変スピードリミッターの設定速度によっては、レーススタートを作動させたときにエンジンが停止する場合があります。

レーススタートの作動条件

レーススタートは、以下の状態のときに使用できます。

- 運転席ドアが閉じているとき
- エンジンがかかっていて、油温が約 80℃以上のとき（▷172 ページ）
- パーキングブレーキが解除されているとき
- スポーツハンドリングモードを設定しているとき
- ステアリングが直進状態のとき
- ブレーキペダルを確実に踏んだ状態で、車が完全に停止しているとき（ブレーキペダルは左足で踏んでください）
- シフトポジションが D のとき

レーススタートを使用する

▶ ブレーキペダルを左足で踏み、そのまま保持します。

▶ レーススタート表示灯 ② が点灯するまで、走行モード選択ダイヤル ① を時計回りにまわします。

マルチファンクションディスプレイに "RACE START 確認 : 右側パドル 中断 : 左側パドル " と表示されます。

ℹ レーススタートの作動条件に合わない操作を行なうと、マルチファンクションディスプレイに "RACE START 使用できません 取扱説明書を参照 " と表示され、レーススタートは解除されます。

▶ 右側のパドルを引きます。

マルチファンクションディスプレイに "RACE START 使用できます アクセルを踏んで下さい " と表示されます。

ℹ 左側のパドルを引くと、マルチファンクションディスプレイに "RACE START 中断されました " と表示され、レーススタートは解除されます。

ℹ 右側のパドルを引いてから約 2 秒以内にアクセルペダルを踏み込まないと、ファンクションディスプレイに "RACE START 中断されました " と表示され、レーススタートが解除される場合があります。

▶ 右足でアクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

エンジン回転数が約 4,000 回転まで上がります。

マルチファンクションディスプレイに "RACE START スタートするにはブレーキを離して下さい " と表示されます。

ⓘ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んでから、約 7 秒以内にブレーキペダルから足を放さなかったときは、ファンクションディスプレイに "RACE START 中断されました " と表示され、レーススタートは解除されます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んだまま、左足をブレーキペダルから放します。

最適な加速力で発進します。また、マルチファンクションディスプレイには "RACE START オン " と表示されます。

レーススタートは、走行速度が約 50km/h になると自動的に解除されます。また、走行モードは S+ モードに設定され、スポーツハンドリングモードは維持されます。

ⓘ レーススタートの作動中にアクセルペダルをゆるめるか、レーススタートの作動条件（▷187 ページ）に合わない操作を行なうと、ファンクションディスプレイに "RACE START 使用できません 取扱説明書を参照 " または "RACE START 中断されました " と表示され、レーススタートは解除されます。

ⓘ 短時間のうちにレーススタートを繰り返して使用したときは、レーススタートが使用できなくなることがあります。ある程度の距離を走行すると、再度使用できるようになります。

パークトロニック *

⚠ 警告

パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。

⚠ 警告

車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックは、超音波センサーによる電子式駐車補助システムです。車両と障害物との距離を視覚的、聴覚的に示します。

パークトロニックは、以下のときに自動的に作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- シフトポジションが **D**、**R**、**N** のいずれかのとき
- パーキングブレーキが解除されているとき

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パークトロニックは、走行速度が約18km/h以下のときに作動します。走行速度が約18km/h以上になると作動を停止します。

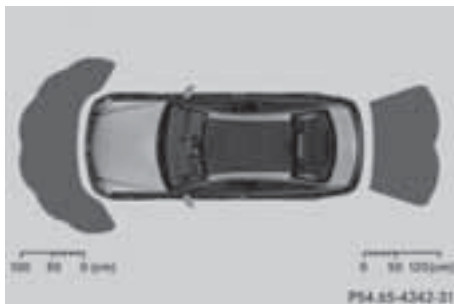
フロントバンパーの6個のセンサーとリアバンパーの4個のセンサーが障害物などを感知します。

パークトロニックセンサー

① センサー（フロントバンパー左側の例）

! センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着した状態のときは、赤色インジケーターだけが点灯して、約20秒後にパークトロニックが停止することがあります。センサーに損傷を与えないよう注意して、定期的に清掃してください（▷282ページ）。

センサーの検知範囲

側方から見た検知範囲

上方から見た検知範囲

フロントバンパーのセンサー

センター部	約100cm ～ 20cm
コーナー部	約60cm ～ 15cm

リアバンパーのセンサー

センター部	約120cm ～ 20cm
コーナー部	約80cm ～ 15cm

! バンパーのセンター部で約 20cm 以内、コーナー部で約 15cm 以内にある障害物は検知できません。

! センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。

! 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離内にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを検知せず、車や物を損傷するおそれがあります。

! センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を検知しないことがあります。

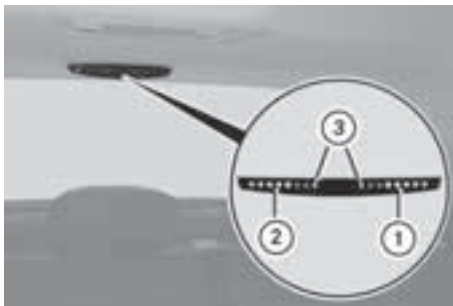
! 不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正しく作動しないことがあります。

! 洗車機や大型車の排気ブレーキ、工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 路面が平坦でないときは、パークトロニックは正常に作動しないことがあります。

インジケーター / 作動表示灯

フロント
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ フロント作動表示灯

リア
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ リア作動表示灯

パークトロニックのインジケーター / 作動表示灯は、フロントはダッシュボード上の図の位置、リアは後席のルーフライニングにあります。

検知範囲に障害物が入ったとき

黄色インジケーターが 1 個点灯します。

障害物との距離が近くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

障害物との距離が近くなったとき

黄色インジケーターに加えて 1 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が断続的に約 2 秒間鳴ります。

最短検知距離（約 20 ～ 15cm）になると、上記のインジケーターに加えて 2 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約 2 秒間鳴ります。

パークトロニックの作動

パークトロニックは、シフトポジションに応じて、以下のように作動します。

シフトポジション	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯が点灯します。
R N	フロントとリアのセンサーが作動し、フロントとリアの作動表示灯が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

ⓘ イグニッション位置を **2** にすると、すべてのインジケーターと作動表示灯が一瞬点灯します。

パークトロニックの機能の解除

① 表示灯
② パークトロニックオフスイッチ

パークトロニックの機能を解除できます。

パークトロニックの機能を解除する

▶ イグニッション位置が **2** のときに、パークトロニックオフスイッチ ② を押します。

スイッチの表示灯 ① が点灯します。

パークトロニックを作動させる

▶ パークトロニックオフスイッチ ② を押します。

スイッチの表示灯 ① が消灯します。

ⓘ パークトロニックオフスイッチでパークトロニックを停止しても、次にイグニッション位置を **2** にしてパーキングブレーキを解除したとき、パークトロニックは自動的に作動します。

パークトロニックのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約 2 秒間警告音が鳴り、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックの故障のため、機能が解除されている。 ▶ トラブルが続くようであれば、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（▷282 ページ）。 ▶ 再度、イグニッション位置を **2** にしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が解除されている。 ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（▷191 ページ）。

パーキングガイダンス機能 *

パーキングガイダンス機能は、超音波センサーによる電子式駐車補助システムです。

超音波は車両両側の道路の計測に使用されます。適切な駐車スペースは駐車マークで示されます。

駐車するときは、ステアリング操作の指示も表示されます。

パークトロニックも併せて利用できます（▷188 ページ）。

⚠ 警 告

- パーキングガイダンス機能は運転操作を補助するシステムであり、駐車禁止の場所や、私道、駐車に適さない路面など、駐車に適さない駐車スペースに誘導することがあります。
- パーキングガイダンス機能は駐車スペースを通過してから測定します。例えば、駐車スペースの前後に駐車している車両の位置が変わったり、駐車スペースに障害物が入った場合など、駐車スペースが変わった場合は測定できません。
- パーキングガイダンス機能は運転者の注意に対する責任を軽減させるものではありません。パーキングガイダンス機能だけに頼ると、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。
- 安全に対する責任は、常に運転者にあります。駐車するときや車を移動するときは、周囲の状況に注意してください。

⚠ 警 告

駐車スペースを計測しているときは、パーキングガイダンス機能の検知範囲外の高さにある障害物は検知されません。例えば、突き出している荷物や車両後部、積載用スロープなどは、システムが駐車手順を計算するときに考慮されません。状況によっては、パーキングガイダンス機能が指示するステアリング操舵のタイミングが早すぎることがあるため、衝突するおそれがあります。このような状況では、パーキングガイダンス機能は使用しないでください。

⚠ 警 告

車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。人や動物がけがをするおそれがあります。

パークトロニックを停止しているときは、パーキングガイダンス機能も使用できません。

駐車スペースが以下のようなときに、パーキングガイダンス機能を使用してください。

- 走行する方向と平行なとき
- カーブしていない直線道路のとき
- 歩道以外の舗装路面など、道路と駐車スペースが同じ高さのとき。パーキングガイダンス機能は平坦な縁石を検知しないことがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

駐車時の注意

- 狭い道では、できるだけ駐車スペースの近くを通過して走行してください。
- 駐車スペース内にごみが落ちていたり、草が生い茂ってたり、トレーラーけん引部が突き出ている場合などは、正しく見分けられなかったり、検知できないことがあります。
- 雪や激しい雨により、正しく計測されていない駐車スペースに誘導することがあります。
- 駐車操作を行なっている間は、パークトロニックの警告に注意してください（▷190 ページ）。
- 車両からはみ出た荷物を運搬しているときは、パーキングガイダンス機能を使用しないでください。
- スノーチェーンや応急用スペアタイヤを装着しているときは、決してパーキングガイダンス機能を使用しないでください。
- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。ステアリング操作の指示に影響します。
- 駐車スペースに車両を停める方法は、例えば、車両の前後に停車している車両の位置や形、場所の状態など、色々な要因により影響を受けます。場合により、パーキングガイダンス機能は駐車スペースからかなり離れていたり、十分に離れていない場所に誘導することがあります。また、パーキングガイダンス機能の指示通りに操作すると、縁石をまたいだり縁石に乗り上げることもありますので、車両が縁石にかかる前に駐車操作を中止してください。

! 縁石がある場所で使用するときは、ホイールやタイヤ、ボディなどが縁石と接触しないように注意してください。

! 縁石などの障害物が避けられないときは、駐車操作を中止してください。ホイールやタイヤ、ボディなどを損傷するおそれがあります。やむを得ず障害物を乗り越えるときは、できるだけ垂直に近い角度からゆっくりと乗り越えてください。

駐車スペースの検知

①左側に駐車スペースが検知されたとき
②パーキングガイダンスマーク
③右側に駐車スペースが検知されたとき

パーキングガイダンス機能は、走行速度が約 35km/h 以下で前進しているときに自動的に作動します。

作動中は、システムが車両の両側の駐車スペースを検知し、測定します。走行速度が約 30km/h 以下のときは、メーターパネルにパーキングガイダンスマーク ② が表示されます。

駐車スペースを検知すると、左側を指す三角 ① または右側を指す三角 ③ が表示されます。通常では、パーキングガイダンス機能は助手席側のみの駐車スペースを表示します。運転席側の方向指示灯を作動させるとすぐに、運転席側の駐車スペースを表示します。運転席側に駐車するときは、シフトポジションを R にするまで、方向指示灯を作動させたままにしてください。

パーキングガイダンス機能は、以下のときにのみ駐車スペースを検知します。

- 走行する方向と平行なとき
- 少なくとも約 1.5m 以上の幅があるとき
- 車両の全長よりも約 1.3m 以上長いとき

駐車スペースの表示は、駐車スペースを通り過ぎてから約 15m 離れるまで表示されます。

駐車する

⚠ **警 告**

- パークトロニックとパーキングガイダンス機能は運転操作を補助するシステムであり、すべての障害物を検知するわけではありません。運転者の注意に対する責任を軽減するものではありません。
- 駐車するときや車を移動するときは、周囲の状況に注意してください。運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

▶ 希望する場所の駐車スペースマークがマルチファンクションディスプレイに表示されたときは、停車します。

▶ シフトポジションを R にします。

マルチファンクションディスプレイに " 車両周辺の安全を 確認してください OK ボタンで確認 " と表示されます。

▶ メッセージを確認したら、ステアリングの OK スイッチを押します。

マルチファンクションディスプレイにパーキングガイダンス機能画面が表示されます。

駐車スペースからの距離によっては、マルチファンクションディスプレイに " 後退してください " と表示されます。

▶ マルチファンクションディスプレイに " 後退してください " と表示されたときは、確認音が聞こえるまで後退します。

このときは、後方を示す矢印が表示されます。

ステアリングをまわす位置に達すると、矢印がすべて白色になります。その後、マルチファンクションディスプレイに " ハンドルを 左にまわしてください " または " ハンドルを 右にまわしてください " と表示されます。

▶ 停車した状態で、矢印がすべて白色になって警告音が鳴るまで、表示された方向にステアリングをまわします。

適切なステアリング角度になると、マルチファンクションディスプレイに " 後退してください " と表示されます。

駐車スペースまで後退する

▶ ステアリング角度を保ったまま、注意して後退します。

▶ 警告音が聞こえたら、すみやかに停車します。

車両の位置が、ステアリングを反対方向にまわす位置になります。

このとき、マルチファンクションディスプレイに " ハンドルを 右にまわしてください " または " ハンドルを 左にまわしてください " と表示されます。

ステアリングを反対方向にまわす

▶ 停車した状態で、矢印がすべて白色になって警告音が鳴るまで、表示された方向にステアリングをまわします。

適切なステアリング角度になると、マルチファンクションディスプレイに " 後退してください " と表示されます。

駐車スペース内に後退する

▶ ステアリング角度を保ったまま、注意して後退します。

▶ 警告音が聞こえ、遅くともパークトロニックの警告音が連続的に鳴ったらすみやかに停車します。

マルチファンクションディスプレイに " パーキングガイダンス 終了しました " と表示され、確認音が鳴ります。

▶ マルチファンクションディスプレイに位置修正の指示が表示されたら、反対方向にステアリングをまわし、シフトポジションを変更します。

▶ 必要に応じて、車両を移動してください。

▶ 常にパークトロニックの警告に注意してください（▷190 ページ）。

パーキングガイダンス機能の中止

▶ センターコンソールのパークトロニックオフスイッチを押します（▷191 ページ）。

パーキングガイダンス機能がただちに中止され、パークトロニックが停止します。

駐車スペースへの誘導ができない場合や誤作動が発生した場合は、パーキングガイダンス機能は自動的に停止します。このときは、駐車スペースマークの表示が消えて警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " パーキングガイダンス 中止しました " という警告メッセージが表示されます。

パーキングアシストリアビューカメラ

パーキングアシストリアビューカメラは、車の後方の映像と音声により、車庫入れや縦列駐車などの後退操作を補助するシステムです。

⚠ **警 告**

パーキングガイダンス機能 *（▷193 ページを作動させているときにパーキングアシストリアビューカメラを使用するときは、パーキングアシストリアビューカメラを後退駐車モードにしてください。パーキングアシストリアビューカメラを縦列駐車モードにしていると音声案内が行なわれるため、操作を誤り、事故につながるおそれがあります。

⚠ **警 告**

車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **警 告**

リアビューカメラは運転の補助を行なう装備です。状況によっては、障害物が歪んで表示されたり、正しく表示されなかったり、まったく表示されないおそれがあります。リアビューカメラは、運転者の不注意を補うものではありません。以下のものは、リアビューカメラに表示されないことがあります。

- リアバンパーのすぐ近くにあるもの
- リアバンパーの下方にあるもの
- トランクの近くにあるもの

リアビューカメラ使用時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。リアビューカメラを使用する際も、常に車両の周囲に注意を払ってください。

絶対に COMAND ディスプレイの映像だけを見て後退や車庫入れなどをしないでください。必ず自分の目やミラーで後方や周囲の安全を直接確認してください。

以下のときは、リアビューカメラが正常に作動しなかったり、機能が制限されるおそれがあります。

- トランクが完全に閉じていないとき
- 激しい雨や雪が降っているときや霧のとき
- 夜間や暗い場所にいるとき
- カメラにヘッドライトや日光の反射などの強い光が直接当たったとき（映像に白い縦線が入ることがあります）
- 蛍光灯の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 急激な温度変化があったとき（寒冷時に暖房されたガレージに入ったときやカメラに冷水や温水がかかったときなど）
- カメラが汚れていたり、付着物があるとき
- 車の後部を損傷したとき

  車の後部を損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラ位置の点検と調整を行なってください。

上記のような場合は、リアビューカメラを使用して後退操作を行なわないでください。人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。

! 後退駐車または縦列駐車をしているときに、COMAND システムの他の機能を作動させると、パーキングアシストリアビューカメラの映像が中断されます。

! 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすおそれがあります。

! カメラの周囲に強い衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

! 乗員人数や荷物の積載量が多く車両が沈み込んだり傾いたりしている場合は、画面に表示されているガイドラインに誤差が生じます。必ず自分の目やミラーで後方や周囲の安全を直接確認してください。

! ガイドラインが表示されないなど故障のおそれがあるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 以下のような場合はシステムを使用しないでください。

- 積雪路面や凍結路面など、タイヤがスリップしやすいとき
- 坂道やカーブなどの平坦または直線でない道路

カメラの位置

①カメラ

カメラ①は、トランクハンドルの右側に装備されています。

COMAND ディスプレイの映像

後退駐車モードの映像
①予想進路ガイドライン（黄色）
②4.0m ガイドライン（黄色）
③1.0m ガイドライン（黄色）
④0.25m ガイドライン（赤色）

COMAND ディスプレイに映し出される映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同じ左右を反転させた鏡像となります。

⚠ 警告

安全のため、ガイドラインの色の識別が困難な方は、パーキングアシストリアビューカメラを使用しないでください。

! 後方に駐車している車のバンパーやトラックの荷台など、路面に接していない立体の障害物は、ディスプレイの映像では実際よりも遠くにあるように見えます。ガイドラインだけで距離を判断せず、必ず周囲の状況を直接確認してください。

! 障害物に向かって後退しているときは、障害物が 0.25m ガイドライン ④ を越えないように注意してください。障害物によっては、0.25m ガイドライン ④ まで後退する以前に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわしながら後退するときは、車のフロント部が他の車や障害物に接触しないように注意してください。

! 路面に接していない障害物や上方の空間にある障害物はガイドライン内になくても接触する可能性があります。十分に注意してください。

i トランクが開いていたり、完全に閉じていない状態でセレクターレバーを R に入れたときや、パーキングアシストリアビューカメラ作動中にトランクを開いたときは、ガイドラインは表示されません。このときは COMAND ディスプレイに " トランクが開いています パーキングアシストを中止します。" と数秒間表示されます。

i セレクターレバーを R から D に入れたときは、数秒間パーキングアシストリアビューカメラの映像が COMAND ディスプレイに表示されます。

i パーキングアシストリアビューカメラを作動させているときに、COMAND システムの他の機能を作動させると、パーキングアシストリアビューカメラの映像が中断されます。

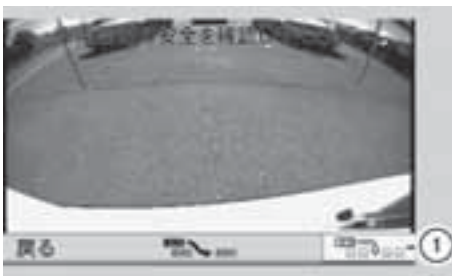
後退駐車モード

駐車場の駐車スペースなどに後退して駐車するときに、画面表示で後退操作を補助するモードです。

後退駐車モードにする

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ セレクターレバーを R に入れます。

COMAND ディスプレイに後方の映像が表示されます。

① 後退駐車アイコン

▶ が表示されていないときは、後退駐車アイコン ① を選択して、COMAND コントローラーを押します。

▶ 後退駐車時のガイドラインが表示されます。

i " 戻る " を選択して COMAND コントローラーを押すと、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。

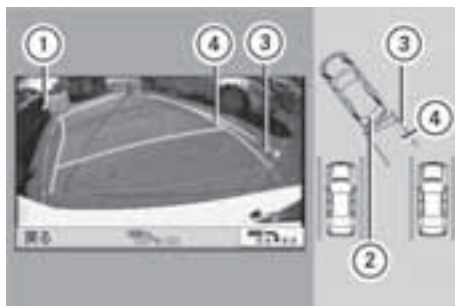
パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、セレクターレバーを R 以外の位置に入れて、再度 R に入れます。

ステアリングをまわさないで、まっすぐ後退駐車する

① COMAND ディスプレイ表示の例
② ① が表示されているときの自車位置

▶ 周囲に注意しながら、まっすぐ後退します。

! ガイドライン内およびその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

ステアリングをまわしながら、後退駐車する

① COMAND ディスプレイ表示の例
② ① が表示されているときの自車位置
③ 直進ガイドライン（青色）
④ 予想進路ガイドライン（黄色）

▶ 予想進路ガイドライン ④ が駐車スペースのなかに収まるようにステアリングをまわしながら、注意して後退します。

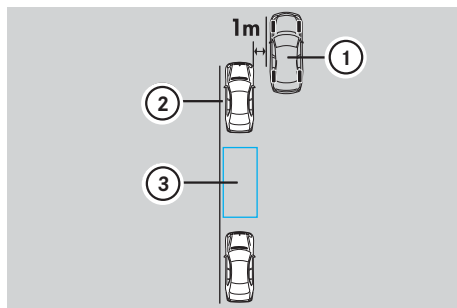
▶ 直進ガイドライン ③ が、駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進位置に戻して、後退してください。

! ガイドライン内およびその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

! ステアリングをまわして予想進路ガイドライン ④ の位置を調整しても、予想進路ガイドライン内に障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

縦列駐車モード

路上の駐車スペースなどに縦列駐車するときに、画面表示と音声案内で後退操作を補助するモードです。

縦列駐車する

① 自車
② 駐車スペース前方の駐車車両
③ 駐車スペース

▶ 駐車スペース前方の駐車車両 ② から約 1m 間隔を空けて平行に、駐車車両 ② の前端から自車が約半分ほど前に出た位置で、停車します。ステアリングは直進状態にします。

ℹ 駐車スペース ③ の前方に駐車車両がないときは、後退駐車モードで駐車することをお勧めします。

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ セレクターレバーを R に入れます。

COMAND ディスプレイに後方の映像が表示されます。

④ 縦列駐車アイコン

▶ が表示されていないときは、縦列駐車アイコン ④ を選択して、COMAND コントローラーを押します。

▶ 縦列駐車モードのガイドラインが表示されます。

ℹ "戻る" を選択して、COMAND コントローラーを押すと、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。

パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、セレクターレバーを R 以外の位置に入れて、再度 R に入れます。

② 駐車スペース前方の駐車車両
⑤ 垂直ガイドライン

▶ 垂直ガイドライン ⑤ が、駐車スペース前方の駐車車両 ② の後端に合うまでステアリングをまわさずに後退します。

▶ 垂直ガイドライン ⑤ が駐車車両の後端に合ったら、停車します。

! 垂直ガイドライン ⑤ が駐車車両 ② の後端から外れていると、正しい位置に駐車できません。

⑥ 駐車位置ガイドライン

▶ 垂直ガイドライン ⑤ が表示されてからしばらくすると、駐車位置ガイドライン ⑥ が表示されます。

⑦ 駐車位置ガイドライン（道路側）
⑧ 駐車位置ガイドライン（縁石側）

▶ 停車した状態で、駐車位置ガイドライン（道路側）⑦ が駐車車両のタイヤの接地面に接するまで、ステアリングをまわします。また、このとき駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧ が、駐車スペースの前後の車両や道路の縁石、塀や電柱など道路脇の障害物にかかっていないことを確認します。

! 駐車位置ガイドライン（道路側）⑦が駐車車両のタイヤ部分に交わっていると、正しい位置に駐車することができません。

! 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧が正しい位置に合っていることを確認してください。正しい位置に合わせないまま後退すると、駐車車両や障害物に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわして駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧の位置を調整しても、駐車位置ガイドライン（縁石側）内に駐車車両や障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

! ステアリングをまわしすぎたときは "ステアリングをまわしすぎています ステアリングを戻してください" と表示されます。

▶ 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧を正しい位置に合わせたら、ステアリングはそのままで、ゆっくりと後退します。

▶ 後退をはじめると、画面から垂直ガイドライン⑤、駐車位置ガイドライン（道路側）⑦、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧が消えます。

! 周囲の安全を確認しながら、ゆっくり後退してください。

ℹ 以下のときはガイドが中止されます。

- セレクターレバーを R 以外の位置に入れたとき
- "戻る"、または [アイコン] を選択したとき
- COMAND コントローラー横の [戻るボタン] を押したとき
- COMAND システムの他の機能を作動させたとき
- ステアリングを操作したとき

! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が人や他の車、障害物などに衝突しないように注意してください。

! 後退をはじめた後は、ステアリングをまわさないでください。ステアリングをまわすとガイドが中止され、"ステアリングの位置が変わりました パーキングアシストを中止します。" と表示されます。

! ガイドが中止された場合は、最初から後退操作をやりなおしてください。

⑨ステアリング角度ガイドライン

▶ ゆっくり後退をはじめると、ステアリング角度ガイドライン ⑨ が表示されます。

緑石などの駐車スペースの縁に、ステアリング角度ガイドライン ⑨ が合うまでステアリングをまわさないで、そのままゆっくり後退します。

▶ ステアリング角度ガイドライン ⑨ が正しい位置に合ったら、停車します。

⑩ 直進ガイドライン（青色）
⑪ 予想進路ガイドライン（黄色）

▶ ステアリングを反対方向にいっぱいまでまわします。

直進ガイドライン ⑩ と予想進路ガイドライン ⑪ が表示されます。

▶ 予想進路ガイドライン ⑪ が緑石などの駐車スペースの縁と接するまでゆっくり後退します。

! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が前方の駐車車両などに衝突しないように注意してください。

▶ 車が、駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進位置に戻します。

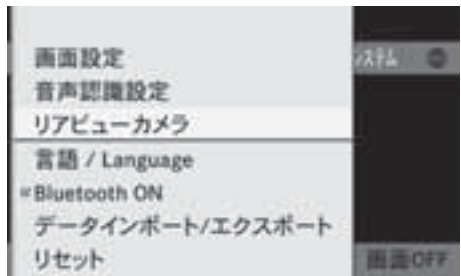
パーキングアシストリアビューカメラの設定

▶ COMAND コントロールパネルの SYS ボタンを押します。

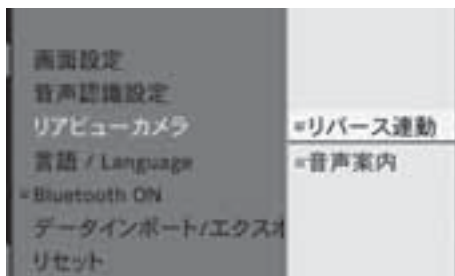
または

▶ アプリケーションエリアの " システム " を選択します。

設定基本画面になります。

▶ " 設定 " → " リアビューカメラ " を選択します。

パーキングアシストリアビューカメラの起動設定

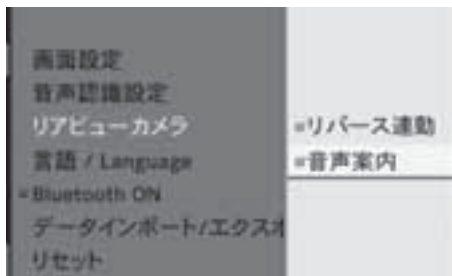
▶ " リバース連動 " を選択します。

COMAND コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

チェックマーク	設定内容
表示	セレクターレバーを R に入れると、パーキングアシストリアビューカメラが自動的に起動します。
消去	パーキングアシストリアビューカメラは起動しません。

イグニッション位置を **0** にしたり、エンジンスイッチからキーを抜いても、設定内容は記憶されます。

パーキングアシストリアビューカメラの音声案内設定

▶ " 音声案内 " を選択します。

COMAND コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

チェックマーク	設定内容
表示	音声案内が行なわれます。
消去	音声案内は行なわれません。

音声ガイドの音量は、ステアリングの + − スイッチ、または COMAND コントロールパネルの音量調整ダイヤルで調整できます。

アテンションアシスト

アテンションアシストは、高速道路や幅の広い道路を走行するときなど、長時間にわたり変化の少ない運転を行なっているときに運転者を補助するシステムです。

アテンションアシストは、約 80km/h ～約 180km/h で走行しているときに作動します。運転者の運転スタイルや運転時間などから、運転者の疲労や注意力の低下の典型的な兆候を検知したときに警告を行ない、休憩を促します。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

⚠ 警 告

アテンションアシストは、あくまで運転者の補助のみを行なうものであり、疲労や注意力低下に対する警告が遅れたり、まったく警告が行なわれないことがあります。また、十分な休息をして集中力のある運転者の代わりになるものではありません。

疲労により、危険な状況の認知が非常に遅れたり、また、状況の判断を誤ったり、反応が遅れることがあります。運転前や運転中は運転者自身で疲労の度合いを認識してください。運転が長時間にわたるときは、適時かつ定期的に休憩を取ってください。危険を認知することができず、事故を起こしたり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

アテンションアシストは、以下のような状況を考慮して、運転者の疲労や注意力低下を判断します。

- ステアリング操作などの運転スタイル
- 時刻や運転時間などの運転状況

以下のようなときは、アテンションアシストの機能が制限され、警告が遅れたり、警告がまったく行なわれないことがあります。

- 大きな凹凸や穴があるなど、道路状況が悪いとき
- 横風が強いとき
- スピードを出してカーブを曲がっているときや急加速で運転しているときなど、非常にスポーティな運転を行なっているとき
- 約 80km/h 以下や約 180km/h 以上の速度で走行していることが多いとき

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

- COMAND システムを操作しているときや COMAND システムの電話機能で通話しているとき
- 時刻の設定が正しくないとき
- 車線を変えたり走行速度を変えるなど、絶えず運転状況に変化があるとき

アテンションアシストの設定と解除

アテンションアシストの設定と解除はマルチファンクションディスプレイで行ないます（▷161 ページ）。

アテンションアシストが設定されているときは、マルチファンクションディスプレイにアテンションアシストマーク ① が表示されます。

アテンションアシストの警告

アテンションアシストが設定されていても、運転を開始してから約 20 分以内は警告は行なわれません。

警告が行なわれると断続的な警告音とともに、マルチファンクションディスプレイに " アテンションアシスト 休憩してください " と表示されます。

このときは

▶ 必要であれば、休憩を取ってください。

▶ OK を押します。

マルチファンクションディスプレイのメッセージが消えます。

長時間の運転では、適切な休息をするために、適時かつ定期的な休憩を設けてください。休憩することなく運転を続け、運転者の疲労や注意力の低下の典型的な兆候を検知したときは、約 15 分経過以降に再度警告を行ないます。

以下の操作を行なうと、アテンションアシストはリセットされます。

- エンジンを停止したとき
- 運転を交代したり休憩を取るなどで､運転者がシートベルトを外して､運転席ドアを開いたとき

エアコンディショナー

エアコンディショナーの取り扱い

エアコンディショナーは、設定温度や外気温度などに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

環 境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒 R134a を使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるように努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充や交換、廃棄などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

警 告

エアコンディショナーの設定は、以降の説明に従って正しく行なってください。ウインドウが曇って事故を起こすおそれがあります。

ℹ 外気温度が高いときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。リモコン操作で車外からドアウインドウとパノラミックスライディングルーフ * を開くと、短時間で換気できます（▷119 ページ）。

ℹ 除湿された水分は車体下方に排水されます。水分が排出されても、故障ではありません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。

ℹ エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

エアコンディショナー作動表示

COMAND システムがオンのとき、エアコンディショナーの一部のスイッチやダイヤルを操作すると、COMAND ディスプレイ下部に、エアコンディショナーの主な作動内容が数秒間表示されます。

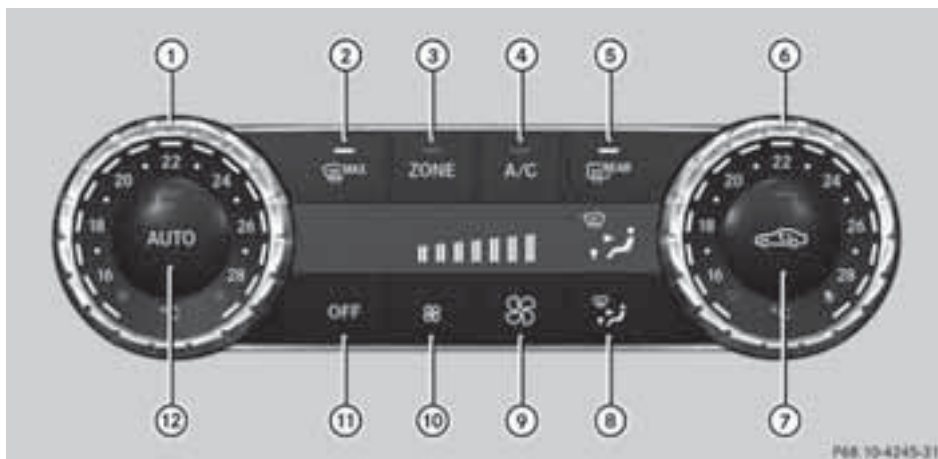
エアコンディショナー作動表示を消す

▶ COMAND コントローラーを操作します。

または

▶ COMAND コントロールパネルの CLEAR ボタン、コントローラー右側の C スイッチ、コントローラー左側の ⮌ スイッチを押します。

※ COMAND ディスプレイの表示内容によっては、エアコンディショナー作動表示が表示されないことがあります。

コントロールパネル

①	設定温度調整ダイヤル（左側）
②	デフロスタースイッチ
③	独立温度設定スイッチ
④	AC スイッチ
⑤	リアデフォッガースイッチ
⑥	設定温度調整ダイヤル（右側）

⑦	内気循環スイッチ
⑧	送風口選択スイッチ
⑨	送風量調整スイッチ（強）
⑩	送風量調整スイッチ（弱）
⑪	オフスイッチ
⑫	AUTO スイッチ

通常の使い方

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTO スイッチ AUTO を押します。

AUTO スイッチ AUTO の表示灯が点灯し、エアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

または

▶ オフスイッチ OFF を押します。

オフスイッチ OFF の表示灯が消灯し、エアコンディショナーが停止前の設定で作動します。

ただし、内気循環モードに設定されていたときは、外気導入モードに設定されます。

ℹ リアデフォッガースイッチ以外のエアコンディショナーのスイッチやダイヤルを操作したときも、エアコンディショナーは作動します。

エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ OFF を押します。

オフスイッチ OFF の表示灯が点灯します。

ℹ エアコンディショナーが停止しているときは、送風や内気循環も停止します。ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * が閉じているときは、エアコンディショナーの停止は一時的にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなります。

AUTO モードの解除

エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに以下の操作を行ないます。

▶ 送風量調整スイッチ または を押します。

AUTO スイッチ AUTO の表示灯が消灯し、送風量の AUTO モードが解除されます。

ディスプレイに送風量インジケーターが表示されます。

または

▶ 送風口選択スイッチ を押します。

AUTO スイッチ AUTO の表示灯が消灯し、送風口の AUTO モードが解除されます。

ディスプレイに送風口インジケーターが表示されます。

AC モード

AC モードを設定しているときは、除湿 / 冷房された空気が送風されます。

ℹ 除湿 / 冷房された空気は、エンジンがかかっているときに送風されます。

AC モードを解除する

▶ AC スイッチ A/C を押します。

AC スイッチ A/C の表示灯が消灯します。

除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

AC モードに設定する

▶ 再度、AC スイッチ [A/C] を押します。

AC スイッチ [A/C] の表示灯が点灯します。

除湿 / 冷房された空気が送風されます。

⚠ 警 告

AC モードが解除されているときは、車内の空気が除湿または冷房されません。ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * が閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウの内側が曇りやすくなり、交通状況を把握できずに事故の原因になります。

環 境

AC モードを解除すると、エンジンへの負担が軽減し、燃費が向上します。

ℹ AUTO モードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的に AC モードになります。

ℹ AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風されることがあります。

ℹ AC スイッチ [A/C] を押したときに表示灯が点滅したり、点灯しないときは、AC モードに設定することができません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

AC モードのトラブル

AC スイッチ [A/C] を押したときに、表示灯が 3 回点滅するか、消灯したままになります。このときは、AC モードに設定することができません。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

設定温度の調整

ℹ 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。

通常は 22℃に設定することをお勧めします。

ℹ ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * が開いていると、設定温度を維持できません。

設定温度を上げる

▶ 設定温度調整ダイヤル ①⑥ を時計回りにまわします。

設定温度を下げる

▶ 設定温度調整ダイヤル ①⑥ を反時計回りにまわします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

送風口の選択

▶ 送風口選択スイッチ [] を押して、送風したい送風口マークをディスプレイに表示させます。

送風口マーク	主に送風される送風口
	すべての送風口
	フロントウインドウ送風口、ドアウインドウ送風口、中央送風口、サイド送風口、リア中央送風口
	フロントウインドウ送風口、ドアウインドウ送風口、サイド送風口、リア中央送風口
	中央送風口、サイド送風口、リア中央送風口
	サイド送風口、中央送風口、フロント足元送風口、リア中央送風口、リア足元送風口
	サイド送風口、フロント足元送風口、リア中央送風口、リア足元送風口
	フロントウインドウ送風口、ドアウインドウ送風口、サイド送風口、フロント足元送風口、リア中央送風口、リア足元送風口

ⓘ 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

ⓘ 送風口の選択にかかわらず、サイド送風口からは常に送風が行なわれます。サイド送風口からの送風を停止するときは、送風口開閉ダイヤルで送風口を閉じてください。

送風量の調整

送風量の調整

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ（強）[] を押します。

ディスプレイに表示される送風量インジケーターの点灯数が増えます。

送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ（弱）[] を押します。

ディスプレイに表示される送風量インジケーターの点灯数が減ります。

独立温度設定機能

助手席側の設定温度を個別に調整したり、運転席側の設定温度に連動させることができます。

独立温度設定機能を設定する

▶ 独立温度設定スイッチ [ZONE] を押します。

または

▶ 助手席側の設定温度調整ダイヤルを操作します。

独立温度設定スイッチ [ZONE] の表示灯が点灯し、運転席と助手席を個別に調整できます。

独立温度設定機能を解除する

▶ 独立温度設定スイッチ [ZONE] を押します。

独立温度設定スイッチ [ZONE] の表示灯が消灯し、助手席側の設定温度が、運転席側の設定温度に連動します。

デフロスターモード

フロントウインドウの外側が凍結しているときや、フロントウインドウまたはドアウインドウの内側が曇っているときに使用します。

ℹ 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

ℹ デフロスターモードに設定しているときも、送風量を調整することができます。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ [MAX] を押します。

デフロスタースイッチ [MAX] の表示灯が点灯し、以下の内容でエアコンディショナーが作動します。

- 除湿された空気が送風されます。
- 外気温度によっては、エアコンディショナーの送風量が上がり、送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とドアウインドウ送風口、サイド送風口を中心に送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ [MAX] を押します。

デフロスタースイッチ [MAX] の表示灯が消灯し、送風温度、送風口の選択、送風量などが元の設定に戻ります。

または

▶ AUTO スイッチ [AUTO] を押します。

AUTO スイッチ [AUTO] の表示灯が点灯し、デフロスタースイッチ [MAX] の表示灯が消灯します。

エアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

または

▶ 設定温度調整ダイヤル ① または ⑥ を操作します。

ℹ デフロスターモードを解除すると、AC モードを解除していたときは AC モードに設定され、内気循環モードにしていたときは内気循環モードが解除されます。

フロントウインドウの内側が曇るとき

▶ AC スイッチ [A/C] を押して、AC モードに設定します。

▶ AUTO スイッチ [AUTO] を押します。

▶ 曇りが取れないときは、デフロスターモードに設定します。

フロントウインドウの外側が曇るとき

▶ ワイパーを作動させます。

▶ 送風口選択スイッチ [送風口] を押して、ディスプレイに送風口マーク [送風口] または [送風口]、[送風口] を表示させます。

ℹ 上記の設定は、曇りが取れるまでの間にとどめてください。

リアデフォッガー

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

⚠ 警告

ウインドウに氷や雪が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

リアデフォッガーを使用する

▶ イグニッション位置が **2** になっていることを確認します。

▶ リアデフォッガースイッチ REAR を押します。

リアデフォッガースイッチ REAR の表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ REAR を押します。

リアデフォッガースイッチ REAR の表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは、数分後に自動的に停止します。

! 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

ⓘ リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は、外気温度や走行速度により異なります。

リアデフォッガーのトラブル

リアデフォッガーが短時間で停止したり、使用できないときは、以下のようにしてください。

▶ 読書灯やルームランプなど、必要でない電気装備を停止してください。

バッテリーの電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動します。

内気循環モード

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときに使用します。

内気循環モードに設定すると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * を開閉できます。

⚠ 警告

外気温度が低いときは、内気循環モードの設定は短時間にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなり、視界が損なわれ、交通状況を把握することができずに事故の原因になります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **警 告**

ドアウインドウを開閉するときは、身体を挟まれないようにしてください。また、身体や物がドアウインドウに触れないようにしてください。ドアウインドウが作動しているときにドアウインドウに引き込まれたり、ドアウインドウとウインドウフレームの間に挟まれるおそれがあります。挟まれそうになったときは、ドアウインドウスイッチを反対の方向に操作してください。

パノラミックスライディングルーフ * を開閉するときは、パノラミックスライディングルーフに身体を挟まれないようにしてください。挟まれそうになったときは、パノラミックスライディングルーフスイッチを反対の方向に操作してください。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ [内気循環] を押します。

内気循環スイッチ [内気循環] の表示灯が点灯します。

または

▶ ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * が閉じはじめるまで、内気循環スイッチ [内気循環] を押して保持します。

内気循環モードに設定され、ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * が自動で閉じます。

ℹ 外気温度が非常に高いときは、自動的に内気循環モードに切り替わりますが、このときは内気循環スイッチ [内気循環] の表示灯は点灯しません。約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

内気循環モードに設定されていても、一定時間が経過すると以下のように外気導入をはじめます。

外気温度が約 5℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後
外気温度が約 5℃以上のとき	約 30 分後

内気循環モードを解除する

▶ 再度、内気循環スイッチ [内気循環] を押します。

内気循環スイッチ [内気循環] の表示灯が消灯します。

または

▶ ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * が開きはじめるまで、内気循環スイッチ [内気循環] を押して保持します。

内気循環モードが解除され、ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * が前回開いていた位置まで自動で開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ 内気循環スイッチ [icon] で閉じたドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * を別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * を内気循環モードの解除操作に連動して開くことはできません。

ℹ 内気循環モードに設定しているときに AC モードを解除すると、自動的に内気循環モードは解除されます。

送風口の調整

⚠ **警 告**

送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になることがあり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。

送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。

皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。

車外の空気を車内へ取り入れるために、以下の点に注意してください。

- フロントウインドウ下部の吸気口が、氷や雪、葉などで覆われていないこと
- 車内の送風口や吸排気口が覆われていないこと

ℹ 送風効率を上げるため、各送風口の向きが中央になるように調整してください。

中央送風口

① 中央送風口（左側）
② 中央送風口（右側）
③ 中央送風口（右側）開閉ダイヤル
④ 中央送風口（左側）開閉ダイヤル

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル ③④ を上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル ③④ を下側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

風向きを調整する

▶ 送風口のノブを上下左右に動かします。

サイド送風口

左側送風口

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル ③ を内側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル ③ を外側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで外側にまわすと、送風口が閉じます。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで外側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

ⓘ サイド送風口 ② を閉じても、ドアウインドウ送風口 ① を完全に閉じることはできません。

風向きを調整する

▶ 送風口のノブを上下左右に動かします。

グローブボックス送風口

エアコンディショナーが作動しているときは、グローブボックス内には、外気または冷気が送風されます。

送風量はエアコンディショナーの設定に連動します。

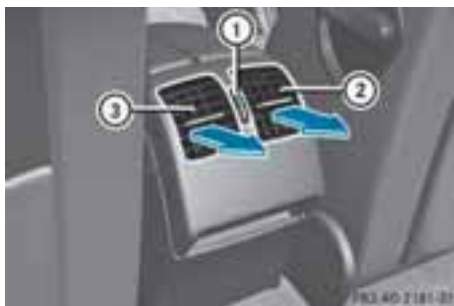
! エアコンディショナーの設定温度を上げるときは、グローブボックス内の送風口を閉じてください。

! 外気温度が高いときは、グローブボックス送風口を開き、エアコンディショナーの AC モードを設定してください。収納物を損傷したり、ガスライターやボンベなどが入っている場合は爆発するおそれがあります。

① 開閉ダイヤル
② 送風口

グローブボックス送風口を開閉する

▶ 開閉ダイヤル ① をまわします。

リア中央送風口

① リア中央送風口開閉ダイヤル
② リア中央送風口（右側）
③ リア中央送風口（左側）

送風口を開く

▶ リア中央送風口開閉ダイヤル ① を上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ リア中央送風口開閉ダイヤル ① を下側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

ℹ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

風向きを調整する

▶ 送風口のノブを上下左右に動かします。

リア足元送風口

フロントシートの下側にリア足元送風口があります。

! 荷物などでリア足元送風口をふさがないでください。

パノラミックスライディングルーフ *

⚠ 警告

パノラミックスライディングルーフを開閉するときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにスライディングルーフスイッチを操作して、スライディングルーフを開いてください。

⚠ 警告

子供が車内からパノラミックスライディングルーフを開閉すると、けがをするおそれがあります。子供だけを残して車から離れないでください。短時間でも、車から離れるときは、キーを携帯してください。

⚠ 警告

パノラミックスライディングルーフのガラスは事故のときに割れるおそれがあります。シートベルトを着用していないと、車が横転したときにパノラミックスライディングルーフの開口部から車外に投げ出されて、致命的なけがをするおそれがあります。乗員全員がシートベルトを着用してください。

! 走行中はパノラミックスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。

! パノラミックスライディングルーフの開口部から、物を出し入れしないでください。パノラミックスライディングルーフのシール部を損傷するおそれがあります。

! 降雨後や降雪後にパノラミックスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。

! パノラミックスライディングルーフ上に雪や氷が付着した状態で操作しないでください。パノラミックスライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! パノラミックスライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。パノラミックスライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウとパノラミックスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ パノラミックスライディングルーフと電動サンシェードは、車外からリモコン操作で開くことができます(▷119 ページ)。

ℹ パノラミックスライディングルーフと電動サンシェードは、車外からリモコン操作またはキーレスゴー操作 * で閉じることができます(▷120 ページ)。

ℹ パノラミックスライディングルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、パノラミックスライディングルーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。

ℹ パノラミックスライディングルーフが自動で開閉しないときは、パノラミックスライディングルーフをリセットしてください(▷224 ページ)。

ℹ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードを開閉できます。その間にドアを開くと、パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードは開閉できなくなります。

パノラミックスライディングルーフの操作

① チルトアップ
② 開く
③ 閉じる

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

パノラミックスライディングルーフの開閉

開く

▶ 電動サンシェードが全開しているときに、スイッチを ② の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

自動で開く

▶ 電動サンシェードが全開しているときに、スイッチを ② の方向にいっぱいまで操作します。

自動で全開します。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動で開いているパノラミックスライディングルーフは停止します。

閉じる

▶ スイッチを③の方向に軽く操作します。

操作している間だけ閉じます。

自動で閉じる

▶ スイッチを③の方向にいっぱいまで操作します。

自動で全閉します。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動で閉じているパノラミックスライディングルーフは停止します。

! パノラミックスライディングルーフには挟み込み防止機能がありますが、パノラミックスライディングルーフを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。特に子供には注意してください。

パノラミックスライディングルーフのチルトアップ / チルトダウン

パノラミックスライディングルーフは、後部をチルトアップすることができます。

チルトアップする

▶ スイッチを①の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトアップします。

自動でチルトアップする

▶ スイッチを①の方向にいっぱいまで操作します。

自動でチルトアップします。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動でチルトアップしているパノラミックスライディングルーフは停止します。

i パノラミックスライディングルーフが開いている状態のときにスイッチを①の方向に操作して保持するか、いっぱいまで操作すると、パノラミックスライディングルーフは閉じ、チルトアップした状態になります。

チルトダウンする

▶ スイッチを③の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトダウンします。

自動でチルトダウンする

▶ スイッチを③の方向にいっぱいまで操作します。

自動でチルトダウンします。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動でチルトダウンしているパノラミックスライディングルーフは停止します。

電動サンシェード

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

開く

▶ スイッチを ① または ② の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

自動で開く

▶ スイッチを ① または ② の方向にいっぱいまで操作します。

自動で全開します。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動で開いている電動サンシェードは停止します。

! 電動サンシェードを開くときは、電動サンシェードとルーフ内張りの間に身体や物が挟まれないように注意してください。

閉じる

▶ パノラミックスライディンググルーフが全閉しているときに、スイッチを ③ の方向に軽く操作します。

操作している間だけ閉じます。

自動で閉じる

▶ パノラミックスライディンググルーフが全閉しているときに、スイッチを ③ の方向にいっぱいまで操作します。

自動で全閉します。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動で閉じている電動サンシェードは停止します。

レインクローズ機能

パノラミックスライディンググルーフを開いた状態で、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにパノラミックスライディンググルーフが自動で閉じ、チルトアップした状態で停止します。

- 降雨などによりレインセンサーが雨滴を感知したとき
- 外気温度が極端に高い、または低いとき
- イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから、約 6 時間が経過したとき
- バッテリー電圧が低下したとき

i 以下のときは、レインクローズ機能は作動しません。

- パノラミックスライディンググルーフをチルトアップしているとき
- レインクローズ機能でパノラミックスライディンググルーフが閉じているときに挟み込みなどの抵抗を感知したとき

  このときは、挟み込み防止機能が作動し、パノラミックスライディンググルーフが停止し、その位置から少し開いた状態になります。また、レインクローズ機能が解除されます。
- レインセンサーに雨滴がかからないとき

挟み込み防止機能

パノラミックスライディングルーフと電動サンシェードには挟み込み防止機能があります。

⚠ **警 告**

挟み込み防止機能が作動しない状態でパノラミックスライディングルーフや電動サンシェードを閉じるときは、身体を挟まないように注意してください。パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

スイッチを操作し続けてパノラミックスライディングルーフを閉じているときやチルトダウンしているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止し、その位置から少し開きます。

ただし、挟み込み防止機能が作動したあとに再度操作して、挟み込みなどの抵抗を検知したときは、より強い力で閉じます。

さらに、挟み込み防止機能が作動したあとに再度操作して挟み込みなどの抵抗を検知したときは、挟み込み防止機能が作動しないことがあります。

自動でパノラミックスライディングルーフを閉じているかチルトダウンしているとき、または電動サンシェードを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して、その位置から少し開きます。

! パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードには挟み込み防止機能がありますが、パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードを閉じるときやパノラミックスライディングルーフをチルトダウンするときは、身体などを挟まないように注意してください。特に子供には注意してください。

パノラミックスライディングルーフ / 電動サンシェードのリセット

パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードがスムーズに作動しないときや、自動で開閉しないときは、パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードのリセットを行なってください。

- ▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。
- ▶ スイッチを ③ の方向（▷221 ページ）に操作してパノラミックスライディングルーフを完全に閉じ、そのまま約 2 秒以上保持します。
- ▶ スイッチを ③ の方向（▷221 ページ）に操作して電動サンシェードを完全に閉じ、そのまま数秒間保持します。
- ▶ パノラミックスライディングルーフと電動サンシェードが自動で開閉することを確認します。
- ▶ 自動で開閉しないときは、再度リセット操作を行ないます。

! パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードをリセットしても、自動で開閉しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

パノラミックスライディングルーフのトラブル

パノラミックスライディングルーフを閉じることができず、原因がわからないとき

⚠ 警告

強い力でパノラミックスライディングルーフを閉じるときや、挟み込み防止機能が作動しない状態でパノラミックスライディングルーフを閉じるときは十分注意してください。閉じているパノラミックスライディングルーフに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

閉じているパノラミックスライディングルーフが停止して、少し開くときは、以下のようにしてください。

▶ パノラミックスライディングルーフが停止したらただちに、パノラミックスライディングルーフが閉じるまでスイッチを ③ の方向に軽く操作し続けてください。

強い力でパノラミックスライディングルーフが閉じます。

閉じているパノラミックスライディングルーフが再度停止して、少し開くときは、以下のようにしてください。

▶ パノラミックスライディングルーフが停止したらただちに、パノラミックスライディングルーフが閉じるまでスイッチを ③ の方向に軽く操作し続けてください。

挟み込み防止機能が作動しない状態で、パノラミックスライディングルーフが閉じます。

荷物の積み方 / 小物入れ

荷物を積むときの注意点

⚠ **警 告**

荷物を積むときは、以降に記載されている注意点を守り、確実に固定してください。急ブレーキや急な進路変更時、事故のときなどに前方に投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

「荷物の固定方法」もご覧ください。

また、荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故などのときに乗員がけがをする可能性は高まります。

⚠ **警 告**

エンジンをかけた状態でトランクを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

荷物の積み方は車の走行安定性に大きく影響します。以下の点に注意してください。

- 荷物はできるだけトランクに積んでください。
- 重量が偏らないよう均等に積んでください。
- 荷物の重量が、制限重量（▷361 ページ）を超えないようにしてください。
- 荷物を車内に積むときは、シートのバックレストより高く積み上げないでください。
- 重い物は車の中心近く（トランクの前方）の低い位置に積み、確実に固定してください。確実に固定できていないと、急ブレーキ時などに荷物が動き、トランク内部を損傷するおそれがあります。
- トランクに荷物を積むときは、トランクの前端に接するようにしてください。
- 車内に荷物を積むときは、リアシートまたはフロントシートのバックレストに接するようにしてください。また、バックレストが確実にロックされていることを確認してください。
- なるべく乗員のいない席の後方に荷物を積んでください。
- 強度の十分な荷物固定用ストラップなどを使用して、荷物を確実に固定してください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。
- ウインドウに荷物が当たらないようにしてください。ウインドウガラスを損傷したり、リアデフォッガーの熱線やアンテナなどを損傷するおそれがあります。

ℹ 荷物固定用のアクセサリーはDaimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

小物入れ

⚠ **警 告**

荷物が収納されているときは、小物入れを必ず閉じてください。また、収納ネットは重い荷物を固定するためには設計されていません。

以下のときに荷物が投げ出されて乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故のとき

収納ネットには、鋭利な角のある物やこわれやすい物を入れて運搬しないでください。

収納ポケットには、かたい物を入れて運搬しないでください。また収納ポケットの上部から、物がはみ出ないようにしてください。

! 収納物が小物入れからはみ出さないようにしてください。

! 小物入れのカバーが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。小物入れや収納物を損傷するおそれがあります。

! 小物入れには食料品を収納しないでください。

! 貴重品は小物入れに保管しないでください。

グローブボックス

左ハンドル車

グローブボックスを開く

▶ ハンドル ① を引きます。

グローブボックスを閉じる

▶ カバー ② を押してロックさせせます。

左ハンドル車

キーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込んでグローブボックスを施錠 / 解錠できます。

グローブボックスを施錠する

▶ エマージェンシーキーを差し込んで施錠位置 2 にまわします。

グローブボックスを解錠する

▶ エマージェンシーキーを差し込んで解錠位置 1 にまわします。

! 貴重品はグローブボックス内に保管しないでください。

i グローブボックス内に送風することができます（▷218 ページ）。

i 駐車場などでキーを預ける場合に、グローブボックスを開けられたくないときは、グローブボックスを施錠してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外し、携帯してください。

フロントアームレストの小物入れ

左ハンドル車

▶ 左右にあるボタン ① または ② を押します。

アームレストカバーが左右に開きます。

i フロントアームレスト内の前方にある小物入れのトレーは、取り外すことができます。

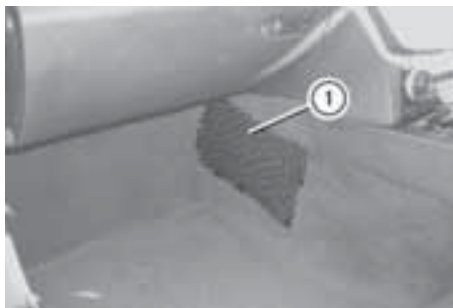
i フロントアームレストの小物入れ内には、USB ポート、メディアインターフェースがあります。メディアインターフェースは、iPod® や MP3 プレーヤーなどのポータブル音楽機器のための接続端子です。詳しくは別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

収納ネット

⚠ **警 告**

収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

助手席足元の収納ネット

左ハンドル車
① 助手席足元の収納ネット

分割可倒式リアシート

リアシートのバックレストの左右いずれか一方、または両方を倒すことができます。

⚠ **警 告**

トランクに重い荷物やかたい荷物を積載するときは、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ **警 告**

エンジンをかけた状態でトランクを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

! リアシートのバックレストを前方に倒した状態でフロントシートを後方に動かしたり、フロントシートのバックレストを後方に倒すときは、リアシートに当たらないように注意してください。シートを損傷するおそれがあります。

バックレストを倒す

ⓘ メモリー機能装備車は、バックレストのロックを解除したときに、フロントシートが後方の位置にあるときやバックレストを後方に倒しているときは、ロックを解除した側のフロントシートが自動的に前方および上方に移動し、バックレストが垂直付近の位置に起き上がります。ただし、運転席シートは、イグニッション位置が **2** のときは移動しません。

▶ メモリー機能非装備車は、必要に応じて、フロントシートを前方に移動します。

また、フロントシートのバックレストが後方に倒れているときは、前方に起こします。

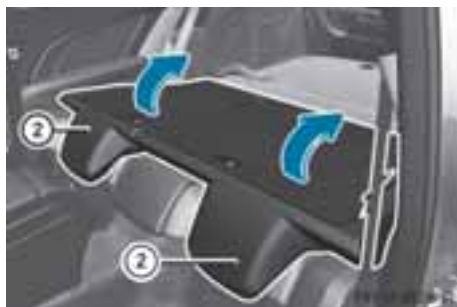
▶ トランクを開きます (▷77 ページ)。

▶ トランク内にあるリリースハンドル ① を手前に引きます。

バックレストのロックが解除されます。

▶ バックレスト ② を前方に倒します。

▶ フロントシートを動かしたときは、シート位置を調整します。

バックレストを起こす

▶ フロントシートが後方の位置にあるときはフロントシートを前方に移動します。

また、フロントシートのバックレストが後方に倒れているときは、前方に起こします。

! バックレストを起こすときは、シートベルトが挟まれていないことを確認してください。

▶ バックレスト ② を起こしてロックします。

⚠ **警告**

バックレストを起こしたときは、バックレストが確実にロックされていることを確認してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が前方に投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

バックレストが確実にロックされていないときは、イグニッション位置が **2** でドアが閉じているときに、マルチファンクションディスプレイに "左（右）リア バックレスト ロックされていません " と表示されます。

ⓘ シートを倒す必要のないときは、バックレストを起こしてロックしてください。

▶ フロントシートを動かしたときは、シート位置を調整します。

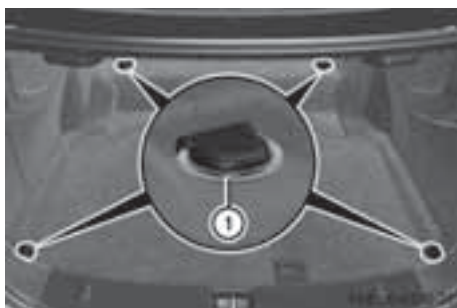
荷物の固定

荷物固定用リング

⚠ **警告**

荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物のずれを防ぐためのものです。これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。
- できるだけすべての荷物固定用リングを使用してください。
- 荷物固定用リングに過大な力がかからないようにしてください。
- 固定用具の取扱説明書もご覧ください。

① 荷物固定用リング

トランクルーム内に 4 個の荷物固定用リング ① があります。

荷物固定用リングを使用する

▶ トランクフロアマットの端をめくり、荷物固定用リング ① を起こします。

▶ 荷物固定用リングをトランクフロアマットのスリットに通します。

バッグホルダー

⚠ 警 告

バッグホルダーには軽い荷物のみを掛けてください。重い物やとがった物、壊れやすい物を掛けないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! バッグホルダーには、約 5kg 以上の荷物を掛けないでください。

バッグホルダー ① はトランクルームにあります。

① バッグホルダー

トランクフロアボード下の収納スペース

トランクフロアボード下の収納スペースには、車載工具や応急用スペアタイヤなどが収納されています。

▶ トランクを開きます。

▶ フック ① を起こして、トランクフロアボードを引き上げます。

▶ トランクフロアボードを支えながら、フック ① をリアウインドウ下側のトランクの縁 ② にかけます。

! トランクフロアボードのフックをリアウインドウ下側のトランクの縁にかけたままトランクを閉じないでください。フックを損傷します。

ルーフラック

⚠ **警 告**

- 誤った取り付け方によってルーフラックやアタッチメントが脱落すると、乗員がけがをしたり、事故の原因になります。ルーフラックやアタッチメントを取り付けるときは、製品に添付されている取扱説明書に従ってください。
- ルーフの最大積載量（約 100kg）を超えないよう注意してください。また、ルーフに荷物を積んでいるときは、車の重心位置が変化し、走行安定性に影響を与えます。路面や交通、天候に合わせた運転を行なってください。

⚠ **警 告**

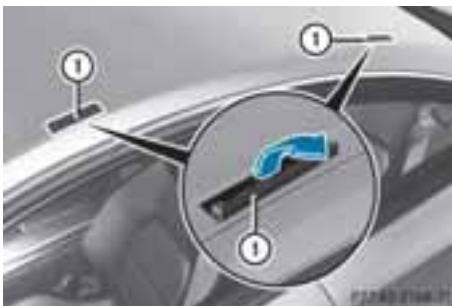
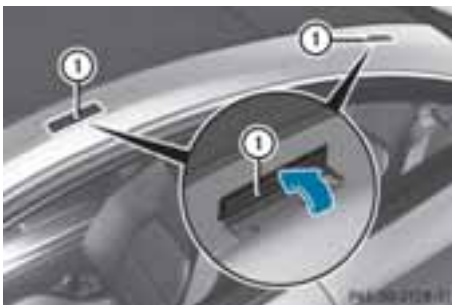
ルーフラックを取り付けているときは、パノラミックスライディングルーフ * を閉じてください。乗員がけがをするおそれがあります。

! 推奨品以外のルーフラックを取り付けると車を損傷するおそれがあります。

ルーフラックを取り付けるとき、また、ルーフラックに荷物を積んだときは下記に注意してください。車を損傷するおそれがあります。

- パノラミックスライディングルーフ * をチルトアップしたときに接触しないこと
- ルーフ後部のアンテナに接触しないこと
- トランクを開いたときに接触しないこと

ℹ ルーフラックは Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パノラミックスライディングルーフ非装備車

パノラミックスライディングルーフ装備車

▶ カバー①を注意しながら矢印の方向に開きます。

▶ カバー①を開いた位置で固定します。

▶ ルーフラックをカバー①内部のマウント部に固定します。

▶ 製品に添付の取扱説明書の指示に従ってください。

! カバーを開くときは、金属製の物やかたい物を使用しないでください。カバーやルーフを損傷するおそれがあります。

室内装備

カップホルダー

⚠ **警告**

走行中はカップホルダーを閉じ、使用しないでください。以下のときに物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故に巻き込まれたとき

カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。飲み物がこぼれるおそれがあります。熱い飲み物のためにカップホルダーを使用しないでください。火傷をするおそれがあります。

! カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

センターコンソールのカップホルダー

左ハンドル車
① カップホルダー
② カバー

カップホルダーのカバーを開く

▶ カバー ② を後方に引きます。

カップホルダーのカバーを閉じる

▶ カバー ② を前方に押します。

カップホルダーを取り外す

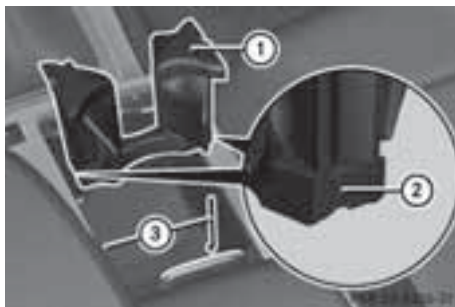
左ハンドル車

▶ 左右どちらか一方の切り欠き ① にドライバーなどを差し込み、ガイド ② が見えるまで内側に寄せます。

▶ カップホルダーを少し引き上げます。

▶ 同様に反対側の切り欠き ① にドライバーなどを差し込み、内側に寄せながら少し引き上げます。

▶ カップホルダーを内側に引き寄せながら取り外します。

カップホルダーを取り付ける

▶ カップホルダー上部の角がある部分が前方を向くようにして、カップホルダー下部の切り欠き ② をガイド ③ に合わせます。

▶ 固定されるまで、カップホルダー ① を押し込みます。

リアセンターコンソールのカップホルダー

カップホルダーのカバーを開く

▶ カバー ① を前方に押します。

カップホルダーのカバーを閉じる

▶ カバー ① を後方に引きます。

サンバイザー

⚠ 警 告

走行中はバニティミラーのカバーを閉じてください。眩惑により交通状況の視認が損なわれ、事故の原因になります。

① 照明
② フック
③ クリップ
④ バニティミラー
⑤ バニティミラーカバー

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

▶ サンバイザーをフック ② から外します。

▶ サンバイザーを横にまわします。

! サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバー ⑤ を閉じてください。バニティミラーカバーやルーフ内張りを損傷するおそれがあります。

バニティミラー

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザーを下げます。

▶ バニティミラーカバー ⑤ を上方に開きます。

照明 ① が点灯します。

使用後はバニティミラーカバーを閉じます。

i 照明 ① はサンバイザーがフックにかかっているときに点灯します。

灰皿

i 灰皿を取り外したスペースを小物入れとして使用することができます。

! 灰皿下部のスペースには耐熱性がありません。火がついたたばこを灰皿に置く前に、灰皿が確実に取り付けられていることを確認してください。灰皿下部のスペースを損傷するおそれがあります。

! 吸いがらやマッチの火は確実に消して、使用後はカバーを閉じてください。

! 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。

フロントの灰皿

灰皿のカバーを開く

▶ カバー ① を前方に押します。

灰皿のカバーを閉じる

▶ カバー ① を前方に押してから手を放します。

カバーが自動的にスライドして閉じます。

灰皿を取り外す

▶ エンジンを停止し、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ 灰皿 ③ の両脇をつまみ、矢印 ② の方向に引き上げます。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿 ③ を元の位置に合わせ、押し込みます。

リアの灰皿

灰皿を開く / 閉じる

▶ カバー ② の上端を持って開きます。

閉じるときはカバーを押します。

灰皿を取り外す

▶ 解除ボタン ③ を押して、灰皿 ① を取り出します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿 ① を元の位置に合わせ、押し込みます。

ライター

⚠ 警 告

ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

安全のため、子供を乗車させるときはライターを抜き取ってください。火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! ライターを使用するときは、以下の点に注意してください。ライターを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

- ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。
- 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。
- ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。

! ライターが戻らなくなったときは、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、純正アクセサリーだけを使用してください。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

ライターのカバーを開く

▶ 停止するまでカバー ① を前方に押します。

▶ ライター ② を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

▶ ライター ② を引き抜きます。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

ライターのカバーを閉じる

▶ カバー ① を前方に軽く押します。

カバーが後方にスライドします。

12V 電源ソケット

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

! 必ず DC12V、最大消費電流 15A 以下（最大消費電力 180W 以下）の規格に合った、ライト類や携帯電話充電器などの電気製品を使用してください。規格外の電気製品を使用すると、ヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。

! 12V 電源ソケットにライターを差し込まないでください。

! ソケット内に指などを入れないでください。感電するおそれがあります。

! エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! 12V 電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障やショートの原因になります。

ⓘ バッテリー電圧が低下したときは、エンジン始動のための電力を確保するため、12V 電源ソケットは自動的に作動を停止します。

リアの 12V 電源ソケット

リアの 12V 電源ソケットを使用する

▶ カバー ② の上端を持って開きます。

▶ 12V 電源ソケット ① のカバーを開きます。

アシストグリップ

各ドアウインドウの上方にアシストグリップがあります。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。

リアサイドウインドウ上方に、コートフックが装備されています。

⚠ **警 告**

SRS ウインドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

- アシストグリップにハンガーやアクセサリーなど物を掛けないでください。
- コートフックには軽く柔らかい衣服以外の物を掛けないでください。
- コートフックを使用するときは、ハンガーなどを使用せず、衣服を直接掛けてください。

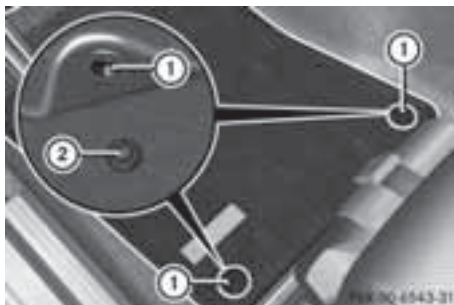
! アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。

! 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。

! コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないように注意してください。

フロアマット *

⚠ 警 告

- 運転席のフロアマットを使用するときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。
- 運転席のフロアマットは、フロアの凸部②とフロアマットの凹部①で確実に固定してください。
- 走行前にフロアマットが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、フロアマットが滑ったり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。
- 運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

運転席のフロアマットを取り付ける

▶ 運転席シートを後方に動かします。

▶ フロアマットを敷きます。

▶ フロアマットの凹部 ① を押し、フロアの凸部 ② にはめ込みます。

運転席のフロアマットを取り外す

▶ フロアの凸部 ② からフロアマットを取り外します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

慣らし運転

⚠ **警 告**

新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。また、ブレーキパッドやブレーキディスクの交換を行なったときも同様です。

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ位置 D3、D2、D1 および 1 ～ 3 速のギアは山道などを低速で走行するときだけに使用してください。

走行距離が 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

- C 63 AMG は、以下の注意事項を守ってください。

  ◇走行速度が 140km/h を超えないようにしてください。

  ※ 公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

  ◇エンジン回転数が 4,500 回転を超えた状態で長時間走行しないでください。

ⓘ エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、馴らし運転を行なってください。

ⓘ **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

ⓘ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

リアディファレンシャルロック * 装備車

リアディファレンシャルロック装備車には、セルフロッキング式のディファレンシャルがリアアクスルに装備されています。

リアアクスルのディファレンシャルを保護するために、リアアクスルのディファレンシャルオイルは、新車時から約 3,000km 走行後を目安に、以降は約 50,000km または 3 年ごとに交換してください。

これにより、より長い期間リアアクスルのディファレンシャルを正常な状態に保つことができます。オイル交換についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

燃料の給油

燃料を給油する

⚠ **警 告**

給油するときは、必ずエンジンを停止してください。また、周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。

⚠ **警 告**

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、下記を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ **警 告**

肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

①燃料給油フラップ
②ホルダー
③タイヤ空気圧ラベル
④使用燃料ラベル

燃料給油フラップは、リモコン操作やキーレスゴー操作 * での解錠 / 施錠に連動して解錠 / 施錠されます。

燃料給油口は車両の右側後方にあります。また、メーターパネル内には給油口の位置を示す [給油口表示] が表示されています。

給油口を開いて給油する

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作 * でイグニッション位置を **0** にします。

▶ 燃料給油フラップ ① の矢印の位置を押します。

燃料給油フラップ ① が少し開きます。

▶ 燃料給油フラップ ① を開きます。

▶ 燃料給油フラップ ① をいっぱいまで開きます。

▶ キャップを反時計回りに少しゆるめて、タンク内の圧力を抜きます。

圧力が抜けたら、さらに反時計回りにまわして取り外します。

▶ 外したキャップを燃料給油フラップ ① の裏側にあるホルダー ② に置きます。

▶ 給油ノズルを給油口にいっぱいまで差し込み、給油を開始します。

給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。

! 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

給油口を閉じる

▶ キャップを燃料給油口に合わせ、ロックされた音が聞こえるまで時計回りにいっぱいまでまわします。

▶ 燃料給油フラップ ① を閉じます。

ℹ 車を施錠する前に燃料給油フラップを閉じてください。施錠後に燃料給油フラップを閉じようとしても、ロックピンにより、燃料給油フラップが閉じなくなります。

ℹ 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベル ③ が貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては （▷262 ページ）をご覧ください。

ℹ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で燃料給油フラップが解錠されないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 燃料を給油するときは、以下の点に注意してください。

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。故障の原因になります。
- 軽油を燃料に使用したり、無鉛プレミアムガソリンに混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでもエンジンなどを損傷するおそれがあります。また、このような場合は保証の適用外になります。
- 誤って軽油を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。軽油が燃料系部品全体にまわるおそれがあります。誤って給油した場合はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡し、燃料タンクや燃料系部品の洗浄を行なってください。

- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を給油してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。

! セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。
- 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。
- 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
- 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。
- キャップの取り外し / 取り付けは確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。
- 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

燃料と燃料タンクのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
車から燃料が漏れている。	⚠ **火災や爆発のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。 ▶ ただちにイグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。 または キーの電池が消耗している。 ▶ エマージェンシーキーを使用して車を解錠してください（▷315 ページ）。
	燃料給油フラップは解錠されるが、給油フラップの開閉機構に異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンルーム

ボンネット

⚠ 警告

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。

⚠ 警告

エンジンが停止していても、エンジンルーム内には高温になっている部分があります。エンジンルーム内に触れるときは、各部の温度が下がっていることを確認してください。

⚠ 警告

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。

高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。

⚠ 警告

エンジンスイッチからキーを抜いているときや、イグニッション位置が **0** のときでも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

アクティブボンネット

歩行者への衝突などの際、ボンネットの後端が上方に動き、相手への衝撃を緩和する機能です。

詳しくは（▷318 ページ）をご覧ください。

⚠ 警告

車両が受ける衝撃の大きさや角度など衝突時の状況によっては、ボンネットの後端が上方に動かず、相手への衝撃を緩和できないことがあります。

ボンネットを開く

⚠ 警告

ボンネットを開くときは、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にして、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認してください（▷115 ページ）。ボンネットを開いているときにワイパーが作動すると、けがをしたり、車やワイパーを損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

左ハンドル車

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作 * でイグニッション位置を **0** にして、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認します（▷115 ページ）。

▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー ① を手前に引きます。

ℹ 盗難防止警報システム装備車は、ワイパーが作動しているときにボンネットのロックを解除すると、ワイパーの作動が停止します。

▶ ボンネットの裏側にあるロック解除ノブ ② を矢印の方向に押し上げながらボンネットを開きます。

約 40cm までボンネットを上げると、ボンネットはガスダンパーにより自動的に上がり、開いたままになります。

ℹ ボンネットを開いたあとに、さらに押し上げると、ボンネットを垂直の位置まで開くことができます。

ボンネットを閉じる

⚠ **警告**

走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて視界が遮られ、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警告**

ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットやエンジンルーム内の機器類などを損傷するおそれがあります。

▶ ボンネットを引き下げ、グリル上部から約 20cm ～ 30cm の位置から手で押し下げて閉じます。

▶ ボンネットが確実に閉じていることを確認します。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

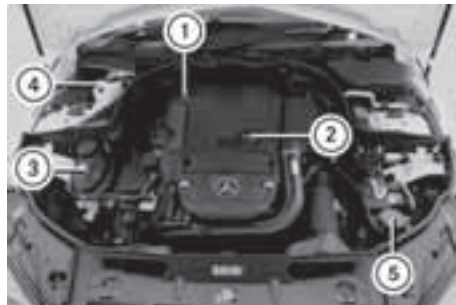
エンジンルーム

警 告

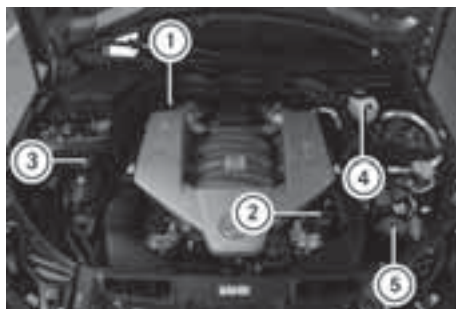
- イグニッションシステムおよびバイキセノンヘッドライト * のバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- エンジンスイッチからキーを抜いているときやイグニッション位置が **0** のときも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部には身体や物を近付けないでください。

環 境

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換および廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

C 180 / C 250

①	エンジンオイルレベルゲージ
②	エンジンオイルフィラーキャップ
③	冷却水リザーブタンク
④	ブレーキ液リザーブタンク
⑤	ウォッシャー液リザーブタンク

* オプションや仕様により、異なる装備です。

C 63 AMG

左ハンドル車

①	エンジンオイルレベルゲージ
②	エンジンオイルフィラーキャップ
③	冷却水リザーブタンク
④	ブレーキ液リザーブタンク
⑤	ウォッシャー液リザーブタンク

※ 右ハンドル車の ④ は左右対称の位置にあります。

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電に注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

エンジンオイル

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

! マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷300 ページ）をご覧ください。

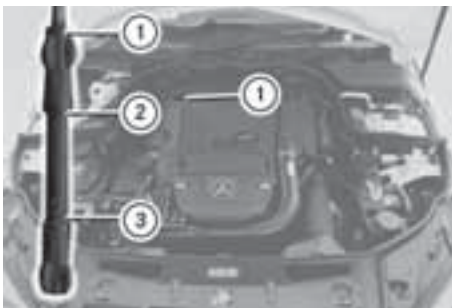
エンジンオイル量に関する注意

車の使用状況により、1,000km につき最大で約 0.8 リットルのエンジンオイルが消費されます。

慣らし運転中のエンジンオイルの消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

エンジンオイル量を点検する

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 水平な場所に停車している
- エンジンが温まっているときは、エンジンを停止してから約 5 分間経過している
- エンジンが温まる前にエンジンを停止したときは、エンジンを停止してから約 30 分以上経過している

ℹ 車種や仕様により、エンジンオイルレベルゲージの形状が異なります。

▶ エンジンオイルレベルゲージ①を抜き取り、きれいに拭いていっぱいまでゆっくり差し込みます。

▶ エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量を点検します。

エンジンオイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限②と下限③の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイルレベルゲージを元の位置に差し込みます。

▶ エンジンオイル量が下限かそれ以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを約 0.5 ～ 1 リットル補給します。

エンジンオイルを補給する

⚠ **警 告**

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

環 境

環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

! 必ず車両の点検整備用として承認されたエンジンオイルとオイルフィルターだけを使用してください。

以下の原因により、エンジンや排気システムを損傷するおそれがあります。

- 車両の点検整備用として承認されていないエンジンオイルとオイルフィルターを使用すること
- 指定の交換時期を過ぎてからエンジンオイルとオイルフィルターを交換すること
- エンジンオイルに添加剤を入れること

! エンジンオイル量がエンジンオイルレベルゲージの上限を超えているときは、エンジンオイルを抜いてください。エンジンや触媒を損傷するおそれがあります。

エンジンオイルフィラーキャップの例

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

エンジンオイル量がエンジンオイルレベルゲージの下限かそれ以下のときは、エンジンオイルを約 0.5 ～ 1 リットル補給します。安全に十分注意して、作業を行なってください。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を補給口に合わせ、時計回りにいっぱいまでまわして取り付けます。

エンジンオイルフィラーキャップが確実に取り付けられていることを確認します。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージでエンジンオイル量を点検します。

エンジンオイルの交換時期

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。

! 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。

! エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。

! エンジンオイル量が多すぎると故障の原因になります。

! エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルのオイル量を点検する必要はありません。

オイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご覧ください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

冷却水

⚠ 警告

冷却システムには圧力がかかっています。水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。

⚠ 警告

不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

! 冷却水の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

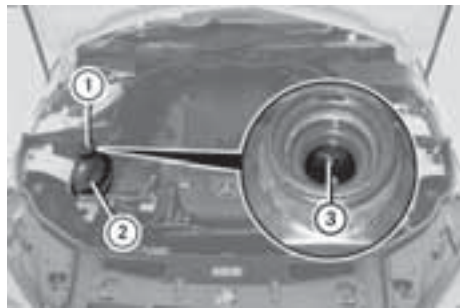
冷却水の量を点検する

▶ 水平な場所に停車します。

冷却水の量の点検は、水平な場所に停車していて、エンジンが十分に冷えているときにのみ行なってください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度計で冷却水の温度が冷えていることを確認します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ リザーブタンク ② のキャップ ① を反時計回りにゆっくり約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ ① をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面がリザーブタンク ② 内のマーカー ③ に達していれば適量です。

冷却水が温かいときは、液面がマーカー ③ より約 1.5cm 上にあれば適量です。

▶ 必要であれば、冷却水を補給します。

▶ キャップ ① を合わせ、いっぱいまで時計回りにまわします。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、リザーブタンクに補給します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ リザーブタンク ② のキャップ ① を反時計回りにゆっくり約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ ① をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域(最低気温)によって濃度を変えます(▷359 ページ)。

▶ キャップ ① を確実に閉じます。

! 冷却水の補給は、冷却水が冷えているときに行なってください。

! 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。

! 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。

! 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ(▷299 ページ)が表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの症状

- 冷却水温度が約 120℃以上を示している。
- マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示される。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

⚠ **警 告**

エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。

⚠ 警告

水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

! オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。

! オーバーヒートしたときは必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください。

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

ラジエターの冷却ファンが停止しているときや、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、ラジエターの冷却ファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足しているときは補給します（▷254 ページ）。

ブレーキ液

⚠ 警告

マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり（▷296 ページ）、ブレーキ警告灯（▷309 ページ）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

安全な場所に停車して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ 警告

必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、レベルインジケーターの上限を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液がエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷296 ページ）をご覧ください。

ブレーキ液の量を点検する

右ハンドル車

▶ ブレーキ液の液面が、ブレーキ液リザーブタンク ① のレベルインジケーター上限（MAX）② と下限（MIN）③ の間にあれば正常です。

※ 左ハンドル車のブレーキ液リザーブタンク①は、エンジンルームに向かって右側にあります。

! レベルインジケーターの上限（MAX）を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

i **ベーパーロック**：長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ブレーキ液の交換

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! ブレーキ液の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! ブレーキ液の補給や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ウォッシャー液

⚠ **警 告**

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときは補給しないでください。

i ウォッシャー液には夏用と冬用の2 種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウォッシャー液を補給する

▶ リザーブタンクに補給する前に、ウォッシャー液と水を適正な混合比に混ぜます。

▶ ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ ① を開きます。

▶ ウォッシャー液を補給します。

▶ キャップ ① を取り付けます。

ウインドウウォッシャー液とヘッドライトウォッシャー * 液のリザーブタンクは共用です。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します。

! 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ヘッドライトには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは (▷305 ページ) をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

安全に関する注意

⚠ **警 告**

純正品および承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着したり、タイヤやホイールを正しく装着しないと、車両の安全性を損なうおそれがあります。

⚠ **警 告**

パンクしたタイヤにより、車両の走行、ステアリング、制動特性が著しく損なわれます。事故の危険性があります。

- パンクしたタイヤでは走行しないでください。
- ただちに応急用スペアタイヤに交換するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ブレーキシステムやホイールを改造しないでください。また、スペーサーやダストシールドを使用しないでください。保証の適用外になります。

走行時の注意

- 走行しているときは、振動や騒音、ステアリングが片方向にとられるなどの不自然なステアリングの動きに注意してください。ホイールやタイヤが損傷しているおそれがあります。タイヤやホイールの損傷が疑われるときは、ただちに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。目に見えないタイヤやホイールの損傷も、不自然なステアリングの動きの原因になります。

  異常が見つからないときも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- 駐車時は、タイヤやホイールが縁石や障害物に接触しないようにしてください。

  縁石などを乗り越える必要があるときは、走行速度を落とし、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にしてください。タイヤを損傷するおそれがあります。

タイヤの点検

⚠ 警 告

損傷しているタイヤは空気圧低下の原因になります。その結果、車のコントロールを失うことがあります。事故の危険性があります。損傷の兆候がないかタイヤを定期的に点検し、損傷しているタイヤはただちに交換してください。

タイヤを点検する

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態（別冊「整備手帳」参照）を見て、空気圧が適切であることを点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないこと、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないことを点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり、極端にすり減っていないことを点検します。スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

- タイヤの溝の深さや接地面の状態は定期的に点検してください。必要であれば、タイヤを左側または右側にいっぱいまで切った状態で、タイヤの内側も点検してください。
- ほこりや水分の浸入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。
- 応急用スペアタイヤも含め、タイヤの空気圧は定期的に点検してください。
- タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

タイヤトレッド

⚠ **警告**

以下の点に注意してください。

- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、すみやかにに交換してください。タイヤの溝の深さが約 3mm 以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。
- ウィンタータイヤの溝の深さが約 4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの溝の深さや接地面の状態は定期的に点検してください。必要であれば、タイヤを片方向に向けて、タイヤの内側も点検してください。

タイヤの選択、装着と交換

- タイヤとホイールは、4 輪とも同じ種類と銘柄のものだけを装着してください。
- ホイールには指定された正しいサイズのタイヤだけを装着してください。
- 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約 100km を超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。
- トレッドがひどく摩耗したタイヤでは、濡れた路面を走行しないでください。タイヤのグリップが著しく低下し、ハイドロプレーニング現象を起こすおそれがあります。
- 摩耗具合にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

  応急用スペアタイヤも同様に交換してください。
- 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、車両操縦性やロードノイズ、燃料消費などに悪影響をおよぼすおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールと車体などが接触して、タイヤや車体を損傷するおそれがあります。
- 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。
- 大径ホイールを装着したときは、路面状況が悪いときに乗り心地が悪くなることがあります。また、障害物を乗り越えたときの快適性も低下し、ホイールやタイヤを損傷する危険性も高まります。
- 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。
- 前後同サイズのタイヤ / ホイールが指定されている車種は、2 本だけ新品のタイヤを装着するときは、前輪に装着してください。

タイヤの摩耗具合は、以下の条件により左右されます。

- 運転方法
- タイヤ空気圧
- 走行距離

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が約 7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABS や ESP® などの効果が発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。

ウィンタータイヤを装着したときは、正しいタイヤ空気圧に調整して、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

⚠ **警 告**

ウィンタータイヤの溝の深さが約 4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。十分なグリップを発揮できず、雪道や凍結路の走行に適さなくなります。これにより、車両のコントロールを失い、事故の原因になります。

ウィンタータイヤを装着したときは、正しいタイヤ空気圧に調整して、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

応急用スペアタイヤを装着したときは、約 80km/h 以上の速度で走行しないでください。

⚠ **警 告**

ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、タイヤのサイズと種類が異なるため、事故を起こすおそれがあります。

以下の事項を守ってください。

- 状況に合わせて慎重に運転してください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。
- 応急用スペアタイヤはウィンタータイヤとはサイズが異なるため、短時間のみ使用してください。
- ESP® の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤを交換するときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。交換するタイヤのサイズと種類が正しいことを確認してください。

! ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、クルーズコントロールは使用しないでください。

ⓘ ウィンタータイヤについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

スノーチェーンは、Daimler AG の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

スノーチェーンを装着するときは、以下のことに注意してください。

- 車種や仕様により、標準タイヤ、ホイールにスノーチェーンを装着できない場合があります。詳しくは（▷363 ページ）をご覧ください。
- 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。
- スノーチェーンは必ず後輪に装着してください。前輪に装着すると、ボディやフェンダーの内側またはサスペンションなどに接触して、タイヤや車体を損傷するおそれがあります。
- スノーチェーン装着時は約 50km/h 以下の速度で走行してください。
- 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。
- スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。
- 路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

ⓘ スノーチェーン装着中は、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

ⓘ スノーチェーンについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

タイヤ空気圧

⚠ **警 告**

タイヤ空気圧が低すぎたり高すぎるときは、以下のような危険があります。

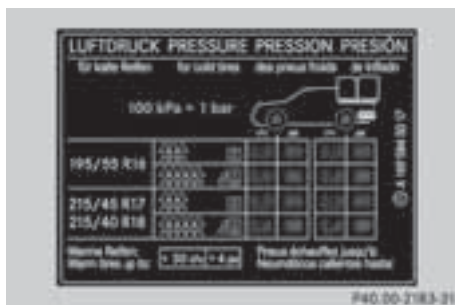
- 車に重い荷物を積んだときや高速走行したときに破裂するおそれがあります。
- タイヤが極度に摩耗したり、偏摩耗して、タイヤのグリップが著しく低下するおそれがあります。
- 車両の走行、ステアリング、制動特性が著しく損なわれるおそれがあります。

事故を起こすおそれがあります。

タイヤ空気圧は以下のように調整することをお勧めします。その際は、応急用スペアタイヤを含め、すべてのタイヤの空気圧を点検してください。

- 少なくとも 2 週間ごと
- 荷物の積載量が変わったとき
- 長距離走行前
- 不整地の走行など、使用条件が変わったとき

必要であれば、指定のタイヤ空気圧に調整してください。

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルの例

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ裏側に貼付されています（▷244 ページ）。

装着されているタイヤのサイズや乗車人数、荷物の量などに応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「kPa（100kPa=1bar）」と「psi」で表示されています。

応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールまたはタイヤに記載されています。詳しくは（▷364 ページ）をご覧ください。

⚠ **警 告**

市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。それらを装着すると、バルブが常に開いた状態になるため、空気圧低下の原因になります。

⚠ **警 告**

タイヤ空気圧が繰り返し低下するときは、ホイールやホイールバルブ、またはタイヤが損傷しているおそれがあります。タイヤ空気圧が低すぎると、タイヤが破裂するおそれがあります。事故を起こすおそれがあります。

- タイヤにくぎなどがささっていないか確認してください
- ホイールやホイールバルブから空気が漏れていないか確認してください。

問題を解消できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! 必ず法定速度を守って走行してください。

タイヤ空気圧は、できるだけタイヤが冷えているときに測定してください。以下のときはタイヤは冷えています。

- 直射日光を浴びていない場所で、少なくとも約 3 時間以上駐車したままのとき
- 約 1.6km 以上走行していないとき

周囲の気温が約 10℃変化すると、タイヤ空気圧は約 10kPa（0.1bar / 1.5psi）変化します。タイヤ空気圧を点検するときは周囲の気温に注意してください。

タイヤ空気圧が高すぎたり低すぎる状態で走行すると、以下のようなことが起こります。

- タイヤの寿命が短くなります。
- タイヤの損傷につながります。
- 車両操縦性や走行安全性に悪影響を与えます（ハイドロプレーニング現象が発生しやすくなります）。

i 少ない荷物に対応した空気圧値は、良い乗り心地をもたらすための最低空気圧です。

荷物が少ないときも、多い荷物に対応した空気圧を使用することもできます。この空気圧値は許容されている値であり、走行性能に悪影響を与えることはありません。

環 境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

タイヤ空気圧警告システム *

4 輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

空気の入れすぎなど、誤ったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照し、必ず規定の空気圧に調整してください。

タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。

突然の空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況のときは作動しません。

- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速しているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- スノーチェーンを装着しているとき
- 重い荷物を積載しているとき

* オプションや仕様により、異なる装備です。

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- タイヤやホイールを交換したとき
- 新しいタイヤやホイールを装着したとき

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（▷262 ページ）を参照して、すべてのタイヤが適正な空気圧に調整されていることを確認してください。

▶ タイヤ空気圧に関する注意事項を守ってください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューから " メンテナンス " を選択します。

▶ ▼ を押して、" タイヤ空気圧 " を選択します。

▶ OK を押します。

" タイヤ空気圧 警告システム オン " と表示されます。

ⓘ イグニッション位置が **2** 以外のときは、" タイヤ空気圧 警告システム イグニッションオンで 作動できます " と表示されます。

▶ OK を押します。

" タイヤ空気圧 正常ですか？ " と表示されます。

▶ ▼ を押して " はい " を選択し、OK を押します。

" タイヤ空気圧 警告システム 再始動しました " と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

または

再起動を中断する場合

▶ ステアリングの ⮌ スイッチを押します。

または

▶ " タイヤ空気圧 正常ですか？ " と表示されているときに、" キャンセル " を選択して、OK を押します。

タイヤの交換

タイヤローテーション

⚠ **警 告**

タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なる車両でタイヤローテーションを行なうと、車両操縦性や走行安定性が確保できません。ブレーキやサスペンションを損傷するおそれがあります。事故を起こすおそれがあります。

タイヤローテーションは、タイヤおよびホイールのサイズが前後同一の車両にのみ行なってください。

タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。

5,000 ～ 10,000km を目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

タイヤローテーションを行なう

▶ 前後のタイヤを入れ替えます。

ⓘ タイヤローテーションを適切に実施すると、タイヤの摩耗を均一化することができます。その結果、タイヤの寿命を延ばすことができます。

ⓘ タイヤを入れ替えたあとにタイヤ空気圧を調整してください。タイヤ空気圧は、燃料給油フラップの裏側に貼付してあるタイヤ空気圧ラベルで確認してください。

タイヤの回転方向

回転方向が指定されているタイヤは、正しい方向に回転するように装着することで、ハイドロプレーニング現象などを発生しにくくし、タイヤの性能を発揮することができます。

タイヤの側面に記載された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

応急用スペアタイヤは、どちらの回転方法でも装着できます。

応急用スペアタイヤを使用するときは、速度制限および使用期限に従ってください。

タイヤの保管

装着していないタイヤは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

タイヤの清掃

⚠ **警 告**

高圧式スプレーガンを使用してタイヤを清掃しないでください。タイヤを損傷するおそれがあります。

寒冷時の通り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることや、バッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温度に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地域の場合、少なくとも 1 年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやトランクの凍結

ドアやトランクが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやトランクが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやトランクを開こうとすると、周囲の防水シールやウェザーストリップを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。

- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、ドアウインドウ、パノラミックスライディングルーフ * などが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

> ⚠ **警 告**
>
> マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンを始動すると、排気ガスが車内に入り、一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、シフトポジションを P にして、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないようにしてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

走行時の注意

エンジンを停止しての走行

⚠ 警告

走行中はエンジンを停止しないでください。

エンジンが停止しているときは、パワーステアリングやブレーキの倍力装置が作動しません。

ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になるため、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

ブレーキ

⚠ 警告

滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

ブレーキ操作が、後続車などに危険をおよぼすことがないように注意してください。

下り坂を走行するとき

長い下り坂や急な下り坂では必ずティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキを効かせてください。

エンジンブレーキを併用することにより、ブレーキシステムへの負荷が減り、ブレーキの過熱を防ぐことができます。また、ブレーキの摩耗を防ぐことができます。

ℹ クルーズコントロールや可変スピードリミッターの作動中も、低いギアレンジを選択することによりエンジンブレーキを効かせることができます。

ℹ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

ブレーキシステムに強い負荷がかかったとき

⚠ 警告

ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

ブレーキに大きな負担がかかったときは、すぐに停車するのではなく、しばらく走行を続けてください。ブレーキシステムに風を当てることにより、より早く冷却することができます。

ブレーキを効かせずに長時間走行しているときなどは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

路面が濡れているとき

濡れた路面を走行しているときや洗車直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

凍結防止剤を散布した路面でのブレーキ性能の制限について

⚠ **警 告**

ブレーキディスクやブレーキパッドに塩分が付着すると、ブレーキの効きが遅れるため、制動距離が大幅に長くなり、事故につながるおそれがあります。

危険を回避するため、以下の指示に従ってください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行するときは、周囲の交通を妨げないように注意しながら、数回に分けてブレーキを効かせてください。ブレーキペダルを踏むことにより、ブレーキディスクやブレーキパッドに付着した塩分を除去することができます。
- 前車との車間距離を十分に確保して、慎重に運転してください。
- 駐車する前や発進直後は注意してブレーキを効かせ、ブレーキディスクから塩分を除去してください。

ブレーキパッドについて

⚠ **警 告**

新車時または交換した新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。最初の数百 km までは、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

! ブレーキが過熱している状態のときは、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

AMG 強化ブレーキシステム * の注意事項

AMG 強化ブレーキシステムは、高い負荷に耐えられるように設計されています。

走行速度やブレーキペダルの踏力、気温や湿度などの外気環境により、ブレーキノイズを発生することがあります。

また、ブレーキパッドやブレーキディスクなどブレーキシステムを構成する部品は、運転スタイルや走行状況に応じて摩耗度合いが異なってきます。走行距離は摩耗度合いを測る目安にはなりません。負荷の高い運転を行なったときは、摩耗度合いが高くなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! ブレーキシステムに高い負荷を与えるような走行をした後は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

(!) ブレーキ警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは、警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

ブレーキ警告灯は、パーキングブレーキを効かせているときはエンジン始動後も点灯したままになります。

パーキングブレーキを解除しても消灯しないときや、エンジンがかかっているときに点灯する場合は、ブレーキ液が不足しています。安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷296 ページ）をご覧ください。

タイヤのグリップについて

⚠ **警 告**

安全な走行のため、濡れた路面や凍結した路面では、乾燥した路面を走行するときよりも低い速度で走行してください。

外気温度が低いときは、路面の状態に十分注意してください。路面が凍結しているときは、ブレーキ時にタイヤと路面の間に薄い水の層が形成され、タイヤのグリップが大きく低下します。

濡れた路面での走行

ハイドロプレーニング現象

一定以上の深さがある水たまりを走行するときは、以下の状態でも、ハイドロプレーニング現象が発生するおそれがあります。

- 走行速度を落としている
- タイヤトレッドの溝の深さが十分にある

できるだけ水たまりや轍を避け、ブレーキを効かせるときは注意してください。

道路が冠水しているときや車が水没したとき

やむを得ず冠水した道路を走行するときは、以下の点に注意してください。

- 許容されている最大水深は約 25cm です。
- 波が立たないような速度で走行してください。

! 前方を走行している車両や、すれ違う車両からも波が発生します。これにより、最大水深を超えることがあります。

! 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。

! 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

雪道や凍結路面の走行

⚠ **警 告**

車が雪に覆われたときは、マフラーやエンジンをかけた車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に入り、一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

滑りやすい路面での走行

⚠ **警 告**

滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と車両操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 走行モードを E モードまたは C モードに切り替えてください（▷136 ページ）。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などは避けてください。
- クルーズコントロールは使用しないでください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行して、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドライトを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯や故障 / 警告メッセージが消灯しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止してメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。

- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウやボンネットの周囲に枯れ葉や異物がある場合は、必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、車内に水が浸入するおそれがあります。

急な坂道で駐車するとき

急な坂道で駐車するときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出して事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、以下の点に注意して、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいため、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いため、歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分に確保してください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。また、AC モードでエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドライトやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドライトを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するため、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

Daimler AG 指定の点検整備

Daimler AG の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

1 年および 2 年点検整備

1 年、2 年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときにお客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メンテナンスインジケーター

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーターが表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

! メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。

! メーカー指定点検整備を実施時期までに行なわなかった場合は、保証などの適用外になることがあります。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の約 1 カ月前になると、イグニッション位置を **2** にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーターが自動的に表示されます。

メンテナンスインジケーターを消したいときは、ステアリングの [↩] または [OK] スイッチを押します。

i メンテナンスインジケーターが表示される時期は一定ではなく、車種や仕様、運転スタイルや走行距離などにより変わります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ⓘ 新車時の走行距離が 30km を超えてから、メンテナンスインジケーターの点灯時期が適切であることをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で必ず確認してください。

手動表示

メンテナンスインジケーターは、手動でも表示できます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューから " メンテナンス " を選択します。

▶ ▼ を押して、" メンテナンス " を選択します。

▶ OK を押します。

メンテナンスインジケーターが表示されます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように表示されます。

点検整備実施前の表示例

" 次のメンテナンス A（または B）あと XX km です "

" 次のメンテナンス A（または B）あと XX 日です "

点検整備実施時期になったときの表示例

" メンテナンス A（または B） 期限が切れます "

点検整備実施時期を過ぎたときの表示例

" メンテナンス A（または B）期限超過しました − XX km です "

" メンテナンス A（または B）期限超過しました − XX 日です "

ⓘ " メンテナンス A" または " メンテナンス B"、およびそれらに続く文字や数字は、次回のメーカー指定点検整備の範囲が、点検項目の少ない点検整備または総合的な点検整備のどちらに該当するかを示すものです。

ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲と法定点検の範囲は異なります。

ⓘ ブレーキパッドは次回のメーカー指定点検整備以前に摩耗の限界に達することがあります。ブレーキパッドの交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で相談の上、以下のように対処してください。

- 今回のメーカー指定点検整備で交換する
- 後日に別途交換する

ⓘ バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備の実施後に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では 15,000km、日数では 365 日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

! メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、Daimler AG が指定する用品のみを使用してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ **警告**

- 一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。
- 車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- 車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

! 車の手入れをするときは、以下のものを使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、かたい布など
- 研磨剤を含むクリーナー
- 有機溶剤
- 有機溶剤を含むクリーナー

また、強くこすったり、スクレーパーなどのかたい物が塗装面や保護フィルムなどに触れないようにしてください。塗装面や保護フィルムなどを損傷したり、こすり傷が付くおそれがあります。

環境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に 1 度は洗車してください。
- 飛び石などにより塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。
- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 車を清掃した後、特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、そのまま放置しないでください。ホイールクリーナーにより、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。そのため、洗車後は数分間走行してください。ブレーキ時の摩擦熱によりブレーキディスクやブレーキパッドが乾燥します。その後に車を駐車してください。

外装

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるため、早めに処理してください。
- 洗車をするときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

自動洗車機の使用

⚠ **警告**

自動洗車機で洗車したあとは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキディスクやブレーキパッドが乾くまでは、十分注意して走行してください。

⚠ **警告**

ホールド機能が作動しているときは車両にブレーキが効いています。自動洗車機で洗車するときは、ホールド機能を解除してください。

! 高圧洗浄を行なう自動洗車機は使用しないでください。車内に水が浸入するおそれがあります。

! 自走式の自動洗車機を使用するときは、セレクターレバーが N に入っていることを確認してください。車を損傷するおそれがあります。

車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。

! 以下の点に注意してください

- ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * が完全に閉じていることを確認してください。
- ワイパーを停止してください（▷115 ページ）。
- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。

自動洗車機で洗車した後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。フロントウインドウに残った残留物による汚れを防ぎ、ワイパーノイズを低減させます。

手洗いによる洗車

- 熱湯を使用しないでください。また、直射日光が当たっているときは洗車をしないでください。
- 柔らかいスポンジで洗車してください。
- 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を使用してください。
- ボディ全体に低圧で水をかけます。
- 外気取り入れ口付近には直接水をかけないでください。
- 十分な量の水を使用して、スポンジで洗い流します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- きれいな水で洗い流し、セーム皮などで水滴を拭き取ります。
- 塗装面に洗浄液がある状態で乾かないでください。

冬季に車両を使用したときは、すみやかに凍結防止剤を丁寧に取り除いてください。

高圧式スプレーガンの使用

⚠ 警 告

高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。

! 車両と高圧式スプレーガンのノズル間には、常に最低でも 30cm の間隔を確保してください。

高圧式スプレーガンのノズルは円を描くように動かしてください。

高圧式スプレーガンのノズルを直接、以下の物に向けないでください。

- タイヤ
- ドア接合面、ルーフ接合面、ジョイントなど
- 電気装備
- バッテリー
- コネクター
- ライト
- シール部
- トリム部品
- 吸気口

シール部や電気装備や塗装面が損傷することにより、車内への水の浸入や故障につながります。

ホイールの清掃

! ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキ構成部品を損傷するおそれがあります。

! 車を清掃した後、特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、そのまま放置しないでください。ホイールクリーナーにより、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。そのため、洗車後は数分間走行してください。ブレーキ時の摩擦熱によりブレーキディスクやブレーキパッドが乾燥します。その後に車を駐車してください。

塗装面の清掃

不適切な手入れによる傷や腐食、損傷は完全に修復することはできません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で補修することをお勧めします。

▶ 不純物は、強くこすることなく、ただちに取り除いてください。

▶ 虫の死がいはインセクトリムーバーで取り除き、周囲をよく洗い流してください。

▶ 鳥のふんは水で落とし、周囲をよく洗い流してください。

▶ 油脂類、樹液、オイル、燃料、グリースなどは、ベンジンまたはライター用オイルを染み込ませた布で軽くふいてください。

▶ タールはタールリムーバーで取り除いてください。

▶ ワックスはシリコンリムーバーで取り除いてください。

! 塗装面に以下のものを貼付しないでください。

- ステッカー
- フィルム
- マグネットなど

塗装面を損傷するおそれがあります。

マットペイント塗装車の取り扱い

マットペイント塗装車は、艶消しクリアコートで塗装されています。

非常にデリケートな塗装のため、日常の手入れなどで独特の質感を損なうおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

マットペイント塗装されたホイールについても、同様の手入れを行なってください。

! 塗装面を磨かないでください。

! 以下のことを行なうと、塗装面に光沢が出たり、マット塗装の質感を損なうおそれがあります。

- 不適切な物質での力強い研磨
- 洗車機の頻繁な使用
- 直射日光下での洗車

! 塗装面の手入れには、ワックスや研磨剤、光沢剤のようなペイント保護剤は使用しないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装面に汚れが付着したときは、すみやかに取り除いてください。

! 樹脂類や油脂類などを塗装面に付着したままにしないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ワックスなどの汚れが付着したときは、シリコン除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! タールなどの汚れが付着したときは、タール除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーは使用しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装の修復などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

ⓘ 洗車は、柔らかいスポンジとカーシャンプー、十分な水で、手洗いで行なうことをおすすめします。

ウインドウの清掃

⚠ **警 告**

フロントウインドウを清掃するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

ウインドウの外側と内側を水で湿らせた柔らかい布で清掃してください。

! ウインドウの内側を清掃するときは、乾いた布や研磨剤、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。また、かたい物でこすらないでください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

! フロントウインドウおよびリアウインドウの排水口にたまった枯葉やほこりなどを定期的に清掃してください。排水口が目詰まりを起こし、腐食の原因になります。

ワイパーブレードの清掃

⚠ 警告

ワイパーブレードを清掃するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードを引っ張らないでください。ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードの清掃は、頻繁には行なわないでください。また強くこすったりしないでください。表面のコーティングが損傷して異音などの原因になります。

▶ ワイパーアームを起こします。

▶ ワイパーブレードを、湿らせた柔らかい布で軽く拭きます。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

! ワイパーアームを元の位置に戻すときは、ワイパーアームを持ってゆっくりと戻してください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

ライト類の清掃

! ライト類の清掃には、樹脂製レンズに適したクリーナーと布を使用し、有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。

▶ 湿らせたスポンジとカーシャンプーを混ぜた洗浄液で、ライト類の樹脂製レンズを清掃します。または、清潔な柔らかい布でライト類の樹脂製レンズを清掃します。

ドアミラー方向指示灯の清掃

! ドアミラー方向指示灯の清掃には、樹脂製レンズに適したクリーナーと布を使用し、有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。

▶ 湿らせたスポンジとカーシャンプーを混ぜた洗浄液で、ドアミラー方向指示灯の樹脂製レンズを清掃します。または、清潔な柔らかい布でドアミラー方向指示灯の樹脂製レンズを清掃します。

センサー＊の清掃

パークトロニックセンサー①を清掃するときは、流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! パークトロニックセンサーを清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。

! パークトロニックセンサーには、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

パーキングアシストリアビューカメラの清掃

▶ きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。

! カメラのレンズやカメラ周辺を清掃するときは、以下のことに注意してください。カメラを損傷するおそれがあります。

- 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。
- 強い力で乾拭きしないでください。
- 有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着したときは、水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

＊オプションや仕様により、異なる装備です。

マフラーの清掃

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、マフラーの表面にサビが発生することがあります。

定期的にマフラーを手入れすることにより、マフラーの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

! ホイールクリーナーなど、アルカリ性のクリーナーでマフラーの手入れを行なわないでください。

マフラーの手入れについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車内

⚠ 警告

清掃するときは、プラスチック部品の端部や、シート下部などにあるリンケージやヒンジなどの金属部分が露出した箇所に注意してください。触れるとけがをするおそれがあります。

- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼付すると、携帯電話やラジオなどの電波に影響をあたえるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

COMAND ディスプレイの清掃

▶ ディスプレイの手入れを行なう前に、必ず COMAND システムをオフにして、ディスプレイの表面が熱くなっていないことを確認してください。

▶ 市販の不織布とディスプレイクリーナーを使用して、ディスプレイの表面を拭き取ります。

▶ 乾いた不織布でディスプレイを拭きます。

! ディスプレイが熱くなっているときは、冷えるまで待ってください。

! COMAND ディスプレイを清掃するときに以下のものを使用しないでください。ディスプレイを損傷するおそれがあります。

- アルコール分を含んだ溶剤や有機溶剤、燃料
- 研磨剤を含んだクリーナー
- 家庭用クリーナー

また、強い力で COMAND ディスプレイをこすらないでください。ディスプレイの表面を損傷するおそれがあります。

プラスチックトリムの清掃

⚠ **警告**

エアバッグの収納部分には、スプレー式の車内クリーナーや有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。有機溶剤を含むクリーナーなどで清掃すると、収納部分の表面が劣化し、エアバッグが作動したときにプラスチック部品が損傷して車内に飛散し、重大なけがをするおそれがあります。

! プラスチックトリムに、ステッカーやフィルム、芳香剤のボトルなどを貼付しないでください。プラスチックトリムを損傷するおそれがあります。

! プラスチックトリムに、化粧品や防虫剤、日焼け止めなどが付着しないようにしてください。表面の劣化の原因になります。

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

表面の色が一時的に変化しますが、乾くと元に戻ります。

ステアリングおよびセレクターレバーの清掃

▶ 水で湿らせた布で全体を拭くか、指定のレザーケア用品を使用してください。

ウッドトリムの清掃

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

! 有機溶剤を含むクリーナーや研磨剤、ワックスなどは使用しないでください。ウッドトリムを損傷するおそれがあります。

シート表皮の清掃

! 本革、人工皮革またはアルカンターラ ® の表皮の清掃には、不織布を使用しないでください。 頻繁に使用すると、表皮を損傷するおそれがあります。

! 清掃するときは、以下のことに注意してください。

- 本革の表皮は、湿らせた布で注意して清掃し、その後に乾いた布で表皮を拭き取ります。 革が濡れないように注意してください。 硬化やひび割れにつながります。承認されたレザーケア用品のみを使用してください。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。
- 人工皮革の表皮は、1% の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせた布で清掃します。

- 布の表皮は、1% の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせた不織布で清掃します。拭き残しがないように、注意深くこすり、シート全体をまんべんなく拭きます。 その後、シートを乾燥させます。 清掃の効果は、汚れの種類およびどの程度の期間汚れていたかによります。
- アルカンターラ ® の表皮は、湿らせた布で清掃します。拭き残しがないように、シート全体をまんべんなく拭きます。

ℹ 定期的な手入れを行なうことにより、表皮の見栄えと快適さを長期間維持することができます。

シートベルトの清掃

▶ ぬるま湯か薄めた石鹸水を使用して拭き取ります。

! 化学薬品を含むクリーナーを使用しないでください。また、直射日光に当てたり、80℃以上の温度で乾燥させないでください。

ルーフライニングおよびカーペットの清掃

▶ ルーフライニングは、柔らかいブラシを使用して清掃します。ひどい汚れには、指定のクリーナーを使用します。

▶ カーペットは、指定のクリーナーを使用して清掃します

車載品の収納場所

事故・故障のとき

⚠ 警告

燃料などが漏れている場合は、ただちにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに、以下の処置を行なってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

セレクターレバーを N に入れて、パーキングブレーキを解除し、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

セレクターレバーを N に入れられないときは、乗員を安全な場所に避難させ、続発事故を防いでください。

! 踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具も使用してください。

ℹ セレクターレバーを P から動かせないときは、パーキングロックを手動で解除できます。詳しくは（▷317 ページ）をご覧ください。

非常信号用具

懐中電灯をドアポケットに装備しています。

ⓘ 新品時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。

懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

停止表示板

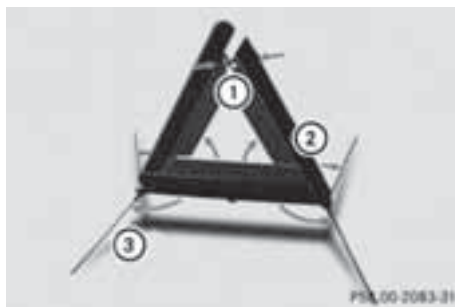
停止表示板はトランクリッドの裏側に収納されています。

停止表示板を取り外す

▶ トランクを開きます。

▶ ホルダー ① のノブを下方に押しながら、矢印の方向にホルダーを開きます。

▶ 停止表示板を取り外します。

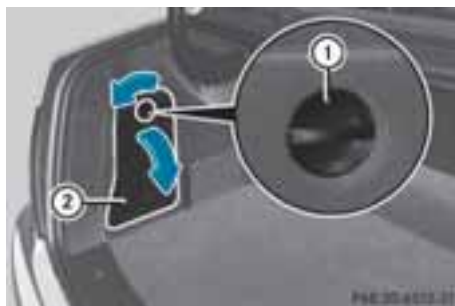
停止表示板の組み立て

▶ スタンド ③ を引き出して、停止表示板を地面に立てます。

▶ 反射板 ② を開いて、先端のフック ① をかみ合わせます。

※ 車種や仕様により、停止表示板の形状が異なります。

救急セット

車種や仕様により、救急セットはトランク内左側の小物入れ内、またはトランク内左側の収納ネットにあります。

トランク内左側の小物入れ内にある場合

▶ ノブ ① を矢印の方向にまわして、カバー ② を開きます。

▶ 救急セットを取り出します。

トランク内左側の収納ネット内にある場合

▶ 救急セット ① を取り出します。

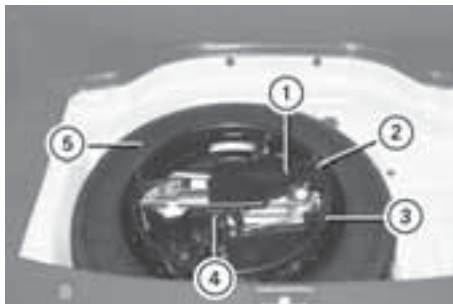
ℹ 救急セットの中身が揃っていて、使用期限が過ぎていないことを確認してください。

車載工具

車載工具はトランクフロアボードの下に収納されています。

❗ トランク内には金属が露出している部分や鋭利な部分があります。車載工具や応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用し、けがをしないように注意してください。

ℹ ジャッキを使用するときは、「パンクしたとき」（▷326 ページ）に記載されている安全に関する内容も必ずお読みください。

応急用スペアタイヤが車載されている車種

① カバー
② トレイ
③ ノブ（車載工具収納ケースを取り外す）
④ ノブ（カバーを開く）
⑤ 応急用スペアタイヤ

車載工具には以下のものが収納されています。

- ホイールレンチ
- ジャッキ
- けん引フック
- 輪止め
- ヒューズラベル（英文）
- 手袋

車載工具を取り出す

▶ トランクフロアボードを開きます（▷231 ページ）。

▶ ノブ ④ を押しながらカバー ① を開きます。

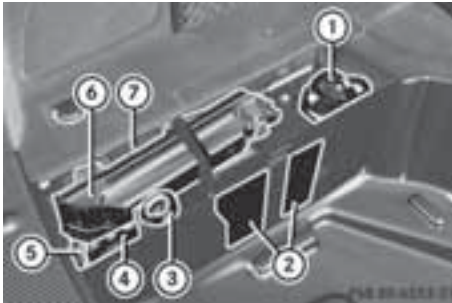
ℹ ノブ ③ を押して、車載工具収納ケースをトレイ ② から取り外すことができます。

応急用スペアタイヤを取り出す

▶ トレイ②を、反時計回りにまわして取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤ⑤を取り出します。

タイヤフィットが車載されている車種

▶ トランクフロアボードを開きます(▷231 ページ)。

①タイヤフィット
②電動エアポンプ
③けん引フック
④輪止め
⑤ホイールレンチ
⑥ジャッキ
⑦手袋

輪止め

ジャッキを使用するときなどには、輪止めを使用し、車が動き出さないようにしてください。

輪止めを組み立てる

▶ プレートを引き起こします①。

▶ 裏面のプレートを引き出します②。

▶ 裏面のプレートの突起部分を、ベースプレートの開口部に差し込みます③。

! 輪止めを使用するときは、図④の矢印の方向にタイヤがあたるようにします。方向に注意してください。

故障 / 警告メッセージ

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。

故障 / 警告メッセージが表示されたときは、以降の指示に従ってください。

⚠ **警告**

- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車両操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障や異常に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。
- 走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- 走行する前には必ずイグニッション位置を **2** にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。
- 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

  特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備や修理を行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

故障 / 警告メッセージを表示させる

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューから "メンテナンス" を選択します。

故障や異常がある場合は、ディスプレイに "2 メッセージ" のように故障や異常の件数が表示されます。

故障や異常がない場合は、"0 メッセージ" と表示されます。

▶ ▼ または ▲ を押して、"2 メッセージ" などの件数表示を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ または ▲ を押して、故障 / 警告メッセージを表示します。

故障や異常がない場合は、" 故障はありません " と表示されます。

故障 / 警告メッセージの表示を消す

重要度の高いメッセージは消すことができません。故障や異常の原因が解決するまで、故障 / 警告メッセージが繰り返し表示されます。

一部のメッセージは車両に記憶され、手動でメッセージを呼び出すことができます。

メッセージはマルチファンクションステアリングにより消すことができます。

▶ メッセージが表示されているときに、ステアリングの OK または ⮌ スイッチを押します。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

安全装備

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状／▶ 対応
 現在 使用できません 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、BAS（ブレーキアシスト）、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 メーターパネルの と 、 も点灯している。 自己診断機能が終了していない可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 現在 使用できません 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 メーターパネルの と 、 も点灯している。 電圧が低下している可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 作動できません 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 メーターパネルの ⓘ と 🚗、 OFF および ABS も点灯している。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 現在 使用できません 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 メーターパネルの 🚗 と OFF も点灯している。 自己診断機能が終了していない可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 作動できません 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 メーターパネルの 🚗 と OFF も点灯している。 アテンションアシストは解除される。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 作動できません 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、EBD（エレクトロニック･ブレーキパワー･ディストリビューション）、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 メーターパネルの と 、 も点灯し、警告音が鳴った。 アテンションアシストの機能は解除される。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 パーキングブレーキ 解除してください	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 警告音も鳴った。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
 すぐにブレーキを 踏んでください	ホールド機能の作動中に故障が発生した。 ホーンが断続的に鳴る。このときにリモコン操作で施錠操作を行なうと、ホーンの音量が上がる。イグニッション位置を **0** か **1** にしたときは、エンジンを始動することができない。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、ただちにブレーキペダルをいっぱいまで踏み、メッセージが消えるまで保持してください。 ▶ 車から離れるときは、パーキングブレーキを効かせて、車が動かないようにしてください。 エンジンが始動できるようになります。
 ブレーキ液レベル 点検して ください	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 メーターパネルの が点灯し、警告音も鳴った。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ 絶対にブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
 ブレーキパッド摩耗 点検して ください	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
プレセーフ 作動できません 取扱説明書を参照	⚠ **けがのおそれがあります** PRE-SAFE® の重要な機能に異常がある。 エアバッグなど他の乗員保護装置の機能は確保されている。 ▶ ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 SRS システム 故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護補助装置が故障している。 メーターパネルの [icon] も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 フロント左 SRS システム故障 工場で点検 または フロント右 SRS システム故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** フロント左側、またはフロント右側の乗員保護補助装置に異常がある。 メーターパネルの [icon] も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 リア左 SRS システム故障 工場で点検 または リア右 SRS システム故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** リア左側、またはリア右側の乗員保護補助装置に異常がある。 メーターパネルの [icon] も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
左ウインドウバッグ 故障 工場で点検 または 右ウインドウバッグ 故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** 左側、または右側のウインドウバッグに異常がある。 メーターパネルの [icon] も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ライト

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
左ロービーム[1]	左ヘッドライト（ロービーム）が切れている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
インテリジェントライト システム 作動できません	インテリジェントライトシステムが故障している。 インテリジェントライトシステムは作動しないが、ライトは通常通り点灯する。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
故障 取扱説明書を参照	車外ライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
オートライト 作動できません	ライトセンサーに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ライトを消してください	ライトスイッチが の位置にあり、イグニッション位置が **0** でエンジンスイッチにキーが差し込まれていないときに運転席ドアを開いた。警告音も鳴った。 ▶ ライトスイッチを AUTO の位置にしてください。
アダプティブ ハイビームアシスト 作動できません	アダプティブハイビームアシストに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
アダプティブ ハイビームアシスト 現在 使用できません 取扱説明書を参照	以下の理由により、アダプティブハイビームアシストが解除され、一時的に作動できない。 • フロントウインドウのカメラ付近が汚れている • 雨や雪、霧などのために、視界が低下している ▶ フロントウインドウを清掃してください。 以下のときは、マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示され、アダプティブハイビームアシストが再度作動できるようになります。 • 走行中にフロントウインドウの汚れが落ちたとき • カメラが再び完全に機能しているとシステムが判断したとき

1）他のライトが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ライトのいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。

ⓘ LED ライトについては、すべての LED が切れたときにメッセージが表示されます。

エンジン

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 冷却水を補充 してください 取扱説明書を参照	冷却水量が不足している。 ▶ 冷却水補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 冷却水 停車して エンジンを停止	冷却水の温度が高すぎる。 警告音も鳴った。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、ただちに停車して、エンジンを停止してください。 ▶ 泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ メッセージが消えるまで待ってからエンジンを始動してください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ エンジン冷却水温度計（▷24 ページ）で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	V ベルトが切れている可能性がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、ただちに停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトを点検してください。 **V ベルトが切れているとき：** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき：** ▶ メッセージが消えるまで待ってからエンジンを始動してください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ エンジン冷却水温度計（▷24 ページ）で冷却水温度を点検してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ラジエターの冷却ファンが故障している。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで運転することができます。 ▶ そのときは、山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負担は避けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	以下の理由により、バッテリーが充電されていない。 警告音も鳴った。 • オルタネーターの故障 • V ベルトの摩耗 • 電気システムの故障 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、ただちに停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトを点検してください。 **V ベルトが切れているとき：** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき：** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
給油の際 エンジンオイル量を 点検してください	エンジンオイル量が非常に不足している。 警告音も鳴った。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
給油してください	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	燃料タンクに燃料がほとんどない。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

走行装備

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
アテンションアシスト 休憩してください	アテンションアシストの基本機能として、システムが運転者の注意力に対する警告を促している。 警告音も鳴った。 ▶ 必要であれば、休憩を取ってください。 長距離運転時には、定期的に休憩を取り、身体を十分に休ませてください。
アテンションアシスト 作動できません	アテンションアシストが作動しない状態になっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
HOLD オフ	ホールド機能が解除されている。 車が横すべりしている。 警告音も鳴った。 ▶ 再度ホールド機能を作動させてください。
	ホールド機能の作動条件を満たしていないときにブレーキペダルを強く踏み込んだ。 警告音も鳴った。 ▶ ホールド機能の作動条件を確認してください。
パーキングアシスト 作動できません	パーキングガイダンス機能が故障している。 ▶ エンジンを再始動してください。 メッセージが消えないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
パーキングアシスト 中止	以下の理由により、パーキングガイダンス機能が解除された。 • 車両が横すべりしている • センサーが汚れている • システムが故障している 警告音も鳴った。 ▶ 時間をおいてから、再度パーキングガイダンス機能を作動させてください。 約 30km/h 以下で走行しても、マルチファンクションディスプレイに駐車スペースマークが表示されないとき： ▶ センサーを清掃してください。 ▶ エンジンを再始動してください。 約 30km/h 以下で走行しても、マルチファンクションディスプレイに駐車スペースマークが表示されないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	案内に従わなかったため、パーキングアシストが自動的に解除された。 ▶ マルチファンクションディスプレイの表示に従い、再度、駐車操作を行なってください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
パーキングアシスト 終了	駐車スペースに駐車された。警告音も鳴った。 マルチファンクションディスプレイの表示が自動的に消えます。
クルーズコントロールと可変スピードリミッター 故障	クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターが故障している。警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
クルーズコントロール －－－km/h	クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。例えば、約 30km/h 以下の速度でクルーズコントロールを作動させようとした。 ▶ 設定可能な状況であれば、約 30km/h 以上の速度で走行し、クルーズコントロールを設定してください。 ▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください（▷177 ページ）。

タイヤ

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
タイヤ空気圧 タイヤを点検 してください	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気の漏れを検知した。警告音も鳴った。 ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。そのときは、周囲の交通状況に注意してください。 ▶ タイヤを点検し、必要であれば該当するタイヤを交換してください。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気圧を適正にしてください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷264 ページ）。
空気圧点検後 タイヤ空気圧 警告システム 再始動	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれ、その後に再起動が行なわれていない。 ▶ すべてのタイヤの空気圧が適正であることを確認してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。
タイヤ空気圧 警告システム 作動できません	タイヤ空気圧警告システムに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

車両

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジン始動 P または N にシフト	セレクターレバーが D または R に入っているときにキーレスゴー操作でエンジンを始動しようとした。 ▶ セレクターレバーを P または N に入れてください。
P レンジにシフト してください	シフトポジションが P 以外のときに、キーレスゴースイッチでエンジンを停止するか、イグニッション位置を **0** か **1** にして、運転席ドアを開き、施錠しようとした。警告音も鳴った。 または シフトポジションが P 以外のときに、キーレスゴースイッチでエンジンを停止するか、イグニッション位置を **0** か **1** にして、運転席ドアを開いた。 ▶ セレクターレバーを P に入れてください。
	ホールド機能が作動しているときに以下のいずれかの操作をした。 • 運転席ドアを開いて、運転席の乗員がシートベルトを外した • イグニッション位置を **0** か **1** にした • ボンネットのロックを解除した 警告メッセージの表示に加えて、ホーンが断続的に鳴る場合がある。このときにリモコン操作で施錠操作を行なうと、ホーンの音量が上がる。 イグニッション位置を **0** か **1** にしたときは、エンジンを始動することができない。 ▶ セレクターレバーを P に入れてください。 エンジンが始動できるようになります。
	トランクが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ トランクを確実に閉じてください。
	⚠ **事故のおそれがあります** ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。 警告音も鳴った。 ▶ 周囲の道路と交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ボンネットを確実に閉じてください。 アクティブボンネットが作動したとき： ▶ 作動したアクティブボンネットをリセットしてください（▷318 ページ）。 ▶ ボンネットを確実に閉じてください。
アクティブボンネット 故障 取扱説明書を参照	故障のため、アクティブボンネットが作動しない状態になっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ドアが完全に閉じていない状態で走行している。 警告音も鳴った。 ▶ ドアを確実に閉じてください。
 左フロント バックレスト ロックしてください または 右フロント バックレスト ロックしてください	運転席シートまたは助手席シートのバックレストが完全にロックされていない。警告音も鳴った。 ▶ バックレストを後方に押して、確実にロックしてください。
左リア バックレスト ロックされていません または 右リア バックレスト ロックされていません	⚠ **けがのおそれがあります** 左右いずれかの、または両方のリアバックレストが完全にロックされていない。警告音も鳴った。 ▶ バックレストを後方に押して、確実にロックしてください。
パワーステアリング 故障 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** ステアリングのパワーアシストが低下している。 ステアリング操作に非常に大きな力が必要になる。警告音も鳴った。 ▶ 大きな力でステアリングが操作できるか確認してください。 **安全にステアリング操作ができるとき：** ▶ 注意しながら、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 **安全にステアリング操作ができないとき：** ▶ 走行しないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
 ウォッシャ液を 補充してください	リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください。

キー

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 キーが違います	 エンジンスイッチに別の車両のキーを差し込んでいる。 ▶ 正しいキーを使用してください。
 キーを交換 してください	キーが機能しなくなっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 キーの電池を 交換してください	キーの電池が消耗している。 ▶ 電池を交換してください。
 キーを認識できません （赤色のメッセージ）	エンジンがかかっているときにこのメッセージが表示されたときは、システムが車内にキーがないと判断している。警告音も鳴った。 エンジンを停止すると、車の施錠やエンジン始動ができなくなる。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ キーを探してください。
	走行していて、キーが車内にあるときにこのメッセージが表示されたときは、電磁波などの影響により、システムがキーを認識できない。警告音も鳴った。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ 必要であれば、エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
 キーを認識 できません （白色のメッセージ）	システムがキーを認識できない。 ▶ キーの位置を変えてください。 それでもキーがシステムに認識されないとき： ▶ 再度、キーの位置を変えてください。 ▶ 必要であれば、エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
 キーが 車内にあります	施錠時にシステムが車内にキーがあると判断している。 ▶ キーを車から遠ざけてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 スタートボタンを外しキーを入れてください	システムが一時的に故障しているか異常がある。 警告音も鳴った。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ドアを閉めてからロックしてください	施錠時にいずれかのドアが開いている。 警告音も鳴った。 ▶ すべてのドアを閉じてから、再度施錠操作を行なってください。

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

シートベルト

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ けがのおそれがあります 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
	⚠ けがのおそれがあります 助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、警告音も鳴る。	⚠ けがのおそれがあります 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
	⚠ けがのおそれがあります 助手席シートの上に荷物を置いた状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ 安全な場所に停車してから、助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。

安全装備

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
(!) エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 絶対にブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）に異常があるため機能が解除されている。そのため、BAS（ブレーキアシスト）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ABS のコントロールユニットに異常があるときは、ナビゲーションシステムやオートマチックトランスミッションなど、他のシステムにも異常がある可能性がある。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABS の機能が一時的に作動しない。BAS、ESP®、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも解除されている。 システムの自己診断が終了していないか、バッテリーの電圧が低下している可能性がある。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ メッセージが消えるまで、約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、短い距離を注意して走行してください。 メッセージが消えれば、上記の機能は作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** EBD に異常がある。そのため、ABS、BAS、ESP®、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯と黄色の ESP® 表示灯、ESP® オフ表示灯、黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABS と ESP® に異常がある。そのため、BAS、EBD、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも故障のため作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
走行中に黄色の ESP® 表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** 車が横滑りをするおそれがあるか、少なくとも 1 つの車輪が空転し始めているため、ESP® やトラクションコントロールなどが作動している。 クルーズコントロールの機能は解除されている。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセル操作をより慎重に行なってください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。
SPORT C 63 AMG： エンジンがかかっているときに黄色のスポーツハンドリングモード表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** スポーツハンドリングモードを設定している。スポーツハンドリングモードを設定したときは、車が横滑りしたときや車輪が空転したときに ESP® は制限された内容で作動するため、車両操縦性や走行安定性の確保は限られたものになる。 ▶ ESP® を待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ESP® を待機状態にできないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP® の点検を受けてください。
OFF エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプの機能が解除されている。 車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができない。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 アテンションアシストは解除される。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 ESP® の機能が一時的に作動しない。車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができない。 システムの自己診断が終了していない。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ メッセージが消えるまで、約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、短い距離を注意して走行してください。 メッセージが消えれば、上記の機能は作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 警告灯は消灯し、警告音も鳴り止みます。
エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置が故障している。 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下のものが故障している可能性がある。 • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム • 燃料システム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。エンジン冷却水温度計の指針が下限にある。	冷却水温度計のセンサーが故障している。 冷却水温度を確認することができない。冷却水の温度が高すぎる場合は、エンジンを損傷するおそれがある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、ただちに停車して、エンジンを停止してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。	冷却水量が不足している。 冷却水量が正常なときは、ラジエターへの送風が遮られているか、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水量の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されない。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、ただちに停車して、エンジンを停止してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えた後、点検時の注意事項を守りながら冷却水量を点検し、冷却水が不足している場合は補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が 120℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。
エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	冷却水温度が約 120℃を超えている。 ラジエターへの送風が遮られているか、リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している可能性がある。 エンジンが十分に冷却されないため、エンジンを損傷するおそれがある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、ただちに停車して、エンジンを停止してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えた後、点検時の注意事項を守りながら冷却水量を点検し、冷却水が不足している場合は補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が 120℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ そのときは、山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負担は避けてください。

非常時の解錠 / 施錠

エマージェンシーキー

リモコン操作やキーレスゴー操作 * で車両を解錠できないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアやトランクを解錠できます。

車を施錠した後にエマージェンシーキーで運転席ドアやトランクを解錠して開くと、盗難防止警報 * が作動します。

以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

- キーの解錠ボタン [解錠] または施錠ボタン [施錠] を押す
- エンジンスイッチにキーを差し込む

キーレスゴー装備車は、以下のいずれかの操作を行なっても、警報が停止します。

- キーが左右側またはトランク側のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷66 ページ）にあるときに、キーがある側のドアハンドルに触れるか、トランクのハンドルを引く
- キーが車室内のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷66 ページ）にあるときに、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠しても、他のドア、トランク、燃料給油フラップは解錠されません。

燃料給油フラップを解錠する

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

エマージェンシーキーを使用する

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② をキーから引き抜きます。

運転席ドアの解錠

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車両を解錠できないときは、以下の操作を行なってください。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します。

▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

左ハンドル車

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置 1 にまわします。

運転席ドアのロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

ℹ 左ハンドル車は反時計回りに、右ハンドル車は時計回りにまわします。

▶ エマージェンシーキーを元の位置にまわして、キーシリンダーから抜きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

車両の施錠

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車両を施錠できないときは、以下の操作を行なってください。

▶ 運転席ドアを開きます。

▶ 助手席ドアとトランクを閉じます。

▶ ドアロックスイッチ（施錠）を押します（▷74 ページ）。

▶ 助手席ドアのロックノブが下がっていることを確認します。

下がっていないときは、ロックノブを押し込みます。

▶ 運転席ドアを閉じます。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します（▷315 ページ）。

▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

左ハンドル車

▶ エマージェンシーキーを施錠の位置 1 にまわします。

運転席ドアのロックノブが下がり、運転席ドアが施錠されます。

ℹ 左ハンドル車は時計回りに、右ハンドル車は反時計回りにまわします。

▶ エマージェンシーキーを元の位置にまわして、キーシリンダーから抜きます。

▶ トランクが施錠されていることを確認します。

施錠されていないときは、トランクを独立施錠します（▷78 ページ）。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

ℹ 上記の操作で車両を施錠したときは、燃料給油フラップは施錠されません。また、盗難防止警報システム * は待機状態になりません。

トランクの解錠

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * でトランクを解錠できないときは、以下の操作を行なってください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。また、トランクの周りに障害物がなく、人や物に当たるおそれがないことを確認してください。

! エマージェンシーキーで解錠した後に、エマージェンシーキーをキーシリンダーから抜いてトランクを閉じると再び施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します（▷315 ページ）。

▶ エマージェンシーキーを、トランクのキーシリンダーにいっぱいまで差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを 1 の位置から反時計回りにまわして、2 の位置にします。

トランクが解錠して開きます。

▶ エマージェンシーキーを 1 の位置に戻して、キーシリンダーから抜きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

パーキングロックの手動解除

バッテリーがあがったときや電気装備に故障が発生したときは、セレクターレバーを P から動かすことができなくなることがあります。

このようなときは、手動でパーキングロックを解除してセレクターレバーを P から動かします。

! カバーを持ち上げるときは、鋭利な物を使用しないでください。カバーを損傷するおそれがあります。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ カバー ① の右端部に、ヘラなど先のとがっていない平らなものを差し込み、カバーを持ち上げます。

▶ ノブ ② を押しながら、セレクターレバーを P から動かします。

! この方法でセレクターレバーを動かせないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! セレクターレバーを動かすことができたときでも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

アクティブボンネットのリセット

アクティブボンネットが作動すると、作動装置 ③ の上にあるカバー ② が外れ、ボンネット ① の後端が約 50mm 上方に動きます。

! 上方に動いたボンネットを手で押し下げないでください。ボンネットを損傷するおそれがあります。

アクティブボンネットの作動後も走行を続けることができます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場でリセット作業を行なってください。

ただし、ボンネットロック解除レバーを引いたときは、走行を続ける前にボンネットのリセット作業が必要になります。

リセット作業

⚠ **警告**

ボンネットロック解除レバーを引いたときは、ボンネットのリセット作業を行なわないと、ボンネットの前端がロックされていないままの状態になります。走行中にボンネットが開いて視界が遮られ、事故を起こすおそれがあります。ボンネットロック解除レバーを引いたときは、必ず走行前にボンネットのリセット作業を行なってください。

⚠ **警告**

エンジンや周辺機器は非常に高温になっている可能性があるため、エンジンが停止している状態でも、ボンネットが開いていると火傷をするおそれがあります。

火傷を防ぐため、ボンネットのリセット作業を行なうときは、取扱説明書に記載されている箇所のみに触れるようにし、また関連する注意事項を守ってください。

アクティブボンネットをリセットする

▶ ボンネット ① を開きます。

▶ 左右のカバー ② が押し下げられて固定されるまで、ボンネット中央部 ⑤ を両手で持ち上げて開きます。

左右のカバー ② が押し下げられるときは、強い手応えが感じられます。

▶ ボンネット ① から手を放します。

▶ カバー ② が収納部 ③（矢印の位置）に完全にかぶさっていることを確認します。

▶ カバーが収納部に完全にかぶさっているときは、ボンネット ① を閉じます。

または

▶ カバーが収納部に完全にかぶさっていないときは、最初にボンネットの左側 ④ を持ち上げ、次にボンネットの右側 ⑥ を持ち上げます。いずれの側も、カバー ② が固定されるまで持ち上げます。

カバー ② が収納部 ③（矢印の位置）に完全にかぶさります。

▶ ボンネット ① を閉じます。

ボンネット ① が閉じないときやマルチファンクションディスプレイに が表示されるときは、再度リセット作業を行なってください。

⚠ **警告**

ボンネットが確実に閉じないときや、マルチファンクションディスプレイに が表示されるときは、走行を続けないでください。走行中にボンネットが開いて視界が遮られ、事故を起こすおそれがあります。リセット操作ができないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット

事故などのときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合、リセットをしないと次に衝撃を受けたときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部を保護できません。

NECK PRO アクティブヘッドレストの作動は、ヘッドレストが前方に動き、ヘッドレストの高さの調整ができなくなることで確認できます。

ℹ このリセット作業は強い力が必要になるため、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

▶ ヘッドレストの上部を矢印 ① の方向に前方に押します。

▶ ヘッドレストを矢印 ② の方向に停止するまで押し下げます。

▶ ヘッドレストを矢印 ③ の方向に押して、確実にロックさせます。

▶ もう一方の前席ヘッドレストでも同様の作業を行ないます。

! 安全のため、追突など後方からの衝撃を受けたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で NECK PRO アクティブヘッドレストの点検を受けてください。

キーの電池交換

キーの作動可能範囲が短くなったり作動しない場合は、キーの電池の消耗が考えられます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

電池の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

警 告

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。子供の手の届かないところに保管してください。

誤って電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

環 境

電池を家庭用ゴミとして廃棄しないでください。電池には非常に強い有毒物質が含まれています。

使用済みの電池は、新しい電池をお買い求めになった販売店に処分を依頼するか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

キーの電池を点検する

▶ キーの解錠ボタン [🔓] または施錠ボタン [🔒] を押します。

キーの表示灯 ① が 1 回点滅すれば電池は正常です。

ℹ 車両の近くでキーの電池の点検を行なうと、キーのキーの解錠ボタン [🔓] または施錠ボタン [🔒] を押したときに、車両も解錠または施錠されます。

電池の交換手順

リチウム電池（CR2025 3V）を用意します。

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② を抜き取ります。

▶ エマージェンシーキー ② を図の位置に差し込み、カバー ③ が浮き上がるまで、エマージェンシーキーを矢印の方向に押します。

ℹ 指でカバー ③ を押さえないようにしてください。カバーが浮き上がりません。

▶ カバー ③ を取り外します。

▶ 電池側が下になるようにキーを手の上に乗せて、電池 ④ が外れるまでキーを軽くたたきます。

▶ 電池のプラス（+）面が見えるようにして、新しい電池を取り付けます。このとき、脂分を含まないきれいな布で電池を持つようにしてください。

- ▶ 電池の表面に汚れや脂分が付着していないことを確認します。
- ▶ カバー ③ の凸部 ⑤ をキーに差し込んでから、カバーを押してロックします。
- ▶ エマージェンシーキー ② をキーに収納します。
- ▶ キーのすべての機能が作動することを確認します。

電球の交換

電球に関する注意

バイキセノンヘッドライト *

バイキセノンヘッドライトはお客様ご自身で交換することはできません。電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

⚠ 警 告

バイキセノンヘッドライトには高電圧が発生しています。バイキセノンヘッドライトのバルブソケットや配線に手を触れると感電して、重大なけがや致命的なけがをするおそれがあります。バイキセノンヘッドライトのカバーは決して取り外さないでください。

バイキセノンヘッドライトの交換は行なわないでください。交換は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

ライト類は車両の重要な安全装備のひとつです。すべてのライト類が正しく点灯することを確認してください。

電球が切れてライトが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。交換したライトが点灯しない場合や、すぐに切れた場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

その他のライト

⚠ **警 告**

- 電球は非常に熱くなります。電球の交換は電球が冷えた状態で行なってください。火傷をするおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。電球を損傷したり、子供がけがをするおそれがあります。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- ハロゲンライトには圧力のかかったガスが封入されているため、電球が熱くなっているときに電球に触れたり、電球を取り外さないでください。破裂するおそれがあります。
- ハロゲンライトを交換するときは、防護眼鏡や手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。

! 電球の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。やむを得ずお客様自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

! 電球には素手で触れないようにしてください。電球の表面に少しでも汚れや脂分が付着すると、ガラス表面で溶けて、電球の寿命が短くなります。電球に触れるときは、きれいな布や手袋などを使用するか、バルブの金属部を持つようにしてください。

! 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になります。

! 電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

! マルチファンクションディスプレイにライトに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷298 ページ）をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

バイキセノンヘッドライト以外にもお客様自身で交換できない電球があります。お客様ご自身で交換できない場合や、その他の電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

交換可能な電球について

お客様自身で交換できる電球は以下の通りです。交換する場合は、必ず指定された電球を使用してください。

ヘッドライト

バイキセノンヘッドライト非装備車

ライト		ワット数（規格）
①	車幅灯	5W
②	ヘッドライト上向き	55W（H7）
③	ヘッドライト下向き	55W（H7）

バイキセノンヘッドライト装備車

ライト		ワット数（規格）
①	コーナリングライト	55W（H7）

テールランプ

ライト		ワット数（規格）
①	バックランプ	21W
②	ブレーキランプ	21W
③	パーキング／ブレーキランプ	21W

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ワイパーブレードの交換

⚠ 警告

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作 * でイグニッション位置を 0 にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーブレードのゴム部分に触れないようにしてください。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームが取り付けられていない状態で、ワイパーアームを元の位置に戻さないでください。

! ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーアームを確実に持ってください。ワイパーブレードが取り付けられていない状態でワイパーアームから手を放すと、ワイパーアームがフロントウインドウに当たり、フロントウインドウを損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードの交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

ワイパーブレードを取り外す

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作 * でイグニッション位置を 0 にします。

▶ ワイパーアームをいっぱいまで起こします。

▶ ワイパーブレードを図の位置にまわします。

▶ ワイパーブレードを矢印の方向に動かし、ワイパーアームの固定部から取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレードを、取り付けたときとは反対の方向にワイパーアームの固定部に差し込みます。

ワイパーブレードが確実に差し込まれていることを確認してください。

▶ ワイパーブレードをワイパーアームと平行の位置にします。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パンクしたとき

⚠ **警 告**

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。

タイヤ交換およびタイヤ修理の準備

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ ステアリングを直進の位置にします。

▶ セレクターレバーを P に入れます。

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。キーレスゴースイッチ * でエンジンを停止したときは、運転席ドアを開きます。

▶ キーレスゴー装備車は、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します（▷80 ページ）。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろして、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ 周囲の状況に注意しながら車から降ります。

▶ 運転席ドアを閉じます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

ℹ 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

応急用スペアタイヤが車載されている場合

応急用スペアタイヤに交換したときは、標準タイヤとサイズが異なるため、必ず 80km/h 以下で走行してください。

⚠ **警 告**

応急用スペアタイヤと標準タイヤではタイヤのサイズと種類が異なるため、走行特性が大きく変化します。注意して走行してください。事故を起こすおそれがあります。

危険な状況を回避してください。

- 状況に合わせて慎重に運転してください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。
- 応急用スペアタイヤの使用は短い時間にとどめてください。
- ESP® の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤを交換するときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。交換するタイヤのサイズと種類が正しいことを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。

! 応急用スペアタイヤを取り出すときや、タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! 車速感応ドアロック(▷75 ページ)を設定した状態で車を押したり、車を持ち上げるときは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! タイヤ交換をするときは、エンジンを始動しないでください。

タイヤ交換の準備

▶ タイヤ交換に必要な準備を行ないます(▷326 ページ)。

▶ 輪止め、ジャッキ、応急用スペアタイヤ、ホイールレンチを準備します(▷290 ページ)。

水平な場所で輪止めをする場合

▶ 作業中に車が動き出すのを防ぐため、交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

傾斜地で輪止めをする場合

▶ やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、交換しない側の前輪と後輪の下り側に輪止めをします。

i 輪止めは 1 個車載されています。もう 1 個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

ジャッキアップする

⚠ 警 告

ジャッキが交換するタイヤに適した位置のジャッキサポートに正しく取り付けられていないと、ジャッキアップした車が落下して、けがをするおそれがあります。

ジャッキは、交換するタイヤに適した位置のジャッキサポートにのみ取り付けてください。ジャッキは側面から見て垂直になるように取り付け、ジャッキの底面がジャッキサポートの真下にくるようにしてください。

ジャッキアップするときは、以下の点に注意してください。

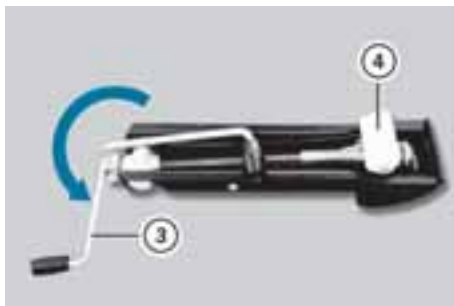
- ジャッキアップするときは、必ずメルセデス・ベンツによりテストされ承認された、車載のジャッキのみを使用してください。不適切なジャッキを使用すると、ジャッキアップしたときに車が落下するおそれがあります。
- 車載のジャッキは、この車のタイヤ交換で一時的にジャッキアップするためだけに設計されています。車の下に入って作業するには適していません。
- 上り坂や下り坂でのタイヤ交換は避けてください。
- ジャッキアップする前に、パーキングブレーキを効かせるとともに輪止めをして、車が動き出さないようにしてください。ジャッキアップしているときは、決してパーキンブレーキを解除しないでください。
- ジャッキは、かたくて滑りにくい、水平な場所で使用してください。不整地などでは、荷重を支えるものをジャッキの下に敷く必要があります。滑りやすい場所では、ラバーマットなどの滑り止めを使用してください。
- ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした際の高さが制限されるため、本来の耐荷重を支えることができません。
- タイヤと地面との間隔が 3cm 以上離れないようにしてください。
- ジャッキアップした車の下には決して手や足を入れないでください。
- ジャッキアップした車の下には決して横たわらないでください。
- ジャッキアップしているときは、決してエンジンを始動しないでください。
- ジャッキアップしているときは、決してドアやトランクまたはテールゲートを開閉しないでください。
- ジャッキアップしているときは、車の下に人がいないことを確認してください。
- ジャッキに不具合や損傷があるときは使用しないでください。
- ジャッキを使用する前にジャッキサポートを点検し、汚れが付着している場合は取り除いてください。
- ジャッキサポートに亀裂や損傷がある場合は、作業を行なわないでください。

▶ ホイールレンチ ① で、交換するタイヤのホイールボルト（5 本）を約 1 回転ほどゆるめます。

この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

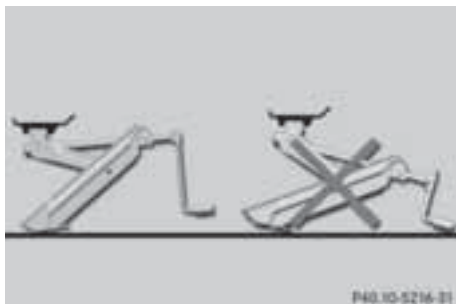
! ホイールレンチを使用するときに、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

ジャッキサポート ② は、前輪の後方、後輪の前方のボディ下部 4 カ所（矢印の位置）に設けられています。

※ ジャッキの色や形状が異なる場合があります。

▶ ジャッキハンドル ③ を矢印の方向に起こしてから、時計回りにまわします。

ジャッキアーム ④ が上がります。

▶ ジャッキアーム ④ の先端を、車体のジャッキサポート ② の位置に合わせます。

（左）正しい取り付けかた
（右）間違った取り付けかた

▶ ジャッキ ⑤ の底面が、交換するタイヤに近いジャッキサポートの真下にあることを確認します。

▶ ジャッキハンドル ③ を時計回りにまわし、ジャッキアーム ④ の先端をジャッキサポート ② に合わせます。このとき、ジャッキの底面を確実に地面に接地させます。

▶ タイヤが地面から最大約3 cm離れるまで、ジャッキハンドル ③ をまわします。

⚠ 警告

ジャッキアームの先端がジャッキサポートに合っていることを確認してください。ジャッキが外れると、けがをしたり、車を損傷するおそれがあります。

タイヤの取り外し

▶ ホイールボルトを外します。

▶ タイヤを取り外します。

! ホイールボルトを砂の上や汚れた場所に置かないでください。ホイールボルトを締めたときに、ホイールボルトのネジ山やホイールハブを損傷するおそれがあります。

! タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。

! ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

応急用スペアタイヤの取り付け

⚠ 警告

ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ホイールボルトがゆるむおそれがあります。

⚠ 警告

ホイールハブのネジ山が損傷しているときは、走行しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ 警告

ホイールボルトは、ホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。

ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

▶ 応急用スペアタイヤのホイールおよびハブの接合面を清掃します。

▶ ホイールハブのネジ穴とホイールの穴の位置が合うように応急用スペアタイヤを持ち上げます。

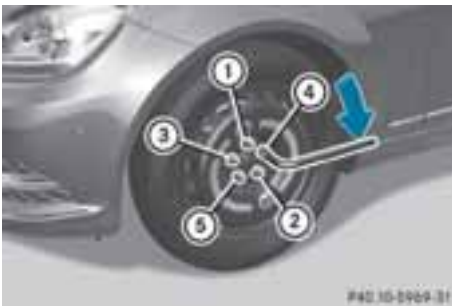
▶ 5 本のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

ジャッキダウンする

⚠ **警 告**

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。必ず規定の空気圧を守ってください。

▶ ジャッキハンドルを反時計回りにまわし、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。

▶ ジャッキを外します。

⚠ **警 告**

ホイールボルトの締め付けトルクが規定値で締め付けられていないと、ホイールが緩み、事故を起こすおそれがあります。

ホイールを交換した後は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

▶ 図の順番でホイールボルトを均一に締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクの規定値は 13 kg-m（130Nm）です。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください
- 足で踏んでまわさないでください
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください

また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、ホイールレンチや輪止めなどとともに元の位置に戻します。

▶ 外したタイヤをトランクルーム内に収納します。

ℹ 車種や仕様により、外したタイヤを応急用スペアタイヤの収納スペースに収納することができます。

ℹ 応急用スペアタイヤを装着して走行したときは、タイヤ空気圧警告システムは正常に作動しません。

タイヤフィットが車載されている場合

タイヤの傷が約 4mm 以下のときは、タイヤフィットでパンクしたタイヤを修理して、一時的に走行することができます。

タイヤフィットは外気温度が－ 20℃以上のときに使用できます。

⚠ 警 告

- タイヤフィットによるパンク修理は、応急的なものです。修理後は、空気圧が適正であっても、必ず標準タイヤに交換してください。
- 以下の状況のときはタイヤフィットでタイヤを修理することができません。他の方法で車両を移動させてください。
  - ◇ タイヤの傷が約 4mm 以上の場合や、凹み、亀裂、ひびなどがある場合
  - ◇ タイヤの接地面以外に傷がある場合
  - ◇ ホイールに損傷がある場合
  - ◇ タイヤの空気圧が非常に低かったり、空気が完全に抜けた状態のタイヤで走行した場合

  このようなときは、絶対に走行しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! タイヤを修理するときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤを修理するときは、エンジンを始動しないでください。

! 異常のない適正な空気圧のタイヤには、タイヤフィットを使用しないでください。タイヤの空気圧でタイヤフィットが漏れ出すおそれがあります。

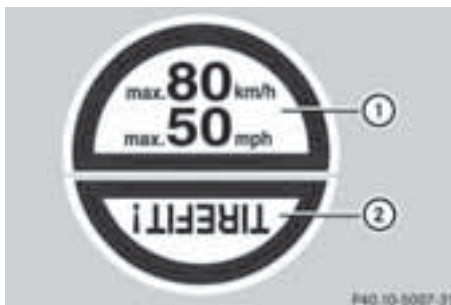
! タイヤフィットが塗装面に付着した場合は、ただちに湿らせた布で拭き取ってください。

! タイヤフィットで修理したタイヤは必ず交換してください。そのまま使用することはできません。

! タイヤフィットには使用期限があります。期限が過ぎたときは新品に交換してください。また、タイヤフィットの使用期限が過ぎている場合は使用しないでください。

タイヤフィットの準備

▶ タイヤに刺さった、パンクの原因と思われるクギまたはネジなどは取り除かないでください。

▶ トランクフロアボードの下からタイヤフィット、電動エアポンプを準備します。

▶ タイヤフィットに付属している最高速度表示のステッカー ① をはがし、運転者の見やすい場所に貼付します。

▶ 修理するタイヤのバルブ付近にタイヤフィット使用表示のステッカー ② を貼付します。

⚠ 警 告

タイヤフィットが身体や眼、衣服に付着したり、誤って飲み込まれないように注意してください。タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。タイヤフィットは子供の手が届かない場所に保管してください。けがをするおそれがあります。

万一、タイヤフィットが付着した場合は、以下のようにしてください。

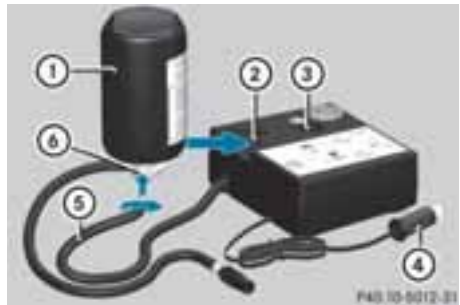
- 皮膚に付着した場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流してください。
- 眼に入った場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流してください。
- 子供がタイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水で口を十分すすぎ、水を大量に飲ませてください。タイヤフィットを吐かせないでください。ただちに医師の診断を受けてください。
- 衣服に付着した場合は、ただちに付着した衣服を着替えてください。
- アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の診断を受けてください。

ℹ タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。乾燥すればフィルム状になり、剥がすことができます。

もし、衣類にタイヤフィットが付着した場合は、すみやかに洗濯してください。

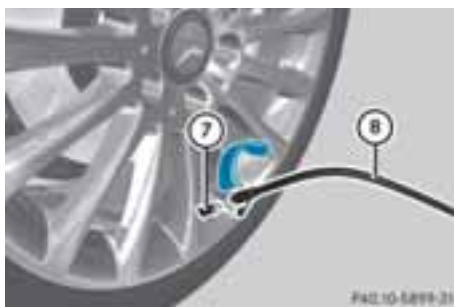
タイヤフィットと電動エアポンプには、2 つの種類があります。

- **タイプ 1**：電動エアポンプとタイヤフィットをエアホースで接続します。
- **タイプ 2**：タイヤフィットを電動エアポンプに取り付けます。電動エアポンプに内蔵されたエアホースが接続されます。

タイプ 1

▶ 電動エアポンプの背面から電源プラグ ④ とエアホース ⑤ を取り出します。

▶ エアホース ⑤ をタイヤフィット ① のバルブ ⑥ に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット ① のバルブ ⑥ を下にして持ち、電動エアポンプの凹部 ② に差し込みます。

▶ パンクしたタイヤのバルブ ⑦ からバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース ⑧ を、パンクしたタイヤのバルブ ⑦ に確実に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 電源プラグ ④ をライターソケット（▷236 ページ）または 12V 電源ソケット（▷237 ページ）に差し込みます。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

ℹ 最初にパンクしたタイヤにタイヤフィットが送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 500kPa（5bar ／ 73psi）まで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ ③ を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 180kPa（1.8bar ／ 26psi）に達していることを確認してください。

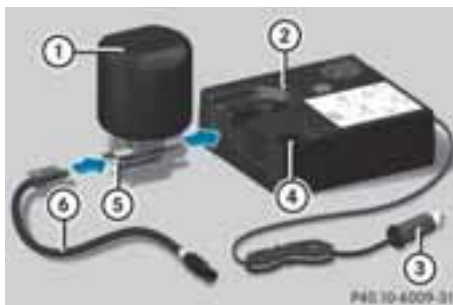
! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

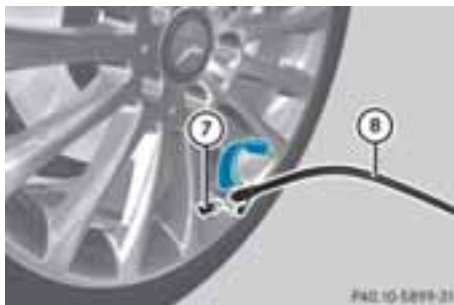
約 5 分後に空気圧が 180kPa（1.8bar ／ 26psi）に達しているときは、（▷336 ページ）をご覧ください。

約 5 分後に空気圧が 180kPa（1.8bar ／ 26psi）に達していないときは、（▷336 ページ）をご覧ください。

タイプ 2

▶ 電動エアポンプの背面からエアホース ⑥ と電源プラグ③を取り出します。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

▶ エアホース ⑥ の黄色のコネクターをタイヤフィット ① の黄色のキャップ ⑤ の接続部に差し込み、プラグを固定します。

▶ シーリングリングが前方を向くようにして、タイヤフィット ① の黄色のキャップ ⑤ を電動エアポンプ ② の接続部に差し込み、確実に固定します。

▶ パンクしたタイヤのバルブ ⑦ からバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース ⑧ を、パンクしたタイヤのバルブ ⑦ に確実に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ④ が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 電源プラグ ③ をライターソケット（▷236 ページ）または 12V 電源ソケット（▷237 ページ）に差し込みます。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ④ を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

ℹ 最初にパンクしたタイヤにタイヤフィットが送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 500kPa（5bar / 73psi）まで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ ④ を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 180kPa（1.8bar / 26psi）に達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

約 5 分後に空気圧が 180kPa（1.8bar / 26psi）に達しているときは、（▷336 ページ）をご覧ください。

約 5 分後に空気圧が 180kPa（1.8bar / 26psi）に達していないときは、（▷336 ページ）をご覧ください。

空気圧が 180kPa（1.8bar / 26psi）に達しない場合

▶ 電動エアポンプの電源スイッチを **0**（停止の位置）にします。

▶ タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外します。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

約 5 分後には、空気圧は少なくとも 180kPa（1.8bar / 26psi）に達していなければなりません。

⚠ **警告**

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 180kPa（1.8bar / 26psi）に達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 180kPa（1.8bar / 26psi）に達している場合

▶ 電動エアポンプの電源スイッチを **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ ライターソケットまたは 12V 電源ソケットから電源プラグを抜きます。

▶ タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外します。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

! タイヤフィットを使用した後は、タイヤフィットのホースからタイヤフィットが漏れることがあります。タイヤフィットはシミやサビの原因になりますので、タイヤフィットが収納されていた袋にタイヤフィットを入れてください。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

⚠ 警告

タイヤフィットでタイヤを修理した後は、車両操縦性に変化が現れることがあります。高速での走行には適していません。事故を起こすおそれがあります。慎重な運転を心がけてください。

タイヤフィットでタイヤを修理した場合の最高速度を超えないようにしてください。

タイヤフィットでタイヤを修理した場合の最高速度は 80km/h です。必ずタイヤフィットに付属の最高速度のステッカーを運転者の見やすい場所に貼付してください。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホースを修理したタイヤのバルブに取り付けて、電動エアポンプの空気圧ゲージでタイヤ空気圧を点検します。

この時点で、空気圧は少なくとも 130kPa（1.3bar / 20psi）に達していなければなりません。

⚠ 警告

空気圧が 130kPa（1.3bar / 20psi）以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 130kPa（1.3bar / 20psi）以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

空気圧を上げる

▶ 電動エアポンプを作動させます。

空気圧を下げる

▶ 空気圧ゲージ②の横にある空気圧調整ボタン①を押して調整します。

タイプ 2 の例

▶ タイプ 1 は、電動エアポンプの取り付け部からタイヤフィットを引き出し、電動エアポンプのエアホースを緩めてタイヤフィットから取り外します。

▶ タイプ 2 は、黄色いキャップのロックノブをつまみながら、電動エアポンプからタイヤフィットを引き出します。タイヤフィットにはエアポンプが接続されたままになっています。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

環 境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分充電されていることが必要です。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。

バッテリーの爆発を防ぐため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。

車を長期間使用しないときの保管方法などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

爆発の危険があります。

バッテリーを取り扱っているときは、火気や裸火、火花などを近付けたり、近くで喫煙しないでください。

バッテリー液は腐食性があります。皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。

手袋やエプロン、マスクを着用してください。

バッテリー液が付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

バッテリーを取り扱うときは保護眼鏡を着用してください。

子供を近付けないでください。

取扱説明書の指示に従ってください。

⚠ 警 告

安全のため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。指定されたバッテリーは衝撃保護性能に優れており、事故などでバッテリーが損傷した際に乗員がバッテリー液により火傷をする危険性を低減します。

爆発や火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の事項を守ってください。

- バッテリーをのぞき込まないでください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。バッテリーがショートして可燃性のガスに発火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- 静電気を防ぐため、合成繊維の衣服を着用しないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。
- 布などでバッテリーを拭かないでください。静電気や火花が発生して、バッテリーが爆発するおそれがあります。

環 境

バッテリーは家庭用ごみとして廃棄しないでください。バッテリーは環境に配慮した適切な方法で処理してください。

環境保護のため、使用済みのバッテリーを廃棄するときは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

! 安全のため、バッテリー端子をゆるめたり外すときは、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。電気系部品やオルタネーターを損傷するおそれがあります。

ℹ 必要でなければ、駐車時はエンジンスイッチからキーを取り外してください。エンジンスイッチにキーが差し込まれているときはわずかに電力が消費され、バッテリーを消耗します。

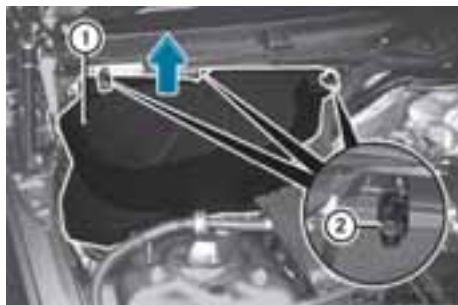
ℹ バッテリー端子の取り外し、バッテリーの取り外し、充電、交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業することをお勧めします。

ℹ バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下のような作業が必要になることがあります。

- COMAND システムの再設定
- 施錠時のドアミラー格納機能のリセット

バッテリーの位置

C 180 / C 250

バッテリーはエンジンルーム内助手席側のエアダクト下部に装備されています。

左ハンドル車

▶ マイナスドライバーなどの適切な工具を使用して、エアダクトの 3 カ所のクリップ ② を外します。

▶ エアダクト ① を取り外します。

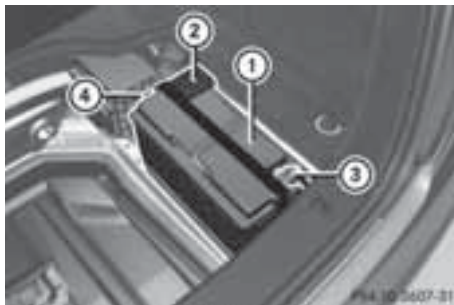
! クリップを外すときは、手にけがをしないように注意してください。

左ハンドル車のバッテリー
① バッテリー
② [+] 端子のカバー
③ [–] 端子
④ ブリーザーホース

C 63 AMG

バッテリーはトランク内にあります。

▶ トランクを開きます (▷77 ページ)。

▶ トランクフロアボードを開きます (▷231 ページ)。

C 63 AMG のバッテリー
① バッテリー
② [+] 端子のカバー
③ [–] 端子
④ ブリーザーホース

インジケーター付きバッテリー

ケースが黒色で、上面にインジケーター ① があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター①は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

VRLA バッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面にVRLA-BATTERY のラベルがある場合は、バッテリー液量の点検や補充はできません。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

点検についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

バッテリーがあがったとき

⚠ 警 告

- 作業を始める前に必ず以降に記載する説明を読んでください。説明を守らないと、電気装備を損傷したり、バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。万一爆発したときに、けがをするおそれがあります。

⚠ 警 告

他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動しているときは、ガスが発生し、爆発の原因になります。火気や裸火、火花を近付けたり、近くで喫煙しないでください。バッテリーを取り扱うときは、安全に注意し、保護対策を取ってください。

⚠ 警 告

未燃焼の燃料が排気システムに入ると、発火して火災が発生するおそれがあります。エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

⚠ 警 告

たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させたりしないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

エンジン始動を 2 ～ 3 回試みても始動できないときはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを始動できたときも、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。

! 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。

急速充電器によりエンジン始動を行なわないでください。バッテリーの電圧が低下してエンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して、他車のバッテリーまたは補助バッテリーの電源により始動することができます。以下の指示に従ってください。

- すべての車でバッテリーにブースターケーブルを接続できるとは限りません。バッテリーにブースターケーブルを接続できないときは、補助バッテリーやエンジン始動用装置の電源を使用して、エンジンを始動してください。
- エンジン始動は、エンジンと触媒が冷えているときに行なってください。
- バッテリーが凍結しているときは、エンジン始動を行なわないでください。バッテリー液を解凍してから行なってください。
- 救援車のバッテリーが、12V バッテリーであることを確認してください。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。
- バッテリーが完全に放電しているときは、ケーブルを接続してすぐに始動操作を行なうのではなく、数分間経過してから行なってください。完全に放電したバッテリーに充電が行なわれます。
- 自車と救援車が接触していないことを確認してください。

以下を確認してください。

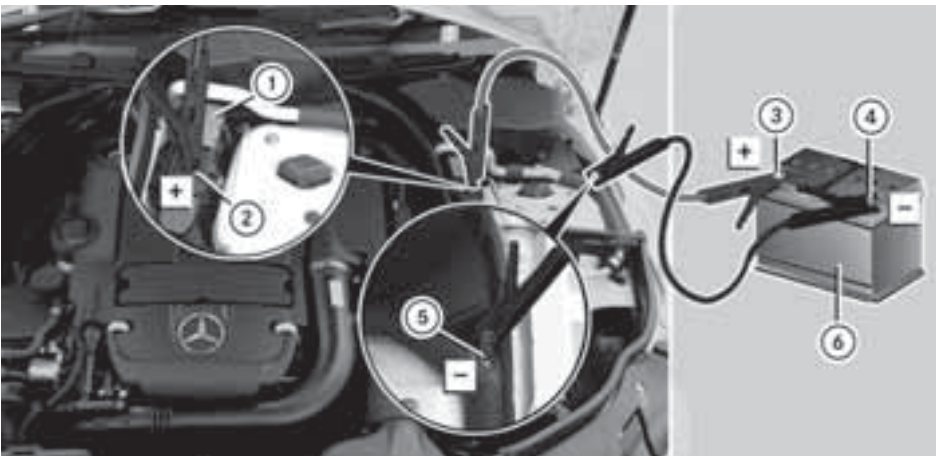
- ブースターケーブルが損傷していないこと
- ブースターケーブルをバッテリーに接続しているときは、[-] 端子や [-] 端子が他の金属部分に触れていないこと
- ブースターケーブルがラジエター冷却ファンや回転ベルトに巻き込まれていないこと。

  エンジンを始動してエンジンがかかると、それらが動くことがあります。

▶ パーキングブレーキを効かせます。

▶ セレクターレバーを P に入れます。

▶ 両車の電気装備をすべて停止します。

▶ ボンネットを開きます。

右ハンドル車

イラストのバッテリー⑥は、充電された救援車のバッテリーまたはエンジン始動用装置を示しています。

▶ 自車の [+] 端子のカバー①を開きます。

▶ 赤色ブースターケーブルで、自車の [+] 端子②と救援車のバッテリー⑥の [+] 端子③を接続します。

先に自車の [+] 端子②から接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

▶ 黒色ブースターケーブルで救援車の [-] 端子④と、自車の [-] 端子⑤を接続します。

先に救援車のバッテリー⑥の [-] 端子④から接続します。

▶ 自車のエンジンを始動します。

▶ ブースターケーブルの接続を外すまで、数分間エンジンをかけたままにします。

▶ 黒色ブースターケーブルを両車の [-] 端子から外します。先に自車の [-] 端子⑤から外します。

▶ 赤色ブースターケーブルを両車の [+] 端子から外します。先に自車の [+] 端子②から外します。

▶ ブースターケーブルを外してから、自車の [+] 端子のカバー①を閉じます。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

ℹ 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動は緊急の対応です。

ℹ 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動について、不明な点があるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

けん引

けん引時の注意

⚠ **警告**

- エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。必要であれば、ブレーキペダルを力いっぱい踏んでください。
- けん引されるときは、ステアリングをまわすことができ、ロックされていないことを確認してください。

⚠ **警告**

ホールド機能が作動しているときは、車にブレーキがかけられています。けん引で車を動かすときは、ホールド機能を解除してください。

けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。

! 一般道では30km/h以下の速度で、距離は50km以内に限り、けん引走行することができます。距離が50kmを超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! けん引ロープをけん引フック以外の場所にかけないでください。

! ぬかるみからの脱出などの目的に、けん引フックを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

! けん引されるときは、ゆっくり発進し、車両に過大な力をかけないでください。車を損傷するおそれがあります。

! キーレスゴー装備車は、キーレスゴースイッチ * を取り外してエンジンスイッチにキーを差し込んでください。イグニッション位置を **2** にしてからセレクターレバーを **N** に入れてください。

そして、イグニッション位置を **0** にして、キーは抜かないでください。

けん引されるときは、必ずセレクターレバーを **N** に入れてください。

以下の理由により、けん引される前にバッテリーが接続されていて、電圧が低下していないことを確認してください。

- イグニッション位置を **2** にすることができません
- セレクターレバーを **N** に入れることができません

セレクターレバーを **P** から動かすことができないときは、手動でパーキングロックを解除してください(▷317ページ)。

! エンジンを始動できないときは、他車のバッテリーを電源とした始動を試みてください。やむを得ず、他車にけん引してもらうときは以降に記載する説明に従い、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に移送してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

- ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
- ロープの長さは 5m 以内とし、ロープの中央に白布（30cm × 30cm 以上）を付けて 2 台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
- ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中、ロープをたるませないように前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。
- ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

i けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください（▷75、168 ページ）。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。また、けん引防止警報 * も解除してください（▷60 ページ）。

けん引フックの取り付け

けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具（▷290 ページ）からけん引フックを取り出します。

⚠ 警 告

リアのカバーを取り外すときは、マフラーに注意してください。マフラーは高温になるため、マフラーに触れると火傷をするおそれがあります。

けん引フックの取り付け部はフロントとリアのバンパーにあります。けん引フックを取り付けるときはカバーを外します。

▶ カバー ① のマーク部を矢印の方向に押します。

▶ カバー ① を外します。

※ 車種や仕様により、カバー ① の形状は異なります。

▶ 内部のネジ穴に、けん引フックを時計回りにまわしてねじ込み、止まるまで手で締め込みます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

けん引フックを取り外す

▶ けん引フックを取り外します。

▶ カバー ① をバンパーに押し込んで取り付けます。

▶ けん引フックを車載工具に収納します。

後輪を上げてけん引する

後輪を上げてけん引するときは、(▷344 ページ）の注意事項を守ってください。

! 後輪を上げてけん引するときは、必ずイグニッション位置を **0** にしてください。ESP® が作動して接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

▶ 非常点滅灯を点滅させます（▷106 ページ）。

▶ イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 車から離れるときは、キーを携帯します。

前後輪を接地させてけん引する

前後輪を接地させてけん引するときは、(▷344 ページ）の注意事項を守ってください。

⚠ 警告

エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。注意して操作を行なってください。

▶ 非常点滅灯を点滅させます（▷106 ページ）。

ⓘ 非常点滅灯を点滅させてけん引されているときでも、コンビネーションスイッチを操作して方向指示灯を点滅させることができます。このときは、方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 停止しているときは、ブレーキペダルを踏んだままにします。

▶ セレクターレバーを **N** に入れます。

▶ ブレーキペダルから足を放します。

▶ パーキングブレーキを解除します。

車両を運搬する

けん引フックは、車両運搬車に車を積載するときにも使用できます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーを **N** に入れます。

車を積載したらすみやかに以下のことを行ないます。

▶ パーキングブレーキを効かせて、車が動かないようにします。

▶ セレクターレバーを **P** に入れます。

▶ イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 車を固定します。

! 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

押しがけ（非常時のエンジン始動操作）

! 押しがけによるエンジンの始動操作は行なわないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

ヒューズ

ヒューズ交換についての注意

⚠ **警 告**

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズを使用しないでください。電気回路に負荷がかかり、火災の原因になります。

ヒューズ切れの原因の点検や修理はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

電気装備に異常が発生するとヒューズが切れて電気装備への接続が切断されます。これにより電気装備は作動しなくなります。

ヒューズを交換するときは、必ず同じ電流値（色）のヒューズと交換してください。ヒューズの電流値は「ヒューズ一覧」（▷349 ページ）に記載されています。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ヒューズを交換してもすぐに切れるときや、ヒューズには異常がなく電気装備が作動しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を調べ、修理してください。

! 必ず車両に適合した、正しい電流値のヒューズだけを使用してください。構成部品やシステムを損傷するおそれがあります。

ヒューズを交換する

▶ 停車して、パーキングブレーキを効かせます。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ヒューズ一覧を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ 該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検し、ヒューズが切れている（溶断）ときは、同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

ヒューズの位置

ヒューズボックスは以下の場所にあります。

- エンジンルーム内運転席側
- トランクルーム内右側

エンジンルーム内のヒューズボックス

ヒューズボックスのカバーを外す

▶ ワイパーが停止位置になっていることを確認します。

⚠ **警 告**

エンジンルーム内のヒューズボックスを点検するときは、必ずワイパーを停止し、イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。ワイパーが作動するとけがをするおそれがあります。

▶ ボンネットを開きます。

左ハンドル車

▶ カバーに水分や汚れが付着しているときは、布などで拭き取ります。

▶ 左ハンドル車は、ホース ② をカバーのフックから取り外します。

▶ 2 カ所のクリップ ① を外します。

▶ 前方に向けてカバーを取り外します。

※ 右ハンドル車のヒューズボックスは、エンジンルームに向かって左側にあります。

! ヒューズボックスのカバーを取り外したときに、ヒューズボックスの内部に水などが入らないようにしてください。

ヒューズボックスのカバーを取り付ける

▶ ヒューズボックスカバーのシール部が正しい位置にあることを確認します。

▶ 後部から先に、カバーをヒューズボックスに取り付けます。

▶ クリップ ① でカバーを固定します。

▶ 左ハンドル車は、ホース ② をカバーのフックに取り付けます。

! ヒューズボックスの内部に水などが入らないように、カバーを確実に取り付けてください。

▶ ボンネットを閉じます。

トランクルーム内のヒューズボックス

ヒューズボックスのカバーを開く

▶ トランクを開きます。

▶ カバー ① の上部を持ち、下方に取り外します。

ヒューズ一覧

エンジンルーム内のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
1	25A	ABS / ASR / BAS / ESP®
2	30A	セントラルロック、乗降用ライト、ドア赤色灯、ドアミラー、パワーウインドウ、前席シート調整、スイッチ照明、方向指示灯
3	30A	セントラルロック、乗降用ライト、ドア赤色灯、スイッチ照明
4	20A	フィルターヒーティング、フロントライト
5	7.5A	ライトスイッチ
6	10A	ABS / ASR / BAS / ESP®、エンジンエレクトロニクス、燃料ポンプ、スターター
7	20A	スターター
8	7.5A	エアバッグ
9	15A	ライター
10	30A	ワイパー
11	7.5A	COMAND ディスプレイ
12	7.5A	エアコンディショナー、ダイナミックハンドリングパッケージ、シートヒーター、スイッチ照明、パークトロニック、パーキングガイダンス機能
13	7.5A	ABS / ASR / BAS / ESP®、ホーン、ヘッドライト、マルチファンクションステアリング、方向指示灯、ウインドウウォッシャー、ワイパー、ステアリング調整、スイッチ照明
14	7.5A	ABS / ASR / BAS / ESP®
15	7.5A	エアバッグ
16	5A	ABS / ASR / BAS / ESP®、オートマチックトランスミッション、電話、スイッチ照明、ECO スタート / ストップ
17	30A	自動防眩機能、ルームランプ、バニティミラー照明、レインセンサー、ライトセンサー、読書灯、スイッチ照明、パノラミックスライディングルーフ
18	7.5A	非常点滅灯、スイッチ照明
19	20A	エンジンエレクトロニクス、燃料ポンプ、イグニッションロック、スターター、ステアリングロック
20	40A	ABS / ASR / BAS / ESP®
21	7.5A	ABS / ASR / BAS / ESP®、エアバッグ、ブレーキランプ、グローブボックスランプ
22	15A	エンジンエレクトロニクス
23	20A	エンジンエレクトロニクス、燃料ポンプ
24	15A	エンジンエレクトロニクス
25	15A	エンジンエレクトロニクス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
26	20A	COMAND システム、ラジオ、スイッチ照明
27	7.5A	エンジンエレクトロニクス、燃料ポンプ、イグニッションロック、スターター、ステアリングロック
28	7.5A	メーターパネル
29	10A	ヘッドライト照射角度調整
30	10A	ヘッドライト照射角度調整
31	15A	ホーン
32	40A	エンジンエレクトロニクス
33	10A	オートマチックトランスミッション
34	7.5A	燃料ポンプ
35	5A	ABS / ASR / BAS / ESP®
36	7.5A	オプション

トランクルーム内のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
37	5A	エアバッグ、NECK PRO アクティブヘッドレスト
38	–	未使用
39	30A	セントラルロック、乗降用ライト、ドア赤色灯、スイッチ照明
40	–	未使用
41	30A	ドアミラー、セントラルロック、乗降用ライト、ドア赤色灯、パワーウインドウ、スイッチ照明、前席シート調整、方向指示灯
42	25A	燃料ポンプ
43	5A	エアコンディショナー
44	30A	前席シート調整
45	30A	前席シート調整
46	7.5A	アンテナモジュール、盗難防止システム、室内センサー、けん引防止機能

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
47	–	未使用
48	–	未使用
49	40A	リアデフォッガー
50	50A	PRE-SAFE®
51	50A	PRE-SAFE®
52	–	未使用
53	–	未使用
54	–	未使用
55	–	未使用
56	–	未使用
57	–	未使用
58	–	未使用
59	–	未使用
60	–	未使用
61	–	未使用
62	30A	ランバーサポート、前席シート調整、ステアリング調整
63	–	未使用
64	–	未使用
65	15A	ダイナミックハンドリングパッケージ
66	–	未使用
67	30A	サウンドシステム
68	–	未使用
69	–	未使用
70	–	未使用
71	15A	ライター
72	–	未使用
73	7.5A	診断ソケット
74	15A	キーレスゴー
75	–	未使用
76	15A	12V 電源ソケット（後席）
77	–	未使用
78	7.5A	シートベンチレーター
79	5A	パークトロニック、パーキングガイダンス機能

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
80	–	未使用
81	5A	ラジオ、電話
82	–	未使用
83	7.5A	電話、パーキングアシストリアビューカメラ
84	7.5A	パーキングアシストリアビューカメラ、ラジオ
85	7.5A	テレビ
86	–	未使用
87	–	未使用
88	–	未使用
89	–	未使用
90	–	未使用
91	20A	フィルターヒーティング、ECO スタート / ストップ

(2011-04-20・A204 584 69 82)

ⓘ ヒューズ配置表（英文）は、車載工具にも収納されています。ヒューズ配置表にはヒューズ容量も記載されています。

ⓘ 記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

純正部品 / 純正アクセサリー

Daimler AG では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

純正部品は厳格な基準により品質管理されています。点検や整備、修理のときは、必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

警 告

承認されていない部品、タイヤやホイール、または安全に関するアクセサリーを使用すると、走行安全性が損なわれるおそれがあります。

これらはブレーキシステムなどの安全性に関連したシステムの故障につながる可能性があります。さらに車両操縦性を失う原因になり、事故の原因になります。

どのような場合でも、純正部品のみを使用してください。また、タイヤやホイール、アクセサリーはお客様の車両のために承認されたもののみを使用してください

環 境

Daimler AG では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

! 以下の場所の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナーの本体、乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。

- ドア
- ドアピラー付近
- サイドシル付近
- シート
- ダッシュボード
- インストルメントパネル
- センターコンソール

これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、乗員保護装置の作動に悪影響を与えるおそれがあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i 純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

車両の電子制御部品について

⚠ **警告**

電子制御部品やその構成部品にかかわる作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

特に、安全装備や安全に関わるシステムについての作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両の安全性に影響を与えるおそれがあります。

! 電子制御部品およびそれに関わるコントロールユニットやセンサー、配線類などのメンテナンス作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、保証を適用できないことがあります。

! 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。

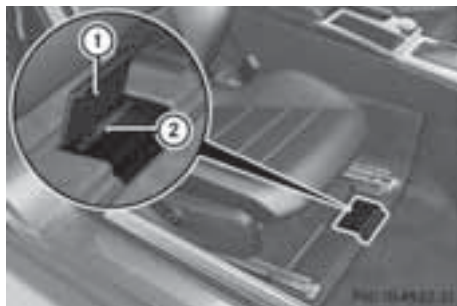
! 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えるおそれがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号やエンジン番号などが必要になることがあります。車台番号やエンジン番号などは図の箇所に記されています。

ニューカープレート

運転席側または助手席側のドア開口部車体側に、車台番号およびカラーコードなどを記載したニューカープレート①が貼付されています。

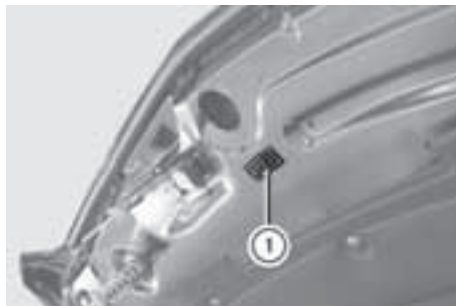
車台番号

右側前席下部のフレームに車台番号②が打刻されています。

車台番号を確認する

▶ 右側前席をもっとも後方の位置にします。

▶ カーペット ① を上方に開きます。

車台番号 ② が確認できます。

オプションコードプレート

ボンネット裏側にオプションコードを記載したオプションコードプレート ① が貼付されています。

エンジン番号

エンジンブロックのクランクケースにエンジン番号が打刻されています。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オイル・液類 / バッテリー

オイル・液類に関する注意

⚠ 警 告

オイル・液類を保管するときは、関連する法律に従ってください。また、火気の近くには保管しないでください。

オイル・液類は子供の手の届かない場所に保管してください。

オイル・液類が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

環 境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

オイル・液類には以下のものが含まれます。

- 燃料
- 油脂類（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイル、パワーステアリングオイルなど）
- 冷却水
- ブレーキ液
- ウォッシャー液
- エアコンディショナーの冷媒

点検や整備、修理のときは、必ず Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用してください。

詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

指定品以外のオイル・液類を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

燃料

警 告

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

警 告

燃料が皮膚や衣類に触れないように注意してください。

燃料が皮膚に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に悪影響を与えます。

燃料タンク容量

燃料タンク容量	約 66 ℓ
警告灯点灯時の残量	C 63 AMG を除く車種：約 8 ℓ
	C 63 AMG：約 14 ℓ

軽油を給油しないでください。少量でもガソリンと軽油が混じると燃料系部品やエンジンを損傷するおそれがあります。

指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。指定以外の燃料を使用して故障が発生したときは、保証の適用外になります。

燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の適用外になります。

燃料消費について

環 境

CO_2（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の大きな原因となります。

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検・整備を行なうことにより、CO_2排出量を最小限に抑えることができます。

以下のような状況では、燃料をより消費します。

- 気温が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短い距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行するとき

エンジンオイル

! エンジンオイルは、使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給もしくは交換してください。

エンジンオイル容量

車種	容量
C 180 C 250	約 5.5 ℓ
C 63 AMG	約 8.5 ℓ （外部オイルクーラー分を含む）

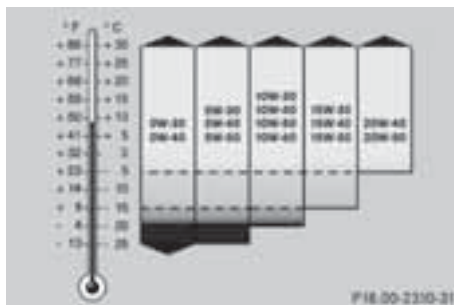
i 容量は、オイルフィルター分を含む交換時の数値です。

添加剤

! エンジンオイルには添加剤を入れないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルの交換については、別冊「整備手帳」を参照してください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

! オートマチックトランスミッションオイルに添加剤を使用しないでください。トランスミッション内部の摩耗が進んだり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の適用外になります。

! オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ブレーキ液

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換をしてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

指定品目	純正ブレーキ液
規格	DOT 4 プラス規格

⚠ **警 告**

ブレーキ液を補給するときは、ゴミや水分がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、過酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロックとは、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

冷却水

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

また、冷却水の補給が必要なときは必ず指定品を使用して補給してください。

⚠ **警 告**

冷却水は可燃性の高い液体です。冷却水を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙しないでください。

冷却水をエンジンルームにこぼさないでください。発火するおそれがあります。

不凍液の濃度

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域の最低気温によって濃度を変えます。

不凍液混合率	凍結温度
約 50%	− 37℃
約 55%	− 45℃

! 不凍液の濃度は約 50% から約 55% の間にしてください。濃度を約 55% 以上にすると、冷却性能が低下します。

ウォッシャー液

⚠ 警告

ウォッシャー液は可燃性の高い液体です。ウォッシャー液を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙しないでください。

! ヘッドライトには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

! ウォッシャー液に、蒸留水や脱イオン水を混ぜないでください。液量のセンサーを損傷するおそれがあります。

ℹ ウォッシャー液には夏用と冬用があります。夏用には油膜を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウインドウウォッシャー液とヘッドライトウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

バッテリー

車載バッテリーの電圧 / 容量

電圧	12V
容量	62Ah / 74Ah / 80Ah / 84Ah / 95Ah

※ バッテリーの容量は、予告なく変更されることがあります。

ビークルデータ

積載荷物の制限重量

ルーフ	100kg
トランク	100kg

ℹ ルーフの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

トランクを開いたときの高さ

① トランクを開いたときの高さ

トランクをいっぱいまで開いたときの高さは、以下のようになります。

①	1654 ～ 1669mm

ℹ タイヤ、積載荷物、オプション装備品やサスペンションの状態などにより、数値が異なります。

タイヤとホイール

! タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ABS や ESP® などの装備は、純正品および承認された製品を使用することで効果が発揮されます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、安全性の保証はできません。

! 純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、車両操縦性や騒音、燃料消費などに影響を与えるおそれがあります。また、指定されたサイズ以外のタイヤやホイールを装着すると、フェンダーの内側やサスペンションなどに接触し、車やタイヤを損傷するおそれがあります。

! 再生したタイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

! 大径ホイールを装着したときは、路面状況が悪いときに乗り心地が悪くなることがあります。また、障害物を乗り越えたときの快適性も低下し、ホイールやタイヤを損傷する危険性も高まります。

! タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なる車種は、タイヤローテーションを行なわないでください。

i 燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷262 ページ）。

i 左右には必ず同サイズのタイヤ / ホイールを装着してください。

i 標準タイヤとウィンタータイヤなど、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

i タイヤやホイールに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

標準タイヤ

車種		タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
C 180	前後輪	195/60R16	6.0J × 16	39mm
C 180 AMG スポーツパッケージ C 250	前輪 後輪	225/40R18 255/35R18	8.0J × 18 8.5J × 18	50mm 54mm
C 63 AMG	前輪 後輪	235/40R18 255/35R18	8.0J × 18 9.0J × 18	45mm 54mm
C 63 AMG パフォーマンスパッケージ	前輪 後輪	235/35R19 255/30R19	8.0J × 19 9.0J × 19	45mm 54mm

オプションまたは仕様により、以下のタイヤ / ホイールが装着される場合があります。

	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
前後輪	195/60R16	6.0J × 16	39mm
前後輪	205/50R16	7.0J × 16	43mm
前後輪	225/50R16	7.5J × 16	53mm
前後輪	225/45R17	7.5J × 17	47mm
前輪 後輪	225/45R17 245/40R17	7.5J × 17 8.5J × 17	47mm 58mm
前後輪	225/40R18	7.5J × 18	47mm
前輪 後輪	225/40R18 245/35R18	7.5J × 18 8.5J × 18	47mm 58mm
前輪 後輪	225/40R18 255/35R18	7.5J × 18 8.5J × 18	47mm 54mm
前輪 後輪	225/40R18 255/35R18	8.0J × 18 8.5J × 18	50mm 54mm
前輪 後輪	235/40R18 255/35R18	8.0J × 18 9.0J × 18	45mm 54mm
前輪 後輪	235/35R19 255/30R19	8.0J × 19 9.0J × 19	45mm 54mm

! タイヤサイズ 245/40R17、245/35R18、255/35R18、255/30R19 の標準タイヤには、スノーチェーンを装着できません。

ウィンタータイヤ

車種		タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
C 180	前後輪	195/60R18	6.0J × 16	39mm
C 180 C 180 AMG スポーツパッケージ C 250	前後輪	225/50R16	7.5J × 16	53mm
	前後輪	225/45R17	7.5J × 17	47mm
	前後輪	225/40R18	7.5J × 18	47mm
	前後輪	225/40R18	8.0J × 18	50mm
C 63 AMG	前後輪	225/40R18	8.0J × 18	45mm
	前後輪	235/40R18	8.0J × 18	45mm
	前輪 後輪	235/40R18 255/35R18	8.0J × 18 9.0J × 18	45mm 54mm

! タイヤサイズ 235/40R18、255/35R18 のウィンタータイヤには、スノーチェーンを装着できません。

i ウィンタータイヤのサイズは Daimler AG が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、表記のサイズに対応していないことがあります。

i スノーチェーンはウィンタータイヤの後輪に装着することができます。

i ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

応急用スペアタイヤ

! 応急用スペアタイヤにスノーチェーンを装着しないでください。

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	空気圧
C 180 C 250	T 125/90R16	3.50B × 16	20mm	4.2bar/ 61psi/ 420kPa
	T 125/80R17	3.50B × 17		
C 63 AMG	T 125/70R18	3.50B × 18		

対象モデル

C 180 BlueEFFICIENCY Coupé
C 250 BlueEFFICIENCY Coupé
C 63 AMG Coupé

※この取扱説明書の内容は、2011 年 11 月現在のものです。